第Ⅶ章　ま　と　め

1　縄　文　時　代

A　遺　　構

1）六反田南遺跡Ⅱの住居

概　　観

下層の調査では、縄文時代中期中葉を主体とした集落を検出した。竪穴住居４軒、竪穴建物４基、土坑７基のほか数十基のピットで構成され、掘立柱建物や平地住居はない。これらは南西 - 北東方向に延びる微高地上でのみ検出された。竪穴住居及び竪穴建物は、一見すると２～３棟で一単位を成しているようだが（SI1J ～ SI3J、SI4J ～ SI6J、SI7J・SI8J）、建物同士が非常に近接して建っており（SI1J と SI2J、SI4 ～ 6J）時期差がある可能性もある。そこで、住居覆土出土土器の接合関係を見ると（図版 5）、SI5J の炉体土器２（23a・b）は、胴部が SI4J・SI6J 出土のものと接合関係にあることが分かり（23b）、SI4J ～ SI6J は同時存在または同時に埋没した可能性が推察される。また、集落全体で見ると、SI1J と SI8J 出土深鉢（2・40 ～ 43）、SI1J と SI5J 出土深鉢（16）が接合関係にある。これらを勘案すると、少なくとも SI1J・SI4J ～ SI6J・SI8J は同時存在または同時に埋没した可能性が推察され、集落内の住居に時期差があったとしても大差ないものと考えたい。これらの住居は、馬の背状の微高地上に連なるように立地し、環状や馬蹄形をなさない。さらには遺物量が少なく、また良質のヒスイ原石は出土したものの大珠はない。これらのことや後述するように遺跡が長期間存続したものではないであろう点を考慮すると、長者ヶ原遺跡や寺地遺跡など拠点的集落［寺﨑 1994］とは性格の異なる遺跡と言える。

住　居　形　態

本遺跡の住居は、「竪穴住居」と定義した炉を有する SI1J・SI2J・SI4J・SI5J、「竪穴建物」と定義した炉を有しない SI3J・SI6J ～ SI8J に大別される。ただし、竪穴建物は炉跡がない以外にも柱穴が検出されない、床面が平坦ではないなど、「住居」に準ずるものと仮定するには課題も多く残されているのが現実である。平面形は、SI1J・SI4J が隅丸方形を呈するほかは、楕円形を呈する。柱穴は、配置や柱穴自体が不明確な住居が大半を占めたが、その中でも SI1J･SI4J では、品田高志氏が提唱する「主柱五本形式住居」［品田 1998］に比類する住居が確認できた。関東地方では中期初頭から後葉にかけて安定した比率で普及した住居で、北陸地方でもその数は少ないながらも分布しているという。SI1J・SI4J の主柱穴は、主に北陸系土器文化圏に見られる類型で将棋の駒形を呈した C 類型（仮称北陸型）［品田 1998］に分類できる。

これに関連して氏は、「夏冬集落の想定」［品田 1996］をしている。越冬の可否によって夏集落と冬集落に大別できるとし、夏集落と仮定する根拠には平地住居で構成されること、炉跡がほとんど検出されないこと、柱穴の法量が矮小であること、貯蔵穴がないことなどを挙げ、冬集落はこれと相対するものとしている。本遺跡の住居の掘り込みは約 10 ～ 25㎝と浅く、住居内で検出されたピットは長軸平均 25.5㎝、

深さ平均 13.5㎝と小規模で貯蔵穴と呼べるものはなく、炉を有しない竪穴建物が検出されている。また遺物量もさほど多くはなく、集落の規模も小規模であり、前述のように建物同士の時期差は大差ない可能性がある。これらの事象は季節的集落とは言い切れないまでも、短期的集落である可能性を満たしうる要因となろう。

炉　　跡

炉跡は、前述したように「竪穴住居」と定義した SI1J・SI2J・SI4J・SI5J から検出された。4 つの扁平礫を方形に組んだ石囲炉に、掘り込みや敷石が伴うもの（SI1J・SI4J）、石囲炉と 2 体の埋設土器を組み合わせたもの（SI5J）、深鉢片を敷き詰めた土器敷炉（SI2J）の 3 種があり、前者 2 種は複式炉状の形態をとる。北陸中期における炉の形態変遷については、前葉～中葉の初め頃までは地床炉が主流、中葉～後葉にかけては石囲炉が盛行し、複式炉が出現するのは後葉の古い段階であるとされる［山本 1987］。県内における複式炉は、信濃川流域で大木 8b 式新～大木 9 式古段階並行期にかけて「プレ複式炉」と呼称されるものが初現と考えられ、前段階の「長方形石組炉」から派生したものと理解されている［阿部 1999］。ここでいう「プレ複式炉」は長方形の平面形を基調とし、石組部端部に小型円形石組が付属するもの、同端部を境石で区切るもの、「舟形」を呈し炉体土器を有するものなどを指し、東北地方北部・新潟県中・下越地方を中心に分布する。ここで複式炉状の形態をとる SI1J･SI4J･SI5J 炉を考えると、これら「プレ複式炉」とは形態を異にしていることが分かる。また炉体土器、住居覆土出土土器から時期を比定すると、中期中葉の第Ⅱ群土器（上山田・天神山式、大木 8a 式並行期）が出土しており、県内で複式炉が出現するとされる大木 8b 式期までは下らない。SI1J・SI4J・SI5J 炉は、周知の複式炉とは形態を異にし、また複式炉としては出現が若干早出である。しかし、炉の機能面から見ると SI1J 炉の石囲部と SI5J 炉の炉体土器 1 に激しい被熱痕が認められたことから、燃焼部とそうでない部分とに使い分けをしていた可能性が高い。このことは、「複式炉の主炉は燃焼部としての機能を持ち、副炉は灰の一時的貯蔵部である」［橋本 1973、西川 2006］とされることに類し、SI1J･SI4J･SI5J 炉は複式炉に準じた機能を有していたことがうかがえよう。

2）六反田南遺跡Ⅱと周辺の集落遺跡

縄文時代中期における糸魚川地域の集落遺跡との関係を検討し、本遺跡の集落の性格について考察する。

現在、発掘調査された糸魚川市内の縄文中期集落遺跡には、長者ヶ原遺跡･五月沢遺跡･三屋原 B 遺跡、寺地遺跡（旧青海町）、十二平遺跡･平畑遺跡（旧能生町）等がある。長者ヶ原遺跡が立地するのは、「長者ヶ原面」と呼称される標高 90 ～ 110m の最上位段丘上である。この段丘上には長者ヶ原遺跡を取り巻くように中期前葉～中葉頃の小規模遺跡が群在しており、五月沢遺跡、三屋原 B 遺跡も同段丘上に立地している。一方、六反田南遺跡は海川右岸の中～低位段丘である糸魚川段丘・西川原段丘・西中段丘を中心に分布する遺跡群に属し［寺崎･水落 2009］、特に本遺跡は標高の低い沖積段丘（標高 3.5 ～ 4.5m）に立地する。

長者ヶ原遺跡は、遺構数・遺物出土量など周辺遺跡とは桁外れの規模を誇る。遺跡は一部のみの発掘であるが、南北 600m 東西 200m の範囲に広がり、住居跡は 250 軒～ 300 軒に達するものと予想されている。集落は環状もしくは馬蹄形集落と推定され、現在までに前葉から後葉の竪穴住居が 24 軒、掘立柱建物 2 棟が検出されており、そのほとんどは中葉に属する。竪穴住居は、住居の建て替え・重複が著しく、土層が撹乱されて掘り込み自体確認はできないが、炉跡のみ検出された住居や、調査区外に延伸するものが大半を占め、完掘されたのは 7 軒のみである。竪穴住居の平面形は円形や楕円形を呈し、炉は地床炉と石囲

炉が認められるが、複式炉はない。建物の規模は本遺跡程度のものから、長径7m弱のやや大型のものも認められる。長者ヶ原遺跡は、ヒスイ原石や同製品、蛇紋岩製磨製石斧や同未製品、多種多様な工具類など玉作関係資料が数万点にわたり出土した一大生産遺跡であり、玉類と磨製石斧は全国各地に流通している。また、遺構の重複が激しいことや膨大な遺物出土量からも明らかであるように、長期定住集落である。当地域をはじめ、同じくヒスイ産出地である富山県北東部一帯をも包含する突出した規模を誇る拠点的集落である。そのほか長者ヶ原面には、初頭の五月沢遺跡、前葉の三屋原遺跡があり、竪穴住居がそれぞれ3軒確認されている。いずれも後続する長者ヶ原遺跡を取り巻く遺跡群の一つとして注目される。

寺地遺跡は標高8～9mの比較的低い台地上に立地しており、本遺跡との標高差は約3～4mほどである。また、海岸からの距離が450m程度であるなど、立地は本遺跡と類似点が多い。長者ヶ原遺跡同様、玉作遺跡であり、ヒスイ製玉類や蛇紋岩製磨製石斧の工房跡と考えられる住居（第1号住居址）や、それに関連してヒスイ原石、ヒスイ製玉類や蛇紋岩製磨製石斧・同未製品・各種砥石類、敲石などが出土している。遺跡の一部のみの発掘ではあるが遺物量が多く、当地域の中核的な集落として評価されている。中期の住居は5軒検出され、うち5･6号住居址は中葉に属する。平面形は円形で中央に方形の石囲炉を有し、地山から20～30cm掘り窪めたところが床となる。石囲炉の規模と形態は本遺跡のSI1J・SI4Jのそれに類似しており、1辺5.5m前後で方形を呈する。しかし、本遺跡のように炉内に扁平礫を敷いたり、付帯施設を設けることはない。5・6号住居址以外は後葉に属するが、炉の形態は、一貫して方形の石囲炉であり、複式炉はない。1号住居址は玉作工房址と目されている。本遺跡ではSI6Jよりヒスイや蛇紋岩の剥片、蛇紋岩製磨製石斧や同未製品などが多く出土しており、注目される。しかし、SI6Jは、寺地遺跡のような工作ピットなどの施設はなく、また炉もピットも検出されない「竪穴建物」である。

幾筋かの山谷を経て、本遺跡から10㎞ほど東方には拠点的集落に相当すると考えられる旧能生町十二平遺跡が存在する。中葉の遺物が主体的に出土し、竪穴住居が23軒、掘立柱建物が1棟検出されたが、

立地	遺跡名	遺構名	平面形	規模（m）	炉跡		主柱穴（本）	深さ（cm）	時期	備考
					形態	規模（cm）				
姫川右岸河岸段丘上	長者ヶ原遺跡	10号住居跡	楕円形	3.5×6.1	地床炉		5		前葉	
		1号住居跡	円形	5.2×4.6	石囲炉	90×60前後	多柱穴		中葉	
		11号住居跡	楕円形	5.6×8.0	石囲炉	120×30		40	中葉	テラスあり
		16号住居跡	円形	3.1×3.5	地床炉		5	約30	中葉	テラスあり
		23号住居跡	楕円形	3.8×3.2	地床炉・埋設土器		3	約50	中葉	テラスあり
		19号住居跡	円形	6.8×6.2	地床炉？		多柱穴	約60	中期後半	彫刻石棒出土
		20号住居跡	円形	6.7×6.5	石囲炉（方形）	80×80前後	6	30～50	後葉	埋甕2基
	三屋原B遺跡	SI08	隅丸方形	3.6×4.4				10	前葉	炉跡・柱穴なし
		SI17	不整円形	3.5×2.7			13	45	前葉	壁柱穴か
		SI26	隅丸方形	3.0×3.0				10	前葉	遺存状態不良
	五月沢遺跡	1号住居址	楕円形	7.0×5.0	地床炉	直径40	多柱穴	10～15	初頭	
		2号住居址			地床炉	直径30～40		5	初頭	遺存状態不良
		3号住居址	楕円形	10×4.2	地床炉	3箇所あり		25	初頭	
姫川左岸台地上	寺地遺跡	5号住居址	円形？	6.0×6.0	石囲炉（方形）	60×56		30	中葉	
		6号住居址	円形？	3.5×3.5	石囲炉（方形）	54×51		18	中葉	
		1号住居址	円形	5.2×4.9	石囲炉（方形）	85×75	6	30	後葉	玉類生産工房
		3号住居址	楕円形	4.0×3.1	石囲炉	60×45		15	後葉	貼床
		7号住居址	楕円形	(5.5×4.9)	石囲炉（方形）	(55×35)		8	後葉	遺存状態不良
能生川左岸河岸段丘上	十二平遺跡	SI3		4.4×5.1	石囲（長方形）	90×50	4	40～50	中葉	炉内土器埋設
		SI5	隅丸方形	5.1×4.3	石囲（方形）	65×55	5	16	中葉	炉内土器埋設
		SI8			石囲炉（方形）	54×42			中葉	遺存状態不良
		SI9						30	中葉	調査区外に延伸
		SI252			地床炉	110×60			中葉	遺存状態不良
		SI2	隅丸方形	4.6×5.3	石囲複式炉	117×76	4		後葉	
		SI205			石囲炉				後葉	遺存状態不良
		SI278					7		後葉	調査区外に延伸
台地上	平畑遺跡	1号住居	不整円形	3.5×3.5				20	前葉	遺存状態不良

第26表　周辺遺跡の住居形態

確実に該期に属するのは、竪穴住居は5軒である。中葉の竪穴住居の炉には、地床炉、石囲炉があり、炉が検出されない住居址も存在する。SI5J・SI8Jの石囲炉は四方を長楕円礫で組む形態で、本遺跡の石囲炉に類似するが、寺地遺跡同様に本遺跡のような複式炉状の形態はとらない。さらにSI5Jは5本主柱穴であり、本遺跡SI1Jとは炉形態、主柱穴本数で共通している点は注視したい。後葉に入ると石囲炉のほかに複式炉が出現する(SI2J)。本地域における複式炉の初現的段階(「プレ複式炉」)に位置付けることができる。

以上、六反田南遺跡とその周辺の集落遺跡について、集落の性格や住居形態などを中心に概観した。当地域における中期の住居形態は、平面形が円形や楕円形を主体とし、大型のものは存在せず、掘り込みの深さも壁から床面まで20㎝前後のものが大半を占める。本遺跡においても例外でなく、この事象を追認できる。さらに、炉は前葉には地床炉、中葉には石囲炉が主流となり、大木8b式並行期には複式炉が出現するなど、炉の変遷は県内における変遷と相違ない。このことは、複式炉状の形態をとる本遺跡のSI1J･SI4J･SI5Ｊの炉が極めて初現的な複式炉であることを示唆しており、今後、類例が待たれる。なお、主柱穴本数に関しては不明瞭なものが多く、傾向を導き出すに至らなかった。

本遺跡と同時期の長者ヶ原遺跡、寺地遺跡、十二平遺跡は、それぞれの地域における拠点的集落または中核的な集落である。また長者ヶ原遺跡、寺地遺跡は、各種石材に富む糸魚川地域において玉作を行う生産遺跡であり、本遺跡からも玉作関係資料が多数出土している。しかし、長者ヶ原遺跡や寺地遺跡とは対照的に遺物量は少なく、遺構の重複も認められないことから、短期的な集落であった可能性がある（本章１－Ａ－１）で詳述)。これらを鑑みると、ヒスイや蛇紋岩の原石の供給も比較的容易であった海岸低地へ、山間・台地上から移動し、六反田南遺跡を選地した背景を推察できる。しかし、この推察を困難にするのが本遺跡出土の第Ⅱ群Ｂ類東北系土器の存在である。本章Ｂ－２）で詳述するが、在地の影響がほとんど認められない東北系土器そのものが出土しており、注意される。同時期に存在した長者ヶ原遺跡などとは切り離して考えることはできないが、東北系土器を持った別集団の存在も想定できはしないだろうか。

このことは、現段階においては仮説でしかない。しかし当地域では段丘が沖積面下に潜り込んでいる可能性が指摘されており［寺崎・水落2009］、今後本遺跡のように海岸部付近の沖積低地において縄文遺跡が発見されれば、さらなる様相の解明が期待される。

Ｂ　遺　　物

1）六反田南遺跡の土器様相

主体を成すのは第Ⅱ群A1類、中期中葉の上山田・天神山式またはその系統をひく土器である。当遺跡が存在する糸魚川市は新潟県の最西端にあたり、大字市振で富山県と境を接する。したがって、土器文化も石川県・富山県のいわゆる北陸土器文化圏に包含される部分が大きく、当遺跡を含め長者ヶ原遺跡や寺地遺跡など周辺の遺跡でも北陸系の出土率は高い。

しかし、北陸西部で出土する典型的な「上山田・天神山式」と呼べるものは、当遺跡では78のみにとどまり、6･79･102などはその要素は含むものの、越後的要素を多分に含んでいると言える（破片は除外)。それは、口縁部と胴部を画す隆帯及び隆線が存在すること、それに伴い文様が横方向のモチーフで構成されることに求められ、「火炎土器様式」の影響が及んでいることを暗示している。上山田・天神山式の分布圏が「糸魚川長者ヶ原遺跡を東限として馬高式に重なり、西半は南加賀一円」［高堀1986］とされるように、当地域はちょうど両型式の境界に当たる。当地域に接する富山県朝日町境Ａ遺跡［狩野1991］の土器を概観しても、やはり横位文様を展開するような越後的要素を持つものが定量認められる。これらの

ことは、上山田・天神山式に越後的要素を含む（折衷）土器が存在するという、地域的な特色を示唆していよう。「頸部に横位区画が施されると越後の土器となり」［寺崎 2004］とされるいわゆる「越後系」が、本遺跡では第Ⅱ群 A1c 類の 27・28 などにあたり、SI4J・SI5J においてはこれらが共伴している。このほか、第Ⅱ群 A 類に関しては、台付鉢の個体数が非常に少ないこと、文様モチーフは右下がりが主流とされることに対し、左下がりであることなど、当遺跡としての特色も散見できる。

第Ⅱ群 A 類土器に次ぐ出土量を示すのは、第Ⅱ群 B 類の東北系である。第Ⅱ群 B1 類円筒上層 d 式(14)は、口縁部に一部違和感があるものの、作りや施文技法は東北地方北部で出土する円筒上層 d 式そのものであるとの指摘がなされた。特に、粘土の混和材として黒曜石を使用することは男鹿市大畑台遺跡［磯村・児玉ほか 1979］でも見られ、特徴的である。さらに、第Ⅱ群 B2a・b 類（34・40 ～ 43・118 など）の大木 8a 式も東北地方で出土するものと類似点が多く、特に 40 ～ 43 の胴部文様モチーフや作りは、東北地方北部で出土するものと相異ないという。なお第 66 図は、40 ～ 43 の破片を組み合わせた復元模式図である。信濃川流域などで出土するような第Ⅱ群 B2c 類の 36・125 などとは、一線を画している。これらのことを鑑みると、東北地方、特に北部方面から当遺跡（地域）へヒトやモノ（土器）の直接的交流があったことが示唆される。事実、大畑台遺跡においても北陸系土器が定量確認でき、相互に関係していた背景が浮かび上がる。一方、石器は交流の痕跡が確認できず在地的な石材、組成を示すのみにとどまった。

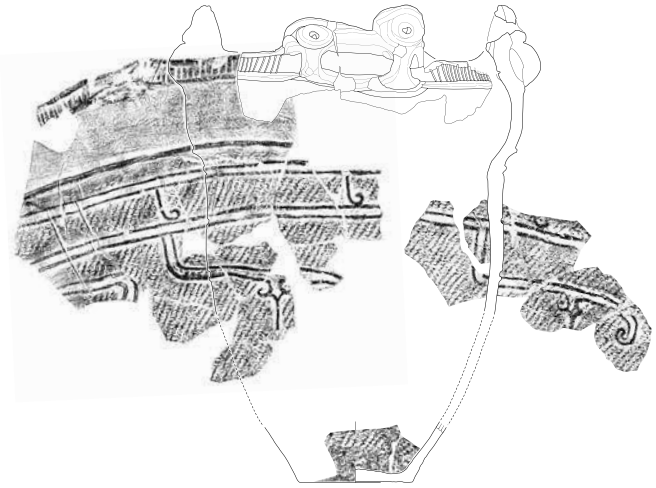
このほか、Ⅶ層からは前葉の第Ⅰ群 A1 類の新保・新崎式や同 C 類の中部高地系、中葉の第Ⅱ群 C 類の勝坂式などが出土している。第Ⅱ群土器が北陸系のほか東北系も定量出土しているのに対し、第Ⅰ群土器は概ね北陸系で占められ、東北系は確認できない。第Ⅱ群 C 類の勝坂式に関しては、1 個体分の破片が出土したのみである。県内では上越市山屋敷Ⅰ遺跡［寺崎 2003］、長岡市馬高遺跡［長岡市 1992］、塩沢町五丁歩遺跡［高橋保ほか 1992］で確認されている程度で、希少資料となる。第Ⅰ群と第Ⅱ群は同一層での出土となるが、第Ⅳ章 2 で考察したように、両者の出土傾向には差異があり、主に第Ⅰ群土器が流路 1 及びその以東、第Ⅱ群土器が集落の存在する流路 1 以西からの出土となる。流路 1 以東は標高 3.4 ～ 3.7m と集落が存在する微高地より低く、また立木が散見されるなど、集落域とは様相が異なる。しかし、SX75J から石棒が出土したことを鑑みると、調査区以南に集落が展開する可能性も無視できないだろう。

第Ⅲ群その他の土器に関しては、第Ⅲ群 a 類の、頸部に縄文原体の側面圧痕を持つ土器群（139 ～ 150）が、定量存在することを確認した。圧痕以下、胴部に縄文のみを施す本類のような例は、新潟県全域や富山・石川方面にもその分布が知られている。しかし、型式設定や編年体系には組み込まれておらず、いわゆる粗製土器の類として扱われていることが多い。本類が、縄文時代中期前葉～中葉の土器と共伴することは、周辺地域の出土例を見ても明らかである。縄文原体の押圧による施文は、大木 7b 式に特徴的に用いられる技法であり、したがって東北的要素が多分に強い土器ではないかと推察される。しかし、十三菩提式や五領ヶ台式にもこの技法が追認できることを考慮すると、検討の余地がある類型であり、その分布なども含め今後の課題である。長者ヶ原遺跡第六群第二類土器［糸魚川市教育委員会 1964］、寺地遺跡第 5・6 号住居址［寺村ほか 1987］でも同類型が出土している。

2）六反田南遺跡の東北系土器

前項でも触れたように本遺跡の第Ⅱ群 B 類の東北系土器は、東北地方北部で出土するものとほぼ相違ないものとの指摘を受けた。個々の詳細は第Ⅳ章 2 と前項に委ねるが、特に第Ⅱ群 B1 類の円筒上層 d 式の土器（13）は、現段階の本州最西端の出土例となり、注目に値する。本遺跡の東北系土器は、40 ～ 43

が出土したSI8JやSI7Jを中心に集落部に分布する。さらに第26表は図化し得なかった土器片に施文された縄文原体を観察し、無節・単節・複節・無文の4種に振り分け集計したものである。なお縄文以外の施文及び不明なものは除外した。これを見ても東北系と目される複節斜縄文を有する土器片はこのエリアでのみ出土しており、分布が偏っていることがわかる(第27表)。このことや、第Ⅱ群B類が東北地方で出土する土器そのものの要素を有することなどを考慮すると、第Ⅱ群B類土器を持った在地以外の別集団の可能性を想定することもできよう。本遺跡の東北系土器は東北地方との直接的な交流を示す資料として意味深く、長者ヶ原遺跡を始め周辺遺跡ではうかがえない事象である。ここに、本遺跡の特徴の一つが見出せる。



第66図　大木8a式土器接合復元図

縄文原体	B区	C区		D区	合計（個）	割合（%）
	54～46グリッド	45～41グリッド	40～38グリッド	37～33グリッド		
無節	1	4	0	0	5	1.05
単節	36	290	11	47	384	78.36
複節	0	22	0	0	22	4.69
無文	10	60	3	5	78	15.90

第27表　縄文原体別出土比率（実測外遺物）

C　石　　器

1）各地区の石器群の様相

本遺跡は調査区が東西に長く、様々な地形的環境が認められる。その環境の違いで、第Ⅳ章1－C、2－Cでは、3つの地区に分け記載した。ここでは、まず各地区の石器群の様相をまとめる。各地区の石器組成は第67図のとおりである。

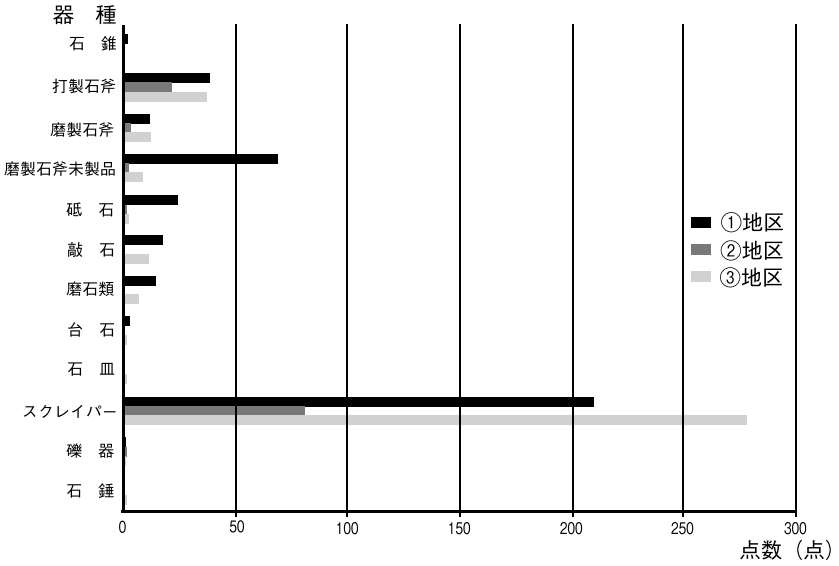
①地区（43～46グリッド）

第Ⅶ章Aのとおり、①地区は集落である。組成では、石錐、打製石斧、磨製石斧、磨製石斧未製品、敲石、磨石類、砥石、台石、スクレイパー、石核、黒曜石剥片、ヒスイ剥片等がある。特に磨製石斧未製品、敲石、砥石など磨製石斧の製作に伴う石器や、ヒスイの剥片が目立つ。磨製石斧未製品は、原石から研磨段階に至る資料が認められ、磨製石斧の製作を行っていたことが明らかである。ヒスイは原石や剥片が多く、二次加工されたものは非常に少ない。この磨製石斧未製品とヒスイについては、後述したい。

この地区から出土する磨製石斧は、基部だけのものが多い。これが柄の付替時に廃棄されたのかは判然としない。しかし、219・220のような折損面に二次加工しているものも認められることから、刃部再生を行っていた可能性が考えられる。また、わずかだが台石や貝殻状剥片の石核があり、集落内で貝殻状剥片の剥取を行っていたと考えられる。磨石類や石皿が少ないのは、縄文時代中期の集落遺跡では特異であ

る。黒曜石の剥片は、石鏃などの小型剥片石器の製作が考えられるが、下層調査では石鏃などの出土は見られなかった。なお、黒曜石の剥片は①地区にしか認められない。

これらの石器の様相から①地区では竪穴住居を中心として、主に石器製作を行っていたと考えられる。



第 67 図　下層出土石器組成図

②地区（47 ～ 56 グリッド）

集落の西に位置する、土石流由来の礫層が広がる範囲である。この礫層は第Ⅳ章－1－C）で前述したように、縄文時代中期前葉～中葉の段階では露出していたと考えられる。当時の人々が、この礫層を見ながら生活していたと想定される。打製石斧、磨製石斧、スクレイパー等が出土しているが、特に打製石斧が多い。そのほかの石器は、ほとんど見られない。打製石斧の刃部形状は 1 類のものが多い。また他地区のものと違い、磨滅痕など面的な使用痕を持つものがほとんど見られない。

この地区の礫層中には、石器石材になる硬質な砂岩が含まれている。硬質な砂岩は本遺跡出土の打製石斧や貝殻状剥片に多く見られるものであり、その石材の採集を目的に活動していたとも考えられる。

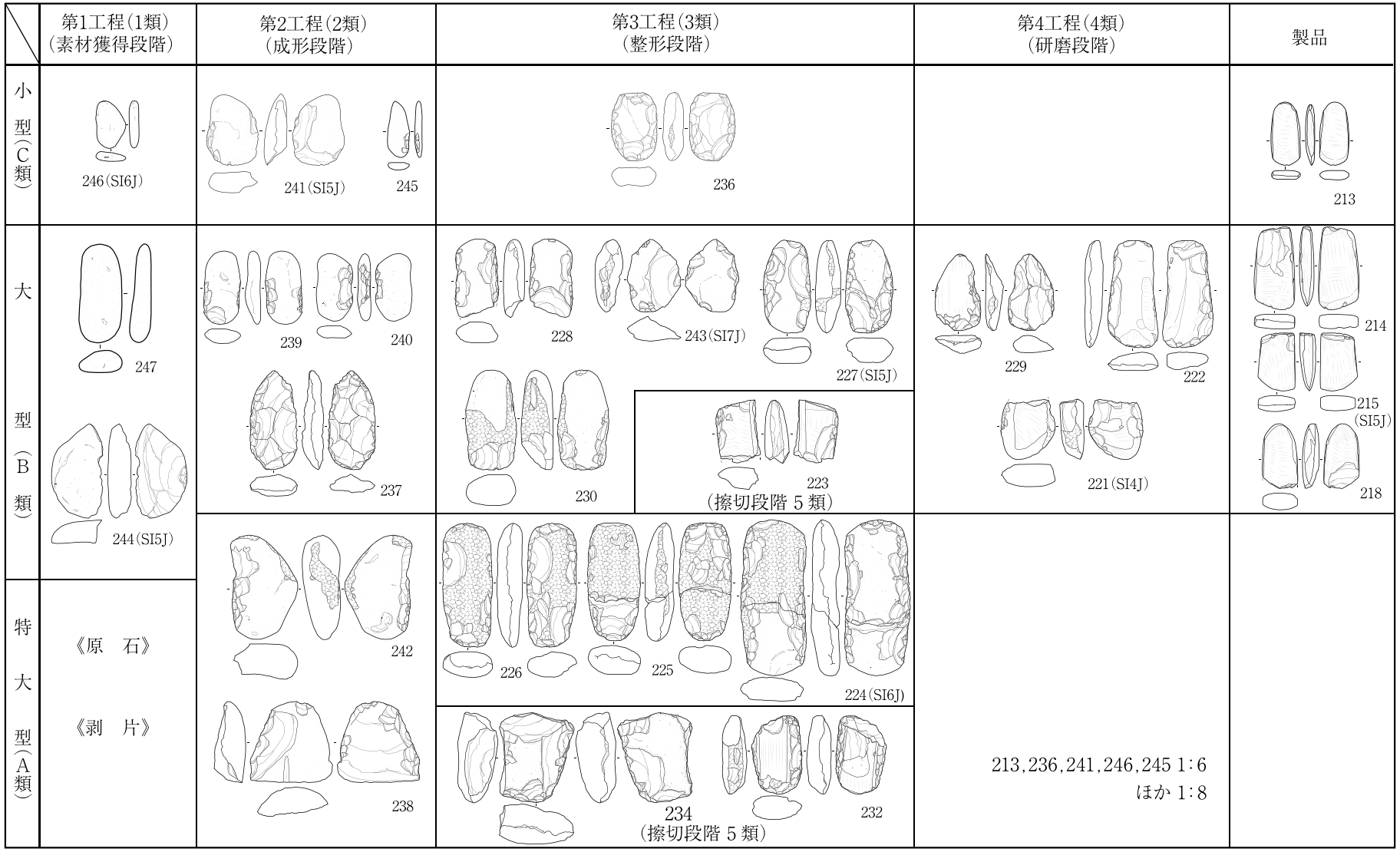
③地区（24 ～ 40 グリッド）

集落から東に位置する、低湿地と考えられる範囲である。打製石斧、磨製石斧、磨製石斧未製品、敲石、磨石類、スクレイパー、石錘等が出土している。打製石斧は、①地区や②地区に見られた 1 類の刃部形状はなく、さらに面的に磨滅したものが目立つ。磨製石斧は折損し、先端部のみを残すものが多い。磨製石斧未製品は、出土しているが数は少ない。また砥石や敲石も少ない。スクレイパーは他地区に比べて多く、磨滅痕を持つ 3 類が目立つ。わずかだが石錘や石皿など、他地区には見られない石器もある。

2）磨製石斧の製作について

出土した磨製石斧未製品は大きさにより、特大型（A 類）・大型（B 類）・小型（C 類）に分類することができる。ただし、製品になったものが少なく、製品と未製品の大きさが一致しないものもある。製作している磨製石斧の形状は、未製品・欠損品から、すべて「短冊形」と考えられる。さらに、扁平な形状で、側面を明瞭に作り出していることから、すべて「定角式磨製石斧」と考えられる。糸魚川市域出土の磨製石斧の製作復元については、これまで縄文時代早～前期の大角地遺跡［加藤 2006］、縄文時代中～晩期の寺地遺跡［阿部 1987］にて行われている。ここでは、本遺跡の縄文時代中期前葉～中葉における磨製石斧製作工程のあり方を、寺地遺跡の磨製石斧製作工程［阿部 1987］と比較しながら検討したい（第 68 図）。

第 1 工程　素材獲得段階　礫素材は原石の選択、剥片素材は剥片の剥取を行う。ただし、剥片を素材にした磨製石斧はほとんど見られない。この段階で獲得したものが、後の工程に与える影響を考えると、素材選択は最も重要な段階とも言える。



第 68 図　①地区における磨製石斧の製作工程

第２工程　成形段階（阿部氏の剥離調整段階）　素材に大小の剥離を繰り返して、磨製石斧の大まかな形状を決定する。器面の凹凸が大きい。

第３工程　整形段階（阿部氏の敲打段階）　成形段階で生じた剥離面や側面の稜線を敲き潰すことで、滑らかな形状にする。また、この段階で側面の平坦部を形成する。

第４工程　研磨段階（阿部氏の研磨段階）　砥石で全面を研磨し、滑らかな器面と鋭利な刃部を形成する。

擦切については、寺地遺跡の事例で「剥離調整、敲打調整、研磨との関係は、（製作工程の）進行方向は不明であるが組み合うことを示す。」［阿部 1987］とあるように、一定の作業工程が見られず、目的が判然としていない。しかし、本遺跡では、厚い素材の側面を平坦化するときに用いられることが多い。特に第３工程に組み合わされていることが特徴的である。したがって、本遺跡の擦切は、側面敲打のリスクを軽減する意図があると考えられる。

本遺跡の磨製石斧の製作工程は、原石から製品に至る一連の資料をもとに、上記の４段階に区分することができる。特大型・大型・小型のいずれの大きさでも、おおむね各工程の資料が見られる。しかし、小型については、第２～３工程の資料が少ない。これは小型磨製石斧の製作工程で、この段階を省略していることが理由として考えられる。遺跡内には、蛇紋岩の小型扁平礫が確認されており、これらが小型磨製石斧の素材として想定される。246 のような小型扁平礫は、すでに大まかな磨製石斧の形を呈しており、成形の剥離を加える必要がないと考えられる。また 245 のようにわずかな側面形成（敲打）を加えた後、研磨し、213 のような形状に磨き上げると考えられる。小型の工程では特大型・大型に見られるリスクを伴う作業が少なく、製品になりやすいと言える。

素材となる蛇紋岩は、遺跡から約 200m 北に位置する海岸で容易に採集できる。素材礫の多くはここで採集されたと考えられる。ただし、遺跡に持ち込まれた礫は、小型のものが多く、磨製石斧未製品の大多数を占める特大型・大型の大きさと対応しない。また、第２工程の資料が第３工程に比べて少ないことも目立つ。このことから第１～２工程を海岸で行っている可能性が示唆される。これは製作に伴うリスクを軽減させる上で、効率的と言える。

製作に関する工具では、砥石や敲石が認められた。敲石にはヒスイや蛇紋岩、砂岩、閃緑岩など様々な石材を選択している。この中で磨製石斧の製作に伴う敲石 A 類（多面体敲石）にはヒスイ・蛇紋岩が使用される。砥石には、砂岩が用いられ、形状は大型・薄型などバラエティに富む。器面を円滑化する荒研磨や、刃部形状の整形などの入念な研磨工程を行っていたと推測される。また、擦切に用いる石鋸は、貝殻状剥片を用いたと考えられる。貝殻状剥片は、主にスクレイパーや打製石斧の素材に用いるが、ここにもう一つ利用のバリエーションが認められる。

縄文時代中期における磨製石斧製作遺跡は、周辺地域では糸魚川市長者ヶ原遺跡、寺地遺跡、十二平遺跡、平畑遺跡、井上遺跡、五月沢遺跡、三屋原 B 遺跡、上越市大イナバ遺跡がある。遺跡により出土量の多寡はあるが、礫から製品にいたる製作工程資料が出土しており、規模を問わず磨製石斧製作を行っていたことがうかがえる。本遺跡は、その中で糸魚川地域における一般的な磨製石斧製作のあり方を示す遺跡と位置づけることができる。

3）ヒスイについて

ヒスイは、縄文中期前葉～中葉の時期的背景から、垂玉や勾玉などの装飾具の製作に用いられたものと考えられる。特に同時期の玉作遺跡である長者ヶ原遺跡は、原石から製品にいたる製作が行われている［藤田ほか 1964］。しかし、本遺跡では該当する製品が全く出土していない。下層出土のヒスイは転石や漂石、二次加工痕を持たない剥片が多い。これらは硬玉製玉類の製作工程第Ⅰ・Ⅱ段階［寺村 1987］に位置付けられる。わずかだが、敲打や研磨されたものがあり、次の工程に進行していることも考えられる。

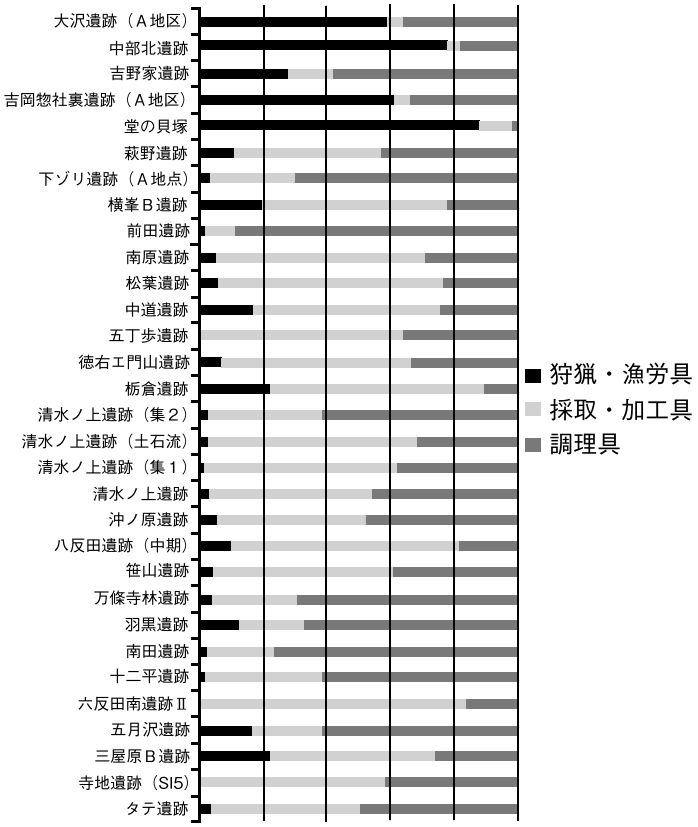
しかし、本遺跡では玉作に用いる筋砥石などの工具が出土していない。またヒスイ剥片は礫面を持つものが多く、形状や大きさも様々である。したがって、主にヒスイの荒割を行っていたと想定できる。ヒスイは蛇紋岩と同様に、遺跡から約 200m 北に位置する海岸で容易に採集でき、多くはこの礫を使用したと考えられる。これを搬出しやすい形状に荒割していた可能性が考えられる。またヒスイ剥片は比較的、白色のものが目立ち、緑色のものは少ない。あるいは緑色の部分を抽出して搬出していることも考えられる。

4）六反田南遺跡と周辺遺跡の石器組成

これまでの項では、地区ごとに記載を行ったが、ここではそれらを統合し、遺跡全体の器種組成を述べる。縄文時代中期前葉～中葉のⅦ層は、全体で 1,480 点の石器が出土した。特にスクレイパーや打製石斧など貝殻状剥片を素材とする石器が多く、全体の約 8 割を占める。石鏃は全く見られず、石錘もわずかに 1 点出土したのみである。また磨石類や石皿などの礫石器が少ないことも目立つ。

第 69 図は、本遺跡の石器組成の特徴を明確にするために、新潟県内における縄文時代中期遺跡との比較を行ったものである。定形石器を狩猟具（尖頭器・石鏃・石錘）、採取・加工具（石錐・打製石斧・磨製石斧・箆状石器）、調理具（磨石類、石皿、石匙）と大別した場合［鈴木 1996］、本遺跡は採取・加工具が 83.6％と多く、調理具が 16.3％、狩猟具は 0.1％以下である。

出土比率から見た石器組成は採取・加工具＞調理具＞狩猟・漁撈具となり糸魚川の周辺遺跡とほぼ同様のあり方を示すと考えられる。本遺跡を含めて糸魚川市域において採取・加工具が優勢となるのは磨製石斧の製作資料が多いためである。これを除けば、中～後期の海岸部における一般的な石器組成と言える。ただし、狩猟・漁撈具が極端に少ないことは、今後の調査成果も含めて検討していかなければならない。



第 69 図　縄文時代中期遺跡器種組成

2　弥生時代以降

A　遺構の様相と遺跡の存続期間

平成19年度に北陸新幹線建設に伴い行った六反田南遺跡の上層の調査では、掘立柱建物2棟、土坑8基、溝39条、道路建物1条、自然流路1条を検出した。遺跡の規模に比して、遺構は多いと言えないが、時代ごとに遺構の様相を概観する。

弥生時代は遺物の出土はあるものの、遺構は検出されなかった。古墳時代に入ると、調査区中央付近を南西から北東へ流れる流路1の東側で古墳時代前期の遺構が認められる（図版18・19）。SD510は東西に流れる長い溝で、幅0.9～3.4m、深さ21～53cm、断面形は台形状を呈する。遺物は大量廃棄されたような状況にはほど遠く、壺や小型器台などが点々と出土した。この溝の北側には不整形な土坑、あるいは土坑状の落ち込みと、長短さまざま溝が認められた。SX180、SK181、SK513では土師器の小片がやや多く出土したが、性格については不明である。複数の溝の多くは、ごく少量であるが当該期の土師器小片が出土している。幅や長さ、主軸方位が様々であり、それぞれが有機的な関係にあったかも判断できなかった。なお、SD510の南側では遺構が認められなかった。水田の可能性も考えられたが、遺構は確認できなかった。SD530は、SD510の東側から延びる細長い溝で、幅0.2～0.38m、深さ15～24cmを測る。遺物は少量の土師器と勾玉が出土した。六反田南遺跡では平成18年度の調査でも古墳時代前期の遺構が発見、報告されている［春日ほか2008］。また、平成20年度に行われた国道8号糸魚川東バイパス用地内での調査でも、遺構が多く検出されている。さらに、遺跡周辺では近年、横マクリ遺跡［渡辺ほか2008］や南押上遺跡［小池2009］、姫御前遺跡［加藤2009］等でも多様な遺構が多く検出されている。これらのすべてが報告され、本遺跡とその周辺地域の集落の様相が明らかになることが期待される。古墳時代中期は前半では流路1から、後半では調査区西側で主に遺物が出土するが、遺構は検出されなかった。

古墳時代後期は調査区西端で多くの遺物を出土したSD605、SD604を検出した（図版16）が、建物などは発見できなかった。続く、古代の建物と考えられるSB1とSB2は、流路1の東岸に位置する（図版18）。建物の時期は明らかにできなかったが、周囲からは8～10世紀の土器が流路1などから多く出土しており、この辺りの時期に構築、利用されたと思われる。六反田南遺跡は、バイパス部分の調査が広く残されており、今後古墳時代後期から古代の遺構、遺物の新しい発見が期待される。

中世以降では調査区西の道路建物とSD603が認められる（図版16）。道路建物は、2本の側溝が確認された。そのうちSD601は、南西から北東方向へ進む長い溝で、幅0.7～2.2m、深さ10～30cm、断面形は弧状を呈する。この溝で注目されるのは、下層に埋められた砂層内に、溝の時期とは明らかに異なる時期の土師器や須恵器が細かく砕かれた状態で多数混在していた点である。SD603は南北にまっすぐ延びる主軸部分と主軸から西側へ延びる複数の枝線からなる。溝内からは複数の時期の遺物が出土したが、主体は16世紀後半以降である。また、大小の礫や自然木も多数認められた。

調査中F区、G区と呼称した調査区東側の広い範囲で、不整な溝状や土坑状の落ち込みが認められたことから、それぞれの落ち込みに複数のトレンチを入れ、規模や層位、遺物の出土状況を確認した。その結果、断面形は浅い皿状や深い不整形状などを呈し、Ⅱ層～Ⅲa層に相当する土層が堆積しており、遺物はほとんど出土しなかった。そのため、これらの多くは遺構でないと判断し、それぞれの範囲を全体写真におさえ、調査を終了した。これらの範囲は長く湿地帯として維持され、周辺から様々な時代の遺物が流

れ込んできたと想定される。また、調査中にＢ区、Ｃ区と呼称した範囲で、Ⅳ層を検出面とする、ピット状の落ち込みを多数検出した。調査中はそれらの多くを遺構と考え調査を行ったが、報告書を作成する段階の検討で、これらのほとんどを自然の落ち込みとの認識に改め、報告外とした（図版15）。

Ｂ　弥生～古墳時代の土器

1）遺跡内の時期別分布

平成19年度に行った調査では、弥生時代から古墳時代の土器が多く出土した。時期は弥生時代中期・後期、古墳時代前期・中期（前半・後半）・後期（以下「時代」を略す）のものがあり、弥生後期のものがやや多く、古墳後期のものが多く出土した。良好な遺構一括資料はなかったが、一遺跡として弥生～古墳時代の各時期のものが定量出土する遺跡は、市内ではあまり多くないと思われる。

これらは時期ごとに分布の中心が異なり、弥生中期のものは調査区東側の26Aグリッドでのみ、口縁部小片１点が出土した。弥生後期は調査区西側のSD605、SD604で、古墳後期の遺物と混在してやや多く出土した。古墳前期は、流路１とその東側の土坑、溝などから出土した他、SD605やSD604からも少量出土している。中期は前半が流路１から、後半が流路１の西側からSD604の間や中世の道路建物の側溝から小破片が出土した。後期は調査区西側のSD605、SD604で多く出土した。以下では今回の調査で多く出土した弥生後期土器、古墳中・後期の須恵器、古墳後期の土師器について、少しずつ検討を行う。

2）弥生時代後期の土器について（図版52～54－484～546・第28表）

今回の調査では弥生後期の土器がやや多く出土した。主な出土地は調査区西側のSD605、SD604で、古墳後期の土器と混在して出土した。糸魚川市内における本時期の土器は、これまで後生山遺跡［大森1986等］と笛吹田遺跡［寺村・安藤・千家ほか1978等］で出土が知られており、県内での後期前半から後期後半の基準資料として度々とり上げられてきた。新潟県における本時期の近年の編年は、滝沢氏により１～２期に区分されており［滝沢2005・2009c］、後生山遺跡からは１～２期、笛吹田遺跡からは２期の土器が出土しているとされている［木島2005］。本遺跡出土土器は滝沢編年の１～２期頃のものがあると思われるが、遺構一括でなく、各器種とも器形全体がわかるものが少ないため、ここでは１～２期頃を古相、新相の２期区分程度にとどめ、同時期の研究で指摘される器形の変化などに注目して、いくつかの土器について編年的位置付けを行いたい。なお、本稿での弥生後期土器の編年対照表は第28表のとおりである。

古　相　　田嶋氏による北陸編年１群［田嶋1986・2007］頃を想定している。甕は付加状口縁の492や近江系の受口甕の502などが、壺は口頸部が大きく外反し、短い口縁部にボタン状貼付文を付す542などがこの段階にあたると考えられる。

新　相　　本稿で掲載した多くがこの段階にあたると考えられる。下馬場編年１期［尾崎2005］、田嶋氏による北陸編年２群［田嶋1986・2007］頃を想定している。甕は口縁部高が高い口縁部に擬凹線文を施す486～489や無文の495などがあたる。壺は有段口縁で、体部が球形の546などがあたる。高杯の520、器台の526、

本　稿	新　潟	上　越	富　山	北　陸		糸魚川市内	北陸型式
	滝　沢 2005・2009c	下馬場 尾崎2005	高　橋 2005	田　嶋 1986・2007			
古　相	1　期		1　期	1　群	Ⅴ－1・2		猫橋式
			2　期		Ⅴ－3	後生山３号住	
新　相	2　期	1　期	3　期	2　群		笛吹田溝Ｃ	法仏式

第28表　弥生後期土器編年対照表

高杯や器台などの脚部の裾部と考えられる527～530などはこの段階のものと考えられる。鉢形高杯と考えられる522や蓋もこの段階のものとしておきたい。543の有孔鉢は、直線的に立ち上がる短い口縁部と内側に突出する口縁端部が特徴で、弥生後期のものとした。周辺での有孔鉢は、横マクリ遺跡［渡邊ほか2008］より古墳前期後半のものが出土しているが、市内全体では報告例が少ない。上越市域では下馬場遺跡において、この段階に併行すると思われる8号住［尾崎2005］から口縁部と体部の境が意識されているものが出土している。

以上のように本遺跡出土例は、後生山遺跡や笛吹田遺跡出土土器と同時期の資料をわずかに追加できた。

なお、弥生後期に続く、古墳時代前期～中期の土師器については、出土量が多くなく、掲載したものも破片資料がほとんどであったため、出土量がやや多かった隣接の国道8号糸魚川東バイパス部分で出土したものと合わせて編年などを検討する予定である。

3）古墳時代中・後期の須恵器について

a　はじめに　－上越地方における古墳時代中・後期の須恵器に関する研究略史－

今回の調査では、調査区西側のSD605、SD604、SD601などから古墳時代中・後期、TK23型式～TK43型式頃の須恵器がややまとまって出土した。糸魚川市内では、田伏遺跡［関ほか1972］からTK47型式～MT15型式頃の杯蓋や杯身が、大角地遺跡［寺村・安藤・千家ほか1979］から中期の杯身や高杯の出土が知られていた。一方、上越市域では、今池遺跡［滝沢2003］、黒田古墳群［尾崎2002］、中島廻り遺跡［小島・川村・笹沢2003］、北割遺跡［品田2003］、南原遺跡［大平2001］、一之口遺跡［鈴木・春日ほか1994］などから古墳中・後期の須恵器が出土している。ここでは、まず上越地方における古墳中・後期の須恵器に関するこれまでの記述を簡単にふれたい。なお、TK208型式・TK23型式・TK47型式…は田辺昭三氏による編年［田辺1981］、Ⅰ型式5段階・Ⅱ型式1段階…は中村浩氏による編年［中村1976］と思われるが、出典が記述されていないものも見られる。

坂井秀弥氏は、昭和50年代までに知られていた出土須恵器の年代について、大角地遺跡出土の杯身、把手付高杯が最も古く、5世紀後半まで遡る可能性があり、田伏遺跡例はこれよりやや新しく、上越市宮口古墳群などの古墳の出土例は、後期群集墳が盛行する6世紀後半から7世紀前半・中葉のものであるとした［坂井1983］。続いて、6～8世紀の黒色土器が出土する遺跡として、田伏遺跡を挙げ、出土須恵器はⅠ－2（？）型式からⅡ－3型式（TK216型式～MT85型式）までの幅があるとした［坂井1989］。

吉岡康暢氏は、昭和50年代までに知られていた北陸地方の初期須恵器（第Ⅰ型式）を集成した中で、大角地遺跡出土の杯身、高杯をⅠ－3（TK208型式）期、田伏遺跡出土の杯身をⅠ－2（TK216型式）期とした。また、村落遺跡における初期須恵器は散発的な出土にとどまり、使用状況を把握し得る事例は乏しく、それは大角地遺跡、田伏遺跡のある北陸北東部でも基本的に同様であるとした［吉岡1984］。

川村浩司氏は、古墳中・後期の須恵器と土師器が共伴する例として大角地遺跡7号住と田伏遺跡出土を挙げ、前者の杯身はⅠ型式3段階を上限としてⅡ型式までは下らない（TK208～TK47型式）とし、後者はⅠ型式2段階（TK216型式）の杯とⅡ型式1・2段階（MT15～TK10型式）のものがあるとした［川村1988］。さらに『新潟県の考古学』［川村1999］では、上越地方の集落跡の出土例として、大角地遺跡7号住出土例をTK208型式前後とし、越後の最古段階の資料とした。また、北割遺跡SK12出土例をTK23型式、一之口遺跡SI113・SI112A・SI79出土例をそれぞれMT15・TK10・TK43型式の例とした。川村氏はまた、上越市の古墳時代の土器を1～16段階に区分した中で、上越地方ではON46～TK208型

式併行とされた10段階頃には須恵器がもたらされていたとした［川村2000］。

このように、糸魚川市域では大角地遺跡と田伏遺跡出土例からTK208型式前後からTK10型式前後の須恵器の存在が知られていた。今回の調査では、両遺跡と同時期の資料をややまとまって追加できたとともに、多くはないものの、さらに新しいTK43型式頃までの資料を加えることができた。

b　六反田南遺跡出土須恵器の編年（第70図）

次に今回出土した須恵器の編年を行う。型式名は田辺編年［田辺1981］によるが、各時期の器形の特徴などは主に石川県の窯跡出土例での検討方法を参考とした［望月ほか1990］。また、ここではMT15型式とTK10型式段階を連結し、MT85はここでは型式名から除外した。なお、破片資料が多いため、各段階とも時期的に前後するものが含まれている可能性がある。

TK23型式段階　　SD601出土の杯身788、高杯790・791、甕792、壺793、甕794が該当するが、前後するものが含まれている可能性がある。

TK47型式段階　　SD605出土の杯蓋745、杯身755・756が該当すると思われるが、745や756はMT15型式段階まで下がる可能性がある。ほかの器種の様相は不明である。

MT15～TK10型式段階　　本遺跡内ではこの段階のものが最も多い。杯蓋はA1類の768、A2類の746～750、A3類の751、B類の752･769が該当する。杯身はB類の757･753･770、C類の758･771があたる。無蓋高杯は760･761がある。760のような有段短脚で、円形透かしが3方ある例は、あまり類例が見られない。764の甕もこの段階のもので、県内では三条市白山遺跡出土例［三条市史編修委員会1981］や荒川町道端遺跡出土例［前川ほか2006］が同時期のものと考えられる。なお、県内での甕の出土は多くないが、TK208型式前後から現れ、TK23～TK47型式段階でも少なからず見られるが、MT15～TK10型式でさらに少なくなり、続くTK43段階で一度途絶え、TK209段階で上越地域を中心として再び少量出土すると考えられる。具体的な事例は今後明らかにしたい。また、広口壺の780、甕の766･785もこの段階のものとしておきたい。

TK43型式段階　　SD604から定量出土している。杯身はC類の772～776、D類の777～779があるが、C類が古く、D類が新しい可能性がある。その他の器種の様相は不明である。

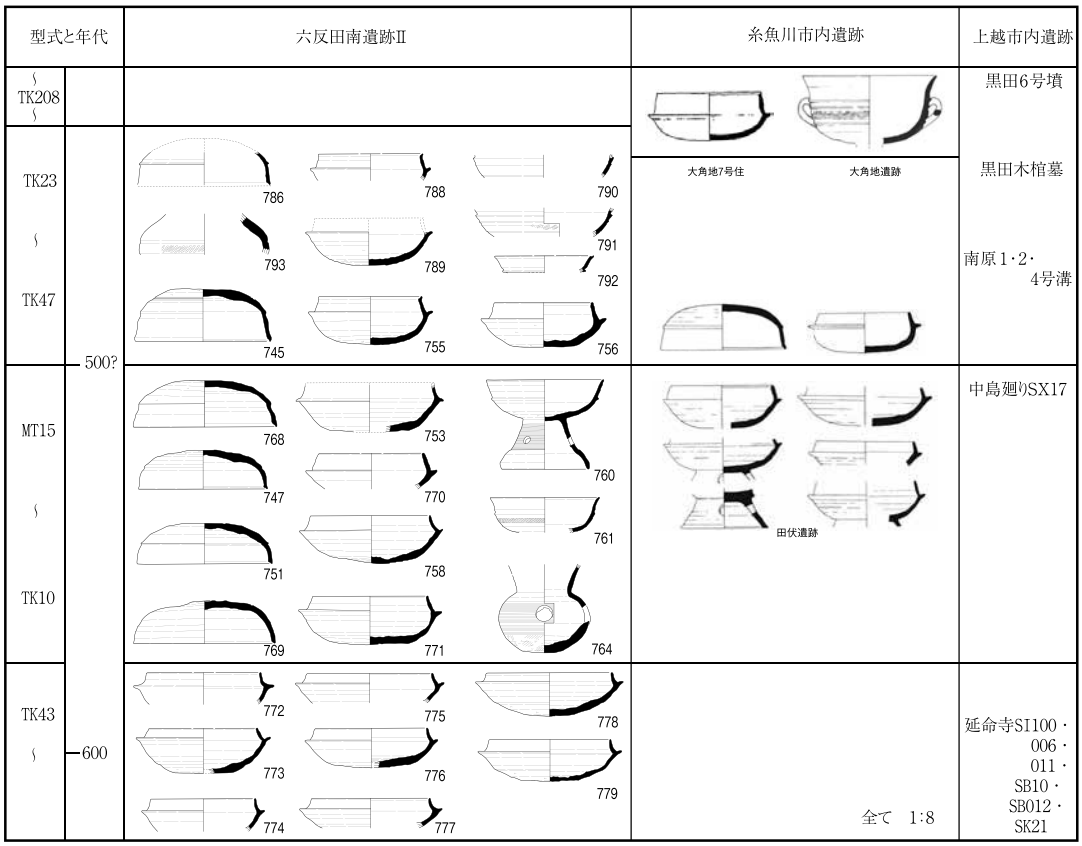
以上、簡単であるが、本遺跡出土須恵器の編年を行った。本遺跡出土の須恵器は、上述の大角地遺跡や田伏遺跡とほぼ同時期のTK23型式前後から、少しずつ遠方からもたらされたと思われる。続くMT15～TK10型式段階に出土量が多くなるが、これらの多くは石川県の南加賀古窯跡から流入した可能性がある。TK43型式段階に移っても定量出土するが、続くTK209型式段階のものはないようである。

c　上越地方の古墳時代中・後期須恵器の変遷（第70図）

最後に糸魚川市内出土の須恵器を中心に、良例を上越市内の出土例に求め、上越地方の古墳中・後期須恵器の変遷を簡単に示し、さらに本遺跡出土の須恵器についての評価を行いたい。なお、各遺跡出土のものはほぼ未見で、実測図から先行文献を参考に型式を比定している。

TK208型式前後段階

この段階は、本遺跡での様相は判然としない。糸魚川市内では大角地遺跡出土の杯身･無蓋高杯がある。上越市域では、今池遺跡出土の無蓋高杯・甕［滝沢2003］、黒田古墳群6号墳出土の甕［尾崎2002］、中島廻り遺跡包含層出土の甕・樽形甕［小島・川村・笹沢2003］などがある。



第 70 図　六反田南遺跡Ⅱ・糸魚川市内・上越市内遺跡出土須恵器の変遷

TK23 ～ TK47 型式段階　　この段階が本遺跡に須恵器が流入する初期段階である。上越市域では黒田古墳群木棺墓出土の杯身、北割遺跡 SK12 出土の杯蓋［品田 2003］、中島廻り遺跡包含層出土の杯蓋・杯身がある。南原遺跡では 1 号・2 号・4 号溝、1 号流路などから出土の杯蓋・杯身・無蓋高杯・瓶があり、報文では TK47 型式にほぼ収まるとされている［大平 2001］が、より古いものも少量含まれているのではないかと思われる。

MT15 ～ TK10 型式段階　　本遺跡ではこの段階の須恵器が最も多く、また現状では上越地方では最多の報告例となりそうである。糸魚川市内では、田伏遺跡出土の杯蓋・杯身・有蓋高杯がこの段階のものと思われるが、杯蓋杯身の中にはより古いものが含まれている可能性がある。上越市域では中島廻り遺跡 SX17 出土の杯蓋・杯身がある。

TK43 ～ TK209 型式段階　　本遺跡では TK43 型式段階以後、須恵器の存在が一時途絶える。上越市域では本遺跡より後出の延命寺遺跡 SI100・001・006・011・SB010・012・SK21 出土の杯蓋・杯身・瓶・提瓶［山崎ほか 2008］などがある。

d　小　　結

以上のように、糸魚川市域を含む上越地方では、TK208 型式前後に須恵器がもたらされ、TK23 ～ TK47 型式段階には上越市域を中心に定量認められる。MT15 ～ TK10 型式段階には、本遺跡を最多例として糸魚川市域が上越市域より須恵器が多く持ち込まれた可能性がある。本遺跡を含む糸魚川市域では TK43 型式段階で須恵器の存在が一時途絶える可能性がある。六反田南遺跡は今後も調査が続いていくため、本時期の資料が追加されることが期待される。今後は各器種についても、広く類例をあたり、時期や

産地を特定していきたい。近年、新潟県では本時期の須恵器の調査、報告例が増加している。全県的に資料を集成し、県内での編年を確立するとともに、胎土分析を含む産地同定を行っていく必要があると思われる。

4）古墳時代後期の土師器について

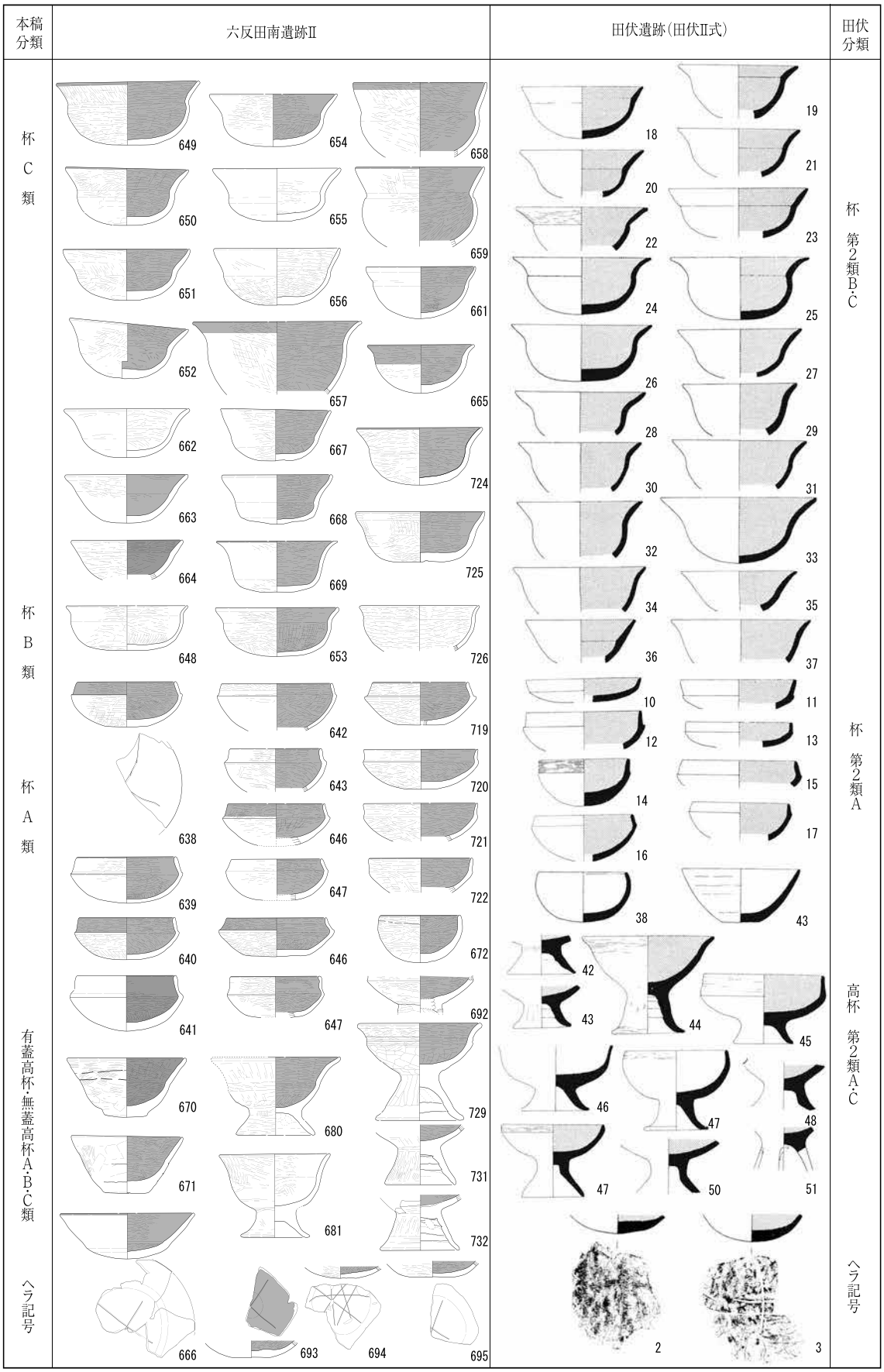
今回の調査では、調査区西端の SD605 と SD604 において、前述した古墳後期の須恵器とともに、多量の土師器が出土した。これらは、田伏遺跡から出土し、関雅之氏により設定された田伏Ⅱ式土器と土器様相が非常に似通っていることがわかる（第 71 図）。田伏遺跡は本遺跡の東約 1km に位置しており、滑石製の玉作遺跡として著名である［関ほか 1972］。以下では、まず田伏Ⅱ式と田伏遺跡出土の古墳後期の土師器に関するこれまでの理解を短くまとめることにする。

田伏Ⅱ式は、時期細分が考慮されることを断った上で、①田伏遺跡出土の土師器を大きく 2 期に区分したうちの後半部分で、関東の鬼高Ⅰ～Ⅱ期の特徴を有する土器群。②器種は甕・鉢・甑・高杯・杯があり、MT15 型式、またはその前後の須恵器杯蓋・杯身・有蓋高杯が伴う。③甕は形態的には、やや長胴気味の球体のものと長胴形のものがあり、体部にはハケ調整痕を有する。④高杯はすべて内黒で、前段階とは異なり脚部は短く、杯部は小型になる。⑤杯は口縁部が先端近くで外反するもの（第 1 類）、口縁部と体部との境に段を有し、口縁部が直立または内傾するもの（第 2 類 A）、口縁部が強く外反するもの（第 2 類 B）、外面のくびれや内面の稜に鋭さのないもの（第 2 類 C）、口縁部が緩やかに外傾、あるいは内傾するもの（第 3 類）があり、第 1 類は内黒がなく、第 2 類はすべて内黒である、などとまとめた。

吉岡氏は、田伏遺跡Ⅱ群土器（田伏Ⅱ式）について、前代以来の少数の杯 A 類（田伏杯第 1 類）、最も多い B 類（田伏杯第 2 類 B）とともに、須恵器を模作した相当数の C 類（田伏杯第 2 類 A）が使用される点が、須恵器模作土師器を稀に見出すにすぎない北陸南西部と対照的であるとした［吉岡 1984］。坂井氏は、越後での黒色土器は、C タイプ（田伏杯第 2 類 B）が一般的な器形で、須恵器模倣タイプの B 類（田伏杯第 2 類 A）はかなり少ないとした［坂井 1989］。品田高志氏は、6 世紀を第Ⅲ期とした段階の杯（椀）が D・E 類（田伏杯第 2 類 A 類似）→ Fa ～ c 類（田伏第 2 類 B 類似）→ Fd ～ f（田伏第 2 類 C 一部類似）へと 3 段階に変遷したとし、田伏遺跡出土例は第Ⅲ期 1 段階に一部、2 段階に多く、3 段階に少量認められるとした［品田 1990］。春日氏は、田伏Ⅱ式は 5 世紀末から 6 世紀前半（TK47 ～ TK10 型式）を中心とし、一部にその前後のものを一定量含むとした［春日 1994］。『新潟県の考古学』では、黒色土器の最盛期である古墳後期の後半期と後半期の後半に田伏遺跡出土例が認められるとした［品田 1999］。最近では、春日氏が川村編年の 9 ～ 11 段階、12 段階（TK47 型式併行）、13・14 段階（MT15 ～ TK10 型式併行）、15・16 段階（MT85 ～ TK43 型式併行）の各段階に遺物が多く確認できるとした［春日ほか 2008］。このように田伏遺跡出土例は、古墳後期を通じて認められるという理解であるが、中心となる段階、多く認められる段階があるという指摘は注目される。

近年、調査事例が増加し、編年が整理されたことなどから田伏Ⅱ式の名称が使用されることはないが、本稿では田伏Ⅱ式の中で、黒色土器を中心とした土師器の杯や高杯などと、本遺跡 SD605・SD604 出土の古墳後期の土師器を改めて仮称田伏Ⅱ式とし、年代幅や細分の可能性について考えてみたい。

田伏Ⅱ式の上限を考える際に参考としたいのが、上越市南原遺跡出土の土師器、須恵器である［大平 2001］。18 点掲載された須恵器は TK47 型式にほぼ収まると報告されているが、前段階のものも含まれている可能性がある。一方、須恵器に伴う土師器群は全体に中期的な印象がある。本遺跡 SD605 出土の須恵器は、TK47 型式段階の杯蓋と杯身が最も古いもので、土師器には中期的なものはほとんど認められない。多様な器種、器形がある田伏Ⅱ式としての開始時期は、続く MT15 型式段階にある可能性がある。



第 71 図　六反田南遺跡Ⅱと田伏遺跡（田伏Ⅱ式）出土土師器の主要器種（S=1:8）

一方、田伏Ⅱ式の下限を検討する資料として、近年調査、報告された上越市延命寺遺跡出土の土師器、須恵器がある［山崎ほか2008］。多く出土した須恵器は、TK209型式に位置付けられている。一方、土師器は、本遺跡では見られない平底の杯や長脚化が顕著な高杯が定量認められる。本遺跡SD604出土の須恵器には、延命寺遺跡の前段階であるTK43型式段階の杯身があるが、土師器の杯や高杯には延命寺遺跡例への過渡的な様相があまり見られない。ここでの田伏Ⅱ式の下限は、TK43型式段階としておきたい。

最後に田伏Ⅱ式の時期細分について、本遺跡SD605とSD604出土の土師器群を比較する。須恵器はSD605ではTK47～TK10型式、SD604ではMT15～TK43型式が主体的に出土しており、SD604に新しい様相の土師器が見られる可能性がある。例えば、須恵器模倣タイプの杯では、口縁部高がより高いものがMT15型式前後の杯身を、より低いものがTK43型式に近い杯身を模倣している可能性があり、SD605では口縁部高の高いものが多いので古く、SD604には低いものが認められるので、より新しい可能性がある。高杯は680→681→729の変遷が推測される。現状では材料に乏しいが、ここでの田伏Ⅱ式はMT15型式段階が開始時期で、ほぼ同時期にピークを迎え、TK43型式段階をもって須恵器とともに途絶えるとしたい。また、器種は本稿杯C類（田伏杯第2類B）が最も多く、須恵器模倣と考えられる杯A類（田伏第2類A）、無蓋高杯が定量あり、杯B類（田伏第1類）、有蓋高杯、鉢、壺などが少量伴い構成されるようである。今後も田伏Ⅱ式の時期幅や各器種の器形変化などに注目しつつ、田伏Ⅱ式を通して、周辺遺跡の古墳後期の土器を見ていきたい。

C　古墳時代後期の滑石製石製品の製作について

1）素材となる滑石について

本遺跡の特にSD605を中心とした調査区西側では、石製品とその未製品や工具（砥石・敲石）が多数出土している。石製品の石材は、ほぼすべてが滑石であり、特定の石材を用いた製作であったことがうかがえる。素材となる滑石は、遺跡から直線距離で約10㎞山手の小滝地区周辺等で採取することができる。元来滑石は蛇紋岩帯で帯状に産出するもので、姫川流域にも露頭で存在したことが十分想定される。地元住民の話では河川改修事業により露出した岩肌をコンクリート改良したという話もあり、古墳時代後期にはごく自然に滑石の露頭が露出していたと考えられる。滑石は極めて軟質な石材で、海岸や河岸に転石や漂石として存在できない。したがって、産地に必ず採集に行かなければならないものである。露頭ではいわゆる「ズリ」という表面の若干円磨したものを採取することができる。本遺跡で出土した大きな滑石は、人頭大ほどで表面の円磨が認められることから、露頭から持ち込まれたものと考えられる。出土した滑石片の多くには、剥離面が確認できる。切り合いは滑石の性質上不明瞭だが、表面の擦れた印象はそれほどなく、割られた場所からそれほど移動してないことがうかがえる。したがって、本遺跡で荒割を行っていたことが考えられる。このような荒割の際に生じたと考えられる剥片は平箱12箱（95.3kg）出土しており、滑石製石製品の製作が大規模に行われていたと想定される。持ち込まれた滑石はいずれも透明感が全くなく、白色・灰白色・緑灰色・茶褐色・黒褐色・黒色のおおむね6種に分けることができる。しかし、特定の形態に石材の色調が片寄ることは認められず、滑石のやわらかさや加工のしやすさを重視して製作しているようである。

2）滑石製石製品の製作工程

本遺跡から出土した滑石製石製品は未製品のものが多く、目的とする形態が必ずしも明らかではない。古墳時代中～後期の滑石製石製品の形態はバラエティに富み［高橋1912］、さらに概略化されたものにな

ると一概に器種を相当させることができない。したがって、今回分類した形態構成が実態を反映していない可能性もある。しかし、製作工程の大まかな傾向は見出せると考えられる。

本遺跡の滑石製石製品の製作工程を第72図に示した。まず図の第4工程までを、素材の視点で述べる。

原石は前述のように滑石の露頭から採集した人頭大のものである。これを採集してくるのが第1工程である。第2工程では、まず節理面に沿うように板状の大きな剥片を剥離により得る、あるいは敲打により作りだす。ただし、この段階で必ずしも目的どおりの剥片が得られたとは考えられない。滑石は剥離操作が極めて困難な石材であり、剥離で作り出すより、むしろ手頃な大きさの剥片に研磨を加えて作り出すほうが、作業上効率的である。したがって、大きな石核状の剥片はほとんど見られない。第2工程の荒割で小型石製品製作を目的とした剥片素材、そして紡錘車の素材を得る二つの作業に分岐する。

剥片素材は、第3工程で剥離調整や荒い研磨を経て、扁平、薄手、厚手の3種の素材に分岐する。第4工程で扁平なものは板状素材（未製品A類）となり、素材厚3㎜をわずかに前後するのみで、極めて均質なものが製作されている。この板状素材の研磨時に滑石を固定し、素材厚を規定できる器具が使われていたことが推定される。薄手のものはそのまま研磨され、剥離の稜を若干残しながら断面形がやや多角形を呈するもの（未製品B類）になる。厚手のものは資料が乏しいため判然としないが、おそらく剥離調整や荒い研磨で仕上げられ、円筒状に（未製品C類）なる。

以下は、各製品の製作工程に視点を置き、整理していく。

臼玉　未製品A類（板状素材）を使用し、剥離や折取りなどの手法で小さな正方形の剥片を作り（2類）、穿孔し（3類）、研磨する（4類）という段階を踏む。この工程から逸脱するものは、ほとんど見られない。このような板状素材を用いた臼玉製作の方法は、富山県朝日町浜山遺跡［寺村ほか1969］、上越市南原遺跡［大平2001］、糸魚川市田伏遺跡［関1972］、笛吹田遺跡［寺村ほか1978］、姫御前遺跡［加藤2008］でも認められる。ただし、仕上がりの厚さが4㎜以上のものは、未製品C類から製作した可能性が考えられる。したがって、臼玉の中にはまれに板状素材を用いずに製作されたものがあると想定できる。

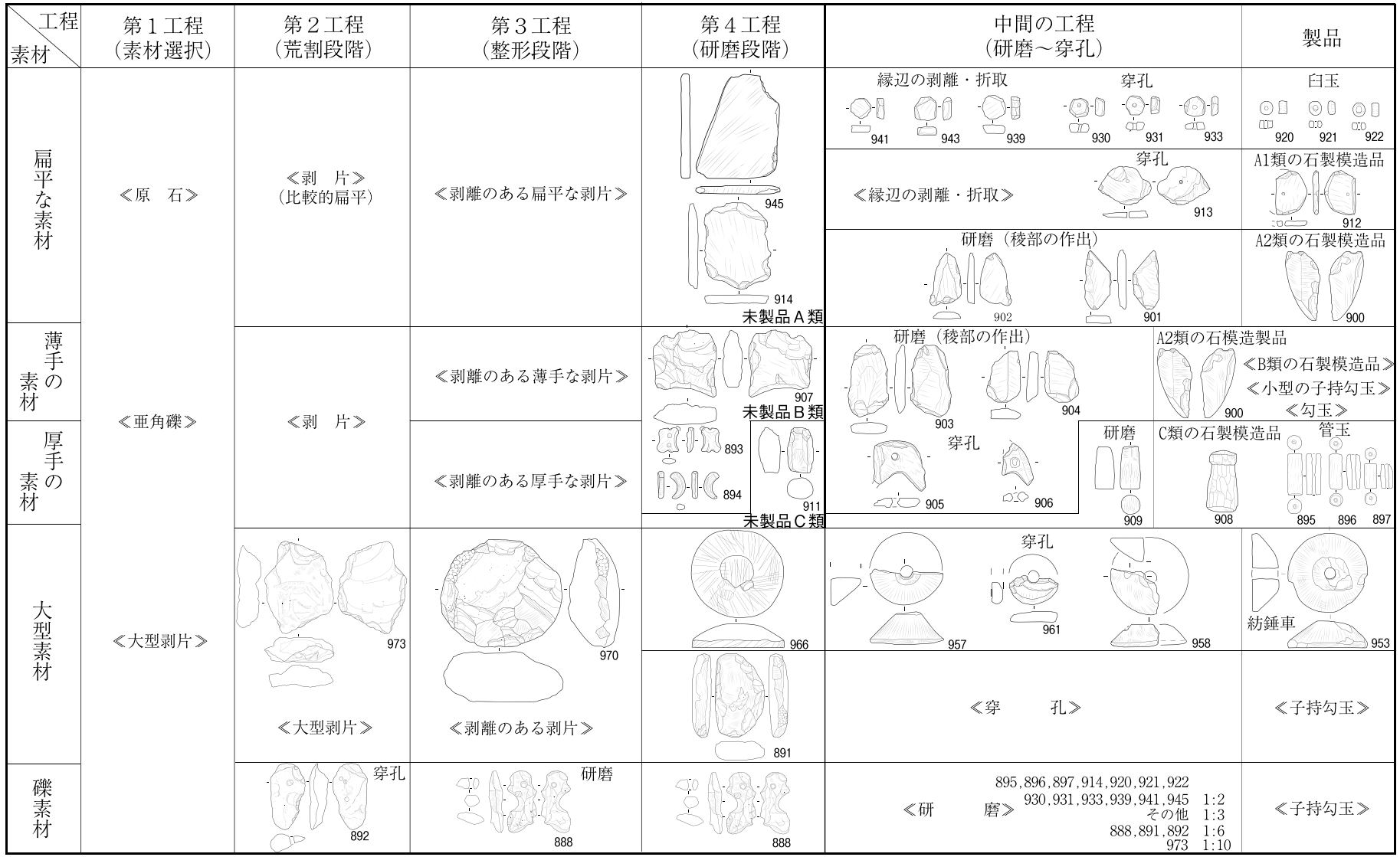
A1類の石製模造品　A1類の石製模造品は扁平で円形や楕円形で穿孔されているものである。未製品A類（板状素材）を使用し、素材縁辺を剥離や折取りにより成形し、穿孔、研磨するという工程を踏む。

A2類の石製模造品　A2類の石製模造品は扁平であり、尖頭形で穿孔されていないものである。未製品A類（板状素材）を使用するものと、未製品B類（薄手の素材）を使用するものがある。いずれの素材を用いても、素材表面に稜と鋭利な先端を研磨で作り出す。

B類の石製模造品　B類の石製模造品は薄手で、抉りを持つものである。未製品B類（薄手の素材）を使用し、研磨で素材表面を平坦にし、抉部を作り出し、穿孔する。

C類の石製模造品　C類の石製模造品は円筒状のものである。未製品C類（厚手の素材）を使用し、909のような円筒状の未製品を研磨で作り出す。そのまま研磨を繰り返し、908のような形態に仕上げる。また909の形状のものに、穿孔し管玉を製作する。

紡錘車　紡錘車未製品の分類において1～4類としたものが、工程に位置付けることができる。第1工程では大型の礫ないしは、比較的扁平な礫を獲得・選択する。第2工程（1類）は、大きな板状の素材を削り出す。刀子状の金属器で紡錘車の外形を作り出し、不要な端部は打撃により除去する。第3工程（2類）は、剥離調整や敲打を加えて整形する段階である。第4工程（3類）は研磨で、全体を紡錘車の形状に仕上げる段階である。第5工程（4類）で穿孔され、製品となる。この製作工程はどの紡錘車にも忠実に行われている。穿孔のタイミングが、ほかの石製品では随時変わるのに対し（勾玉未製品892など）、紡



第 72 図　SD605・SD604 における滑石製石製品の製作工程

錘車は必ず最終工程に位置付けられることは特徴的と言える。

また、製品を見ると、ほかの遺跡から出土する紡錘車に比べて研磨痕は荒々しく、作りが雑な印象である。製品も簡易な形状である。このことから自家消費を目的とした紡錘車製作が考えられる。おそらくは玉作遺跡で度々見られる「弾み車」として使用されたものと考えられる。

大型の勾玉　　891 は大型で扁平な剥片が得られた段階で、研磨を開始し、半月状に仕上げたものである。器面には大小の剥離痕が認められる。これは剥離調整で、勾玉の大まかな形状に整えていたことが想定できる。この半月状の石製品は、勾玉の未製品と考えられ、勾玉の製作遺跡に度々認められる。本遺跡でも勾玉の製作に直結するものと考えられる。

子持勾玉　　892 は剥離、敲打は全く加えず、扁平礫に小孔を穿いたものである。888 の子持勾玉とおおむね同じ大きさで、穿孔の大きさも同様である。色合い、石材も同一のものを使用していることから、892 は 888 の前段階と考えられる。したがって、子持勾玉は手頃な原石から直接製作を開始することが考えられる。穿孔された扁平礫に研磨を施し、子持部を形成し、最終研磨を行い、製品になると考えられる。また半月状未製品の 891 は、大きさや厚さが 888 の子持勾玉に近似しており、この半月状未製品から子持勾玉が作り出されることも想定できる。半月状未製品に研磨で子持部を形成し、穿孔し、最終研磨を行い、製品になると考えられる。子持勾玉の製作には、おおむねこの 2 種の方法が推定できる。

工具としては、内磨砥石や溝状砥面を持つ砥石、敲石、軽石製研磨具が出土しており、これらを用いて製作していたと考えられる。また製作工程品に残された研磨痕は、いずれも平坦で約 0.5 ～ 1㎝幅の単位を持つことから、鉄製の工具（刀子状または鑿状か）を用いたと考えられる。しかし、該当する鉄製品は出土していない。また軽石製研磨具が面的に使用されている例は注目しなければならない。これが従来からいわれた木や革など有機質材の仕上砥に加えて、最終研磨の仕上砥として使用された可能性もある。

3）六反田南遺跡の石製品製作の位置付け

ここまで本遺跡における滑石製石製品の製作のあり方を見てきたが、次に周辺の古墳時代中・後期の遺跡と比較を行う。紡錘車の製作工程品は田伏遺跡［関 1972］や三ッ又遺跡［木島 1987］で見られる。いずれも数点だが、本遺跡の紡錘車未製品 3 類に比定される資料が出土し、簡易な形状が選択されている。

南原遺跡や浜山遺跡における滑石製石製品の製作工程は、本遺跡のあり方とほとんど同一である。これは、北陸地域における古墳時代中～後期の滑石製石製品製作のあり方を裏付けできた資料として重要である。特に、素材として板状素材を作り出すことは、いずれの遺跡においても共通しており、北陸地域における小型石製品製作の一つの特徴と位置付けることができる。また当該期における石製品の製作は、糸魚川地域と出雲地方などわずかな地域でしか行われていないことから、本遺跡や周辺遺跡の資料をもって古墳時代後期における出雲地方の玉作資料と比較できると考えられる。

関雅之氏が「田伏Ⅱ式の段階にて…石製品の製作が消滅する」［関 2004］としているように、本遺跡の「田伏Ⅱ式」に伴うこれらの資料は、古墳時代後期における石製品製作の終末段階の様相を知る上で有効と考えられる。また製作された石製品は、紡錘車を除き製作資料のほとんどが製品を伴わないことから、製作されたものは自家消費的でなく、遺跡外へ搬出していると考えられる。あるいは本遺跡から 2㎞南西に位置する一の宮遺跡などの祭祀場で消費された可能性も考えられる。また、この製作に伴う一連の資料は SD605 に廃棄されたものであると考えられ、廃棄の理由や製作遺跡の存在などを考えていかなければならない。

D 木 製 品

1）は じ め に

新潟県では、近年低地遺跡が多く調査されており、各遺跡で木製品が多く出土し、報告例も多種多様となっている。古くは佐渡の千種遺跡において、弥生時代終末から古墳時代初頭の土器とともに多くの木製品が出土している［大場ほか1953］。その中で木包丁、竪杵などの農具や祭祀具の舟形が注目される。上越市域では、一之口遺跡東地区において、古代の自然流路を中心に皿、下駄、舟形、櫂、扇子、火鑽棒、物差し、曲物などの木製品が多く出土している［鈴木・春日ほか1994］。近年の調査事例では延命寺遺跡において、奈良時代の遺構を中心に鍬、田下駄、木簡、斎串、人形、舟形、琴柱、曲物、糸巻などの木製品が多く出土している［山崎ほか2008］。

糸魚川地域では、ここ数年の間に北陸新幹線建設、一般国道8号糸魚川東バイパス建設に伴う調査が沖積地を対象に行われ、各遺跡から古墳時代～中世にわたる木製品が出土している。第29表には、糸魚川市内で木製品が複数出土した遺跡名、出土位置、年代、出土木製品、樹種を示した。弥生時代～古墳時代の事例としては、笛吹田遺跡で井戸から釣瓶が出土した。古代では、前波南遺跡では自然流路から田下駄、横櫛などが出土した。中世では山岸遺跡から出土した網代が注目される。

遺跡名	調査年	所在地	木製品の主な年代	主な出土位置	主な出土木製品	主な樹種	文献
六反田南遺跡	2006	大和川字六反田	古墳～古代	包含層	下駄・栓・杭・柱根		［春日ほか2008］
六反田南遺跡Ⅱ	2007	大和川字六反田	古墳～古代	自然流路	鎌柄・皿・槽・曲物・舟形・建築部材	スギ	本稿
六反田南遺跡Ⅲ	2008	大和川字六反田	古墳～古代	自然流路	大足・槽・曲物・皿・腰掛・舟形・刀形・斎串・建築部材	スギ	［細井2009］
前波南遺跡	2006	大和川字前波	古墳～古代	自然流路	田下駄・横櫛・建築部材	スギ	［春日ほか2008］
前波南遺跡	2007	大和川字前波	古墳～古代	旧流路	木簡・曲物・田下駄		［石川2007］
山岸遺跡	2006	田伏字山キシ	古代	自然流路	曲物柄杓・漆器・扇骨・浮子・曲物・箸状		［矢部2007］
山岸遺跡	2007	田伏字山キシ	鎌倉～室町		漆器椀・箸・下駄・草履・杭・柱根・網代・木簡		［春日2008］
山岸遺跡	2008	田伏字山キシ	鎌倉～室町	自然流路	漆器椀・皿・箸状木製品・柱根・杭材		［飯坂2009］
山岸遺跡Ⅱ	2006	田伏字山キシ	鎌倉		箸・ヘラ・曲物・槽・漆器・浮子・下駄・人形・刀形・舟形		［入江2007］
横マクリ遺跡	2006	田伏字横マクリ	古代以降	包含層	漆器椀・浮子・エブリ	スギ・ケヤキ	［渡邊ほか2008］
田伏山崎遺跡	2007	田伏字山崎	中世	包含層	馬形・鳥形・横櫛・下駄・糸巻・漆器椀		［佐藤2008］
岩倉遺跡	2001	田伏字岩倉	中世	包含層	椀・鉄鏃矢柄・横櫛・下駄・鳥形・独楽		［山本ほか2003］
笛吹田遺跡	2005～2006	一の宮	古墳	井戸	井戸枠・釣瓶		［山岸2006］
姫御前遺跡Ⅰ	2006	東寺町	中世	包含層	人形・箸・下駄・曲物底板・木簡	スギ・ヒノキ	［加藤ほか2008］
姫御前遺跡Ⅱ	2008	東寺町	古墳前期	平地建物	柱根	スギ	［加藤2009］
竹花遺跡	2008	寺町	古墳前期	畦畔	鍬・鋤・建築部材（畦畔芯材）		［加藤2009］
須沢角地遺跡	2007	須沢字角地	中世		漆器椀・斎串・箸		［長澤2007］
角地田遺跡	2007	小見字木ノ下	古代	包含層	木簡・横櫛・柱根・杭		［實川ほか2009］
平遺跡	2007	小見字横枕	古代、中・近世	川・包含層	糸巻		［實川ほか2009］

第29表　糸魚川市内の木製品出土遺跡と主な出土木製品

2）六反田南遺跡出土木製品の概観と年代

流路１の主に中層から下層にかけて木製品が多く出土した。これらは、主体的に出土した土器から古墳時代～古代の所産と考えられる。以下では、出土したいくつかの木製品について特徴を示すとともに、類例にあたり、可能なものはさらに所産時期を推定したい。なお、曲物については、項を分けてまとめる。

農具とした鎌柄（図版 72 － 1027）は、長さ 40.6cm の直線的なもので、柄頭部は側面形が円形を呈する。刃部の着装部分は孔ではなく上に開いていて、上部には木釘が１本打ち込まれている。柄尻は突起ではなく、斜めに切断したものである。本遺跡周辺では、上越市三角田遺跡から鎌柄の完形品が出土している［沢田・細井ほか 2006］。長さ 42cm で、側面形は背面側が開く弱い弧状を呈し、柄尻に山形状の突起をつくる。刃部の着装部分は孔ではなく上に開いていて、釘孔はない。所産時期は８世紀前半である。県内で鎌柄とわかる古代の出土例は、この２例だけのようである。一方、鉄刃のみの出土例は、糸魚川市田伏遺跡出土の２点、同一宮遺跡出土の２点の写真が『新潟県史資料編』に掲載されている［新潟県 1983］。いずれも古墳時代頃の所産と考えられる。また、延命寺遺跡からは奈良時代の溝（SD3460）から直刃が出土している。基端部に折り返しを有し、先端部は欠損している。刃部幅 2.6cm、厚さ 0.25cm である［山崎ほか 2008］。このように上越地方では、刃部、柄ともに報告例は少ないようである。

大足としたものは横木１本、縦木１本が出土した。このうち縦木（図版 72 － 1029）について見ると、長さ 79cm、幅 3.2cm、厚さ 6.3cm。枘孔は長さ２～ 5cm、幅２～ 3cm の長方形のものが４～ 13cm の不等間隔で 10 個あるが、図の上から７・８番目、９・10 番目は対となりそうであり、１番目は手綱孔に相当しそうで、そうであれば、横木は７本となる。本例は流路１の４層の出土で、主体となる土器は古代である。古墳時代まで含めた当時の縦木は、長さ 65 ～ 95cm ほどで、一辺が１～ 2cm ほどの方形、ないし長方形を呈する枘孔が 10 ～ 17 個、４～ 12cm のほぼ等間隔で穿たれている。また、前後端の１孔目と２孔目の間には、手綱を緊縛するためのくぼみや溝の残るものが多い［細井 2007］。本例はこの時期で知られているものより枘孔が大きく、その間隔は不均等で、手綱孔に相当するものを持つなど、かなり異質な形態である。大足の縦木でない可能性もあり、今後も類例を探していきたい。

刳り抜き容器の槽は６点を図示した（図版 74 ～ 76 － 1046 ～ 1051）。長さが 1m 前後と想定される大型で、平面形が長方形のもの（1046 ～ 1049）、平面形が楕円形のもの（1050）、比較的小型で、口縁端部が把手状になるもの（1051）があり、いずれも脚部を持たないものである。本例のような、特に大型のものを田舟と報告する例もあるが、多様な用途が想定されることから、槽とした。本遺跡周辺の事例としては、上越市一之口遺跡東地区の旧正善寺川出土例は、平面形が隅丸長方形、縦・横断面が台形状を呈する脚なしのもので、推定で長さ 50.5cm、幅 27cm、高さ 6.5cm で、古代のものとされた［鈴木・春日ほか 1994］。また、断片資料であるが、上越市三角田遺跡から、８世紀前半の平面形が隅丸長方形の槽が出土している［沢田・細井ほか 2006］。所産年代を検討するにあたっての参考事例としては、古墳時代を中心としたものが複数報告された長野県榎田遺跡［贄田 1999］や、石川県畝田西遺跡群［安ほか 2006］では脚付のものが伴って出土している。また、集成や編年が行われた文献では、古墳時代に脚付が伴い、古代に入ると脚付が少なくなる印象を与える［奈良国立文化財研究所 1985、川畑 1996、村上 1996、山田 2003］。本遺跡例は、出土層位に主体的に伴う土器や周辺での事例から、その多くが８～９世紀代のものとしたい。また、長さが 1m 前後の大型のものが複数出土する事例はあまりないようなので、これらの槽の用途や使用者について、民俗例なども参考にしながら今後も検討を続けていきたい。

祭祀具とされる舟形（図版 81 － 27）は、平面形が紡錘形、横断面が船首、船尾で三角形状、船底が孤状を呈する。中央部から一段低くなる船首、船尾はともに斜め上方に向けてわずかに反っていて、船首と考えられる側の先端は上下に切られている。県内では、千種遺跡出土例［大場ほか 1953］がよく知られ、近年は低地遺跡の調査の充実により各時代の舟形が出土し、集成、編年が行われている［継 2005、長沼 2008］。年代的には、山田昌久氏の集成から古墳中期、あるいはその前後の時期のものと想定される［山田 2003］。

3）曲物について（第73図）

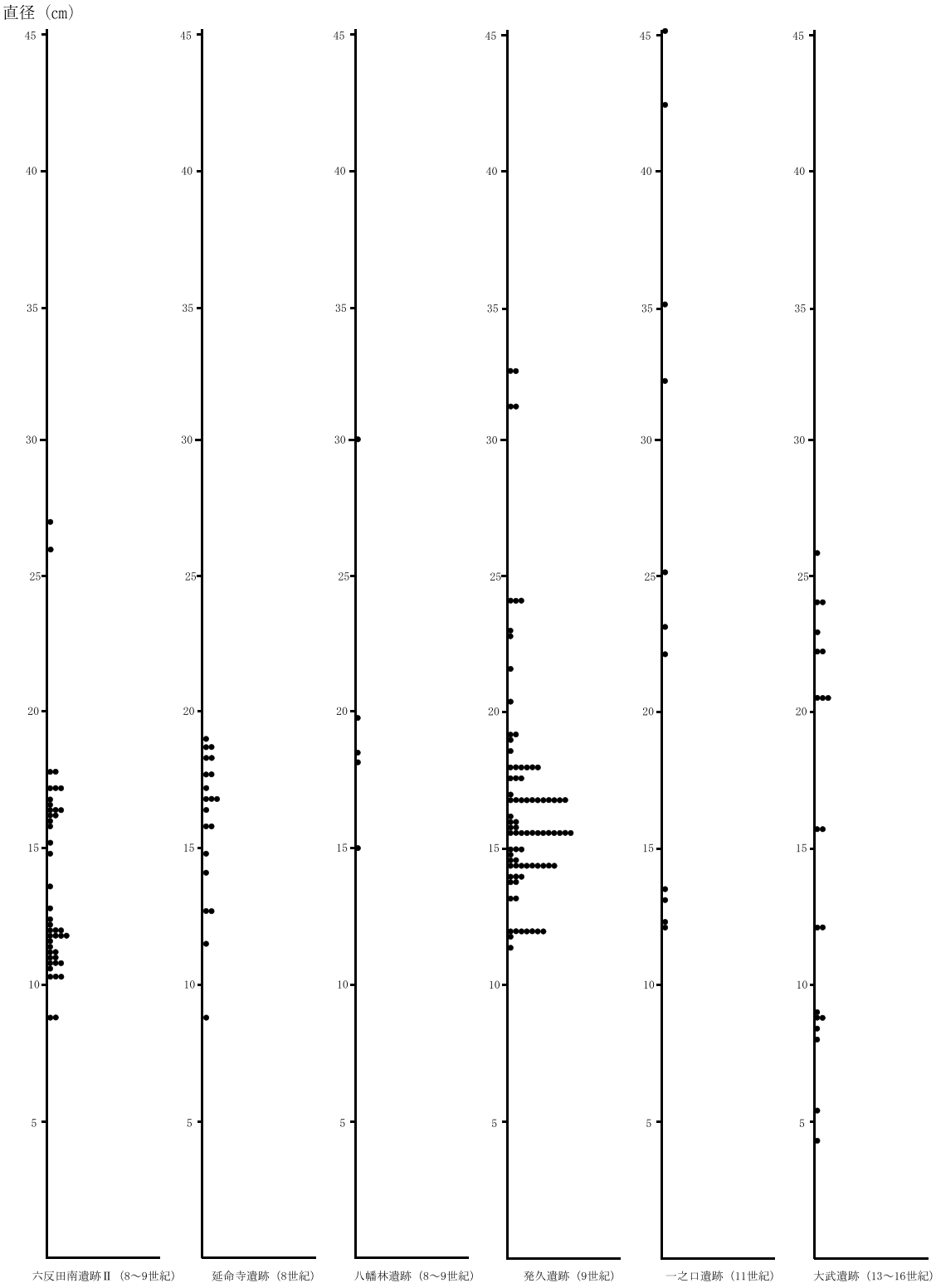
今回の調査では、流路 1 から 57 個体の曲物が出土した。その中の円形曲物について、もう少し検討してみたい。そこでまず、円形曲物の分類、編年観を管見にふれた文献から整理してみたい。

ここでいう円形曲物とは「薄板を円筒形に曲げて、両端の重合せ部分を樺皮紐で綴合せて側板とし、これに蓋板ないしは底板を接合した容器」［奈良国立文化財研究所 1985］とする。川畑誠氏の研究によれば、北陸地方では、① 8 世紀前葉には定量化し、中葉以降、10 世紀前半まで多量に出土する。②側板と底板は木釘で結合するものが大部分であるが、本遺跡例 1085 のように周縁が一段低いものが新潟県では濃密に分布する。③底板の直径は、10 ～ 23 cm、25 ～ 30cm、35cm 前後、45 ～ 50cm、62cm に分布するが、中でも 16 ～ 18cm にピークをもつ 11 ～ 20cm 強のものが圧倒的に多い。④ 11 ～ 20cm 強のものは、身の浅いもの、やや浅いもの、深いものに分けられる［川畑 1996］という。春日氏は、新潟県における曲物は8世紀前半頃に急速に普及･定着していったとする。また、笹神村発久遺跡出土の9世紀の曲物について、直径 12 ～ 19cm に集中があり、20 ～ 25cm、31 ～ 33cm 前後のものがあることを示した［春日 2000］。上越市延命寺遺跡では、飛鳥時代の遺構からは曲物が出土せず、奈良時代（8 世紀前半）に入ると曲物が多く出土するようである［山崎ほか 2008］。

本遺跡例は、①出土層位に主体的に伴う土器や上記の事例から、その多くが 8 ～ 9 世紀代のものと考えられる。②側板と底板は木釘で結合するものが大部分であり、周縁が一段低いものは本遺跡では少量に限られる。③底板の直径は、上記のように 11 ～ 20cm 前後のものが大部分であるが、本遺跡例はさらに 9cm、11 ～ 13cm 前後、16 ～ 18cm 前後に分類可能である。④ 11 ～ 20cm 前後のものは、本遺跡例では身が 3cm 以下の浅いもの、3cm 代のやや浅いもの、4cm 以上の深いものに分類できた。これら法量の違いから用途が推定されることがあるが、本稿では今後の課題としたい。また、本遺跡例は側板の綴り合わせ方が多様であることがわかり、この点は今後県内を中心に事例を集め、時期差や地域差などに起因するものであるのかを確認したい。

4）小　　結

今回の調査では流路 1 から多くの木製品が出土したが、これらの中で大型の槽や曲物といった容器類と建築部材が比較的多く出土した一方、農工具や祭祀具などは少なかった。このことが遺跡の特徴をそのまま表すものかは今後の検討課題であるが、例えば、大型槽を水辺に複数置いて、何らかの作業が行われた情景が想定される。本稿ではまた、一部の器種について所産年代の推定を試みた。その結果、槽や曲物の多くが 8 ～ 9 世紀、舟形は古墳中期前後とした。流路 1 出土の木製品全体でも 8 ～ 9 世紀のものが多く、古墳時代のものがわずかにあると推定される。なお、多く出土した建築部材については、一般国道 8 号糸魚川東バイパス部分で出土したものと合わせて検討を行う予定である。



第 73 図　円形板・円形曲物底板の直径（春日 2000 に加筆）

3　総　　括

A　縄文時代中期

縄文時代の調査では、標高 4 ～ 5m の低地から縄文時代中期前葉から中葉にかけての遺構、遺物が検出された。遺構は竪穴住居が微高地上に数軒検出され、この時期の集落としては県内では最も低い位置での検出例となった。土器は北陸系の新保･新崎式、上山田･天神山式を中心に、東北系の円筒上層式、大木式、関東系の勝坂式、中部高地系、越後系が出土した。この中で、円筒上層式は分布域の最西部となる可能性が高い。石器は磨製石斧やその製作工程品、工具が豊富に出土した。また、いわゆる貝殻状剥片が多く出土した。これはそのまま道具として、もしくは打製石斧の材料として用いたようである。ヒスイは集落域で多く出土したが、大珠などの製品や製作工程品はなく、敲石として使用したものや、原石や石核とそれらを荒割して残った剥片がある。祭祀具は少なく、土偶 1 点と石棒 1 点のみであった。本遺跡周辺には同時期の遺跡として国指定史跡の長者ヶ原遺跡があり､以下では本遺跡との関連などについて考えてみたい。

長者ヶ原遺跡は本遺跡から南西約 3.5km の台地上に立地し、本遺跡との比高差は約 100m である。昭和 29 年から近年まで 13 次にわたり調査が行われ、中期前葉から後葉を中心とした竪穴住居、掘立柱建物、土坑などが多数検出された。集落や遺構の構造、土器編年や石器製作など細部にわたる比較・検討は今後の課題であるが、これまで示された長者ヶ原遺跡の概要報告［木島 2001、木島・寺﨑・山岸 2007］等から大枠の比較や本遺跡との関連性について考えてみたい。まず、集落構造であるが、長者ヶ原は南北 180m、東西 100m の台地上の中心に広場があり、そのまわりに墓域、居住域、廃棄域が順に囲む環状、もしくは馬蹄形集落を想定されている。本遺跡は南北に延びる幅狭の微高地上の一部を調査したと思われ、600㎡弱の範囲内から竪穴住居 4 棟、竪穴建物 3 基、土坑 7 基などが検出された。住居跡は、長者ヶ原で検出された 24 棟前後は､平面形態が円形と楕円形に大別でき､円形のものは規模が 3m 前後､5m 前後、7m 前後の 3 つに区分できるという。本遺跡例は円形のものはなかったが、4 棟の住居は平面形が隅丸長方形ないし楕円形で、長軸 4.5 ～ 4.8m、短軸 3.2 ～ 4m ほどで中～小規模のものである。住居内の炉跡は、長者ヶ原では中期初頭～前葉に地床炉を伴う傾向があるが、全体では床面のほぼ中央に石囲炉を有するという。本遺跡例は石囲炉、土器敷炉、石囲炉＋石敷炉、石囲炉＋埋甕炉が床面中央や壁寄りに位置している。土器は前葉では新崎式が中心で、中部高地系が伴い、中葉では上山田・天神山式が中心で、わずかに火焔型土器が出土しているという。本遺跡では火炎土器は出土していない。石器は磨製石斧とその生産関連資料である未製品、砥石、石槌が多く、打製石斧、石錘、石匙、石皿、凹石、磨石、敲石が出土しているという。磨製石斧とその生産関連資料が多いことは共通しているが、長者ヶ原で出土していて、本遺跡では出土していないか、ごく少数の出土であるものがある。ヒスイは長者ヶ原遺跡では、中期前葉から大珠をはじめ、原石を荒割して敲打と研磨を重ねて形を整え、穿孔して仕上りとする製作工程品に加え、敲石、砥石、台石といった加工具も多く出土しているという［木島 2009］。本遺跡は製品や製作工程品が出土していない。祭祀具としては長者ヶ原では土偶 30 点、石棒 10 点が出土しているという。

あらためて本遺跡と長者ヶ原遺跡を比較すると、主体となる土器が北陸系であること、石器は磨製石斧とその生産関連資料が多いことが共通する。本遺跡の住居は長者ヶ原遺跡と比べると中～小規模で、石器は種類が豊富とは言えず、ヒスイは製品や製作工程品が認められない。一方、本遺跡の土器の中には中部高地系、越後系に加え、東北系、関東系の土器が認められる。これらの共通点や相違点をふまえ、さらに

多くの遺跡と比較を行い、本遺跡がどのような役割を担った遺跡であるか今後も検討していきたい。

B　弥生時代以降

弥生時代以降の調査では、遺構の検出は少なかったが、弥生時代から古墳時代にかけての土器や石製品、古墳時代から古代にかけての木製品が多く出土した。弥生時代は中期後半の甕の口縁部片１点、後期前葉～中葉頃の土器が多く出土した。弥生時代後期の土器群は、後生山遺跡や笛吹田遺跡出土例などに続く、市内での良好な追加例となりそうである。古墳時代は前期から中期の土器がやや多く、後期の土師器、須恵器が多く出土した。後期の土師器（黒色土器）杯や高杯などは、かつて田伏遺跡の報告で設定された田伏Ⅱ式との関連がうかがわれ、須恵器は大角地遺跡や田伏遺跡出土例などに続く、市内での大幅な追加例となりそうである。古墳時代後期の石製品は、滑石製の玉製品とその製作関連資料が多く出土し、周辺の大角地遺跡や田伏遺跡などの玉作遺跡との関連がうかがえる。木製品は、流路の中～下層から多く出土した。円形曲物や槽といった容器類と建築部材が比較的多く出土した一方、農工具や祭祀具は少なかった。

本遺跡の弥生時代以降の調査で注目されるのは、住居や土坑などからの一括資料ではないが、古墳時代後期の土師器、須恵器、滑石製玉製品とその製作関連資料が多く出土したことである。そこでここでは、6 世紀代の（西）頸城地域における人物や社会についてのこれまでの理解を整理しておきたい。

『新潟県史』では、6 世紀中葉から 7 世紀後半に実在したと考えられる久比岐国造の国造氏族を高志公としている。5、6 世紀に各地に設定された屯倉の越後での所在を文献に見られる「三宅…」から推定しているが、頸城地方では確認できないという。部が北陸地方で盛行するのは 6 世紀以降と見るべきとし、頸城では石部、肥人部、品治部、物部の存在を推定している［桑原 1986］。『上越市史』では、6 世紀代に誕生した久比岐国造は、「国造本紀」などの記載から海人系の大和直氏に祖先系譜を付会されるとした。また、『和名抄』物部郷や『延喜式』物部神社などの記録、県内に所在するいくつかの物部神社の存在から、東山道方面からの物部氏の進出が想定され、その初源を頸城郡における菅原、水科、宮口古墳群被葬者の進出が見られる 6 世紀後半ごろと推定された。また双方の関係については、領域支配者の久比岐国造が、辺境防備の任務を遂行する物部集団の地方伴造を支援する関係にあったとした［小林 2004］。

糸魚川地域はヌナカワ姫の伝説が数多く残る地域としてよく知られており、いくつか残る古代の文献とヒスイをおり混ぜたさまざまな著作が今日見られる。その中でヌナカワとヒスイの関連を考古学的に試みられた寺村光晴氏は、古墳時代はヒスイ生産遺跡の分布とヌナカワ伝承との間に何か関係がありそうである［寺村 1995］と述べられている。本遺跡を含め、近年調査された周辺遺跡の調査成果を総合することで、ヌナカワとヒスイの関係を少しずつ近づけていくことが今後の課題であろう。

本遺跡で出土した 6 世紀代でも時期幅のある多くの土師器や須恵器と、滑石製玉類や製作関連資料は溝の中へ一括廃棄されたようにも見られた。それは滑石製玉類の生産が急速に消えていくという北陸地方での傾向と矛盾しない。寺村氏は「継体王朝は、6 世紀の初めころ、（略）新しい王朝を樹立した。（略）石製模造品を主体とする祭祀をもつ王朝を、この王朝交替説に対比すれば、それは中王朝である。仁徳王朝（河内王朝）の祭祀といってもよかろう。ヒスイ生産の遺跡が盛行したのもこの王朝の時であった。（略）石製模造品の急速な消滅の時期は、継体王朝の成立時期に合致する。これは前王朝と新王朝との間に祭祀の違いがあり、前王朝の祭祀の否定により、このような結果がもたらされたと考えてよかろう（以下略）」［寺村 1995］と述べられている。

要　　約

1　六反田南遺跡は新潟県糸魚川市大字大和川に所在する。遺跡は海川右岸の沖積地に立地し、現況は宅地、水田であった。遺跡の標高は 3.1 ～ 5.9m を測る。

2　発掘調査は北陸新幹線及び一般国道 8 号糸魚川東バイパスの建設に伴い、平成 19（2007）年 4 月 2 日から 12 月 7 日、平成 20（2008）年 4 月 1 日から 11 月 13 日にかけて実施した。調査面積は 10,847㎡である。調査の結果、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物を検出した。

3　縄文時代中期の遺構は微高地上を中心に竪穴住居 4 基、竪穴建物 4 基、土坑 7 基を検出した。4 棟の住居は平面形が隅丸長方形ないし楕円形で、長軸 4.5 ～ 4.8m、短軸 3.2 ～ 4m ほどで本時期のものとしては中～小規模のものである。住居内の炉跡は、石囲炉、土器敷炉、石囲炉＋石敷炉、石囲炉＋埋甕炉が床面中央や壁寄りに位置している。

4　縄文時代の遺物は、主に中期前葉から中葉の土器、土製品、石器、石製品、ヒスイなどが出土した。土器は北陸系の新保・新崎式、上山田・天神山式、東北系の円筒上層式、大木式、関東系の勝坂式、中部高地系、越後系が出土した。とくに円筒上層式は分布域の最西部となる可能性が高い。

5　縄文時代中期の石器は打製石斧、磨製石斧、砥石、敲石、磨石類、台石、スクレイパー、石核が出土した。磨製石斧はその製作工程品、工具も含め豊富に出土した。また、いわゆる貝殻状剥片が多く出土した。これらはそのまま道具として、もしくは打製石斧の材料として用いたと考えられる。ヒスイは集落域で多く出土したが、大珠などの製品や製作工程品はなく、敲石として使用したものや、原石や石核とそれらを粗割りして残った剥片がある。祭祀具は少なく、土偶 1 点と石棒 1 点のみであった。

6　標高が 4m という低地での縄文時代中期の集落跡の検出は、県内では初めてとなった。国指定史跡の長者ヶ原遺跡は本遺跡から南西 3.5km の台地上に立地し、比高差は 100m を測る。本遺跡と長者ヶ原遺跡を比較すると、主体となる土器が北陸系であること、石器は磨製石斧とその生産関連資料が多いことが共通する。ただ相違点も多く、さらに多くの遺跡と比較を行い、本遺跡がどのような役割を担った遺跡であるか検討していくことが今後の課題である。

7　弥生時代以降の遺構は掘立柱建物 2 棟、土坑 8 基、溝 39 条などが検出された。遺物は土器、陶磁器、土製品、石器、石製品、木製品、金属製品、ガラス製品が出土した。

8　弥生時代から古墳時代の土器は弥生時代中・後期、古墳時代前・中・後期のものが出土したが、特に調査区の西端部を中心に古墳時代後期の土師器、須恵器が多く出土した。土師器（黒色土器）の杯や高杯は、かつて田伏遺跡の報告で設定された田伏Ⅱ式との関連がうかがわれる。須恵器は TK47 ～ TK43 型式ころの杯蓋、杯身、高杯、甕などが出土した。

9　石製品は、古墳時代後期の土器に伴うと考えられる滑石製の子持勾玉・勾玉・管玉・石製模造品・臼玉・紡錘車などとその製作工程品が多く出土したほか、砥石・内磨砥石・敲石・軽石製研磨具といった工具類も出土した。周辺には祭祀遺跡の天津神社境内遺跡や玉作遺跡の大角地遺跡や田伏遺跡があり、関連がうかがわれる。

10　木製品は流路 1 を中心として、古墳時代から古代の刀子柄・鎌柄・田下駄・下駄・漆器椀・皿・槽・曲物・舟形・斎串・建築部材などが多く出土した。樹種は 9 割以上がスギで、大型の槽や曲物といった容器類と建築部材が比較的多く出土した一方、農工具や祭祀具などは少なかった。

11　六反田南遺跡は今後も調査が続いていくことから、各時代で新たな遺構、遺物の発見が期待される。

引用・参考文献

相田泰臣　2004　「越後における古墳時代後期を中心とした土器の一様相」『新潟考古』第 15 号　新潟県考古学会

青木重孝　1976　『糸魚川市史』1　糸魚川市役所

阿部朝衛　1987　「第 6 章　磨製石斧生産の様相」『史跡寺地遺跡』青海町教育委員会

荒川隆史　2004　「新潟県の概要」『出土建築材資料集－縄文・弥生・古墳時代―』小矢部市教育委員会

荒川隆史　2004　「第Ⅳ章　遺構」『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第 133 集 青田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

青木重孝　1976　『糸魚川市史』1　糸魚川市役所

阿部朝衛　1987　「第 6 章　磨製石斧生産の様相」『史跡寺地遺跡』青海町教育委員会

飯坂盛秦ほか　2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 139 集 余川中道遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

飯塚武司　1996　「古代の挽物容器・刳物容器概観」『月刊考古学ジャーナル』No.404　ニュー・サイエンス社

石川智紀　2004　「新潟県出土縄文中期の土偶」『火炎土器の研究』新潟県立歴史博物館

石川智紀　2008　「前波南遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 19 年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

磯村朝次郎・児玉　準ほか　1979　『大畑台遺跡』日本鉱業株式会社船川製油所

伊藤友久　1992　「集落遺跡に係わる建築構造－長野県の原始・古代・中世－」『信濃』第 44 巻第 4 号 信濃史学会

今福利恵　2008　「勝坂式土器」『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会

入江清次　2007　「山岸遺跡Ⅱ」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 18 年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

大野雲外・鳥居龍蔵　1895　「武蔵國北多摩国分寺村石器時代遺跡」『東京人類學會雑誌』東京人類學會

大場磐雄ほか　1953　『新潟県文化財調査報告書 1　千種』 新潟県教育委員会

大平理恵　2001　『板倉町埋蔵文化財調査報告 第 2 集 南原遺跡』 板倉町教育委員会

大森　勉　1986　『糸魚川市埋蔵文化財報告 第 13 輯 後生山遺跡』 糸魚川市教育委員会

小笠原雅行　2008　「円筒上層式土器」『総覧 縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会

尾崎高宏　2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 111 集 黒田古墳群』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

尾崎高宏　2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 152 集 下馬場遺跡・細田遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小田由美子ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 149 集 滝寺古窯跡群・大貫古窯跡群』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

小矢部市教育委員会　2005　『出土建築材資料集－縄文・弥生・古墳時代－』第一分冊～第三分冊 小矢部市教育委員会

春日真実　1998　「西頸城地域における古代土器様相」『研究紀要』第 2 号　財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

春日真実　1999　「第 4 章古代　第 2 節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』 高志書院

春日真実　2000　「第Ⅶ章まとめ　3. 木器」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 97 集 大武遺跡Ⅰ（中世編）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

春日真実　2008　「第Ⅴ章まとめ　6 遺跡の存続期間」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 202 集 六反田南遺跡・前波南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

春日真実　2009　「越後における古代掘立柱建物」『新潟県の考古学』Ⅱ　新潟県考古学会

春日真実ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第202集 六反田南遺跡・前波南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
加藤　学　1999　「第Ⅴ章遺構」『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第93集 和泉A遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
加藤　学　2009　「姫御前遺跡Ⅱ」「竹花遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成20年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
加藤　学ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第173集 大角地遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
加藤　学ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第184集 姫御前遺跡Ⅰ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
加藤三千雄　1988　「新保・新崎式土器様式」『縄文土器大観』3中期Ⅱ　小学館
加藤三千雄　1995　「北陸における中期前葉の土器群について」『第8回縄文セミナー　中期初頭の諸様相』 縄文セミナーの会
加藤三千雄　2008　「新保・新崎式土器」『総覧　縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会
狩野　陸・酒井重洋　1991　『北陸自動車道遺跡調査報告―朝日町編6―境A遺跡土器編』富山県教育委員会
川畑　誠a　1996　「北陸地方の木製食器の概要」『古代の木製食器』第Ⅰ分冊（発表要旨） 埋蔵文化財研究会
川畑　誠b　1996　「曲物容器の推移」『月刊考古学ジャーナル』No.404　ニュー・サイエンス社
川村浩司　1988　「越後の古墳時代中・後期の土器について」『新潟考古学談話会会報』第1号　新潟考古学談話会
川村浩司　2000　「上越市の古墳時代の土器様相」『上越市史研究』第5号　上越市
川村浩司・笹沢　浩　2003　「12　中島廻り遺跡（No.68）」『上越市史　資料編2　考古』上越市
木島　勉　1985　『苦竹原A遺跡』糸魚川市教育委員会
木島　勉　1987　「後生山遺跡」『糸魚川市埋蔵文化財報告第14　昭和61年度遺跡範囲確認調査報告書』 糸魚川市教育委員会
木島　勉　2001　「Ⅰ．はじめに」「Ⅱ．発掘調査の概要」『国・史跡長者ヶ原遺跡保存整備事業報告書』 糸魚川市教育委員会
木島　勉　2005　「笛吹田遺跡」「後生山遺跡」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』（第2分冊） 新潟県考古学会
木島　勉・山岸洋一　1997　「長者ヶ原遺跡の縄文時代中期の集落域についてー遺構を中心としてー」『新潟考古 第8号』新潟県考古学会
木島　勉・山岸洋一　2006　『糸魚川市埋蔵文化財調査報告書52　平成17年度糸魚川市内遺跡発掘調査概要報告書』 糸魚川市教育委員会
木島　勉・寺崎裕助・山岸洋一　2007　『長者ヶ原遺跡』（日本の遺跡24） 同成社
國下多美樹　1988　「京都府下の紡錘車について」『京都考古』第50号　京都考古刊行会
桑原　健　2008　「第Ⅴ章　内磨砥石の分類」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第188集 横マクリ遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
桑原正史　1986　「第4章古墳時代の社会と文化　第6節大和政権と越佐」『新潟県史　通史編1　原始・古代』新潟県
計良由松　1960　「佐渡玉作遺跡について」『佐渡史学』第二集　佐渡史学会
小池勝典　2009　「南押上遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成20年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
小池義人・加藤　学　2000　『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第93集 裏山遺跡』新潟県教育委員会・財

団法人新潟県埋蔵文化財事業団
国立奈良文化財研究所　1985　『木器集成図録 近畿古代篇』
小島俊彰　1974　「北陸の縄文時代中期の編年」『大境』第５号　富山考古学会
小島俊彰　1988　「上山田・天神山式土器様式」『縄文土器大観』中期　小学館
小島俊彰　2008　「上山田・天神山式土器」『総覧　縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会
小島幸雄・川村浩司・笹沢　浩　2003　「12 中島廻り遺跡（No.68）」『上越市史　資料編２　考古』上越市
小林巌雄　2000　「Ⅰ 概説 1. 地形概説」『新潟県地質図説明書（2000 年度版）』新潟県商工労働部商工振興課
小林昌二　1996　「越地域における部民分布の再検討」『越と古代の北陸』 名著出版
小林昌二　2004　「第三部古代　第二節列島北辺の久比岐国造」『上越市史　通史編１　自然・原始・古代』 上越市教育委員会
五味一郎　1983　「石匙」『縄文文化の研究７ 道具と技術・補』 雄山閣出版
坂井秀弥　1983　「越後における七・八世紀の土器様相と画期について」『信濃』第 35 巻第４号
坂井秀弥　1989　「新潟県の黒色土器－６～８世紀を中心に」『東国土器研究』第２号　東国土器研究会
笹澤正史　2003　「第５章古代　第１節時代概説」『上越市史　資料編２　考古』上越市
笹澤正史　2005　「頸城地域における弥生時代後期から古墳時代前期の集落動態」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』（第１分冊） 新潟県考古学会
笹澤正史ほか　2007　『吹上遺跡範囲確認調査報告書』上越市教育委員会
笹澤正史・滝沢規朗　2003　「11　下割遺跡（No.64）」『上越市史　資料編２　考古』上越市
佐藤友子　2008　「田伏山崎遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 19 年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
沢田　敦・細井佳浩ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 154 集 三角田遺跡』新潟県教育委員会・（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団
三条市史編修委員会　1981　「七　白山遺跡」『三条市史』資料編第一巻
實川順一ほか　2009　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 191 集 角地田遺跡・平遺跡』新潟県教育委員会・新潟県埋蔵文化財調査事業団
品田高志　1990　「越後における古墳時代土器の変遷」『柏崎市立博物館　館報』No.4　柏崎市立博物館
品田高志　2003　「3 北割遺跡（No.12）」『上越市史　資料編２　考古』上越市
上越市史編さん委員会　2003　『上越市史』資料編２　考古　上越市
椙山林継　2006　「石製模造品」『考古学事典』 三省堂
須沢角地 A 遺跡発掘調査団　1988　『須沢角地 A 遺跡発掘調査報告書』 青海町教育委員会
鈴木俊成　1996　『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第 72 集 清水上Ⅱ遺跡（本文編）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
鈴木俊成ほか　1988　『新潟県埋蔵文化財事業団発掘調査報告書 第 51 集 小出越遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
鈴木俊成・春日真実ほか　1994　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 60 集 一之口遺跡東地区』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
鈴木郁夫　2000　「Ⅰ 概説 1. 地形概説」『新潟県地質図説明書（2000 年度版）』新潟県商工労働部商工振興課
関　雅之ほか　1972　『田伏玉作遺跡』糸魚川市教育委員会
関　雅之・藤田富士夫　2004　「北陸Ⅱ　新潟県・富山県」『日本玉作大観』吉川弘文館
大工原　豊　2008　「獣面把手」『総覧　縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会
高橋健自　1912　「古墳発見石製模造品の研究」帝室博物館

高橋浩二　2005　「富山県における高地性集落の解体と古墳の出現」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』（第１分冊）　新潟県考古学会

高橋　保・小池義人ほか　1986　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第45集 中原遺跡・岩野遺跡Ａ・岩野遺跡E』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

高橋　保･鈴木俊成･高橋保雄ほか　1990　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第55集 清水上遺跡』新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

高橋　保･高橋保雄　1992　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第57集 五丁歩遺跡･十二木遺跡』新潟県教育委員会･財団法人新潟県埋蔵文化財事業団』

高橋保雄ほか　2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第141集 北野遺跡（下層）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

滝沢規朗　2003　「14今池遺跡（No.81）」『上越市史　資料編２　考古』上越市

滝沢規朗　2005　「土器の分類と変遷」『シンポジウム新潟県における高地性集落の解体と古墳の出現』（第１分冊）　新潟県考古学会

滝沢規朗　2009a　「第Ⅶ章まとめ　Ｂ県内における高地性集落・環濠集落」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第199集　山元遺跡』　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

滝沢規朗　2009b　「新潟県における弥生時代の建物」『三面川流域の考古学』第７号　奥三面を考える会

滝沢規朗　2009c　「新潟県の月影甕」『新潟県の考古学』Ⅱ　新潟県考古学会

田嶋明人　1986　「考察－漆町遺跡出土土器の編年的考察」『漆町遺跡』Ⅰ　石川県立埋蔵文化財センター

田嶋明人　1988　「古代土器編年軸の設定－加賀地域にみる７世紀から11世紀中頃にかけての土器群の推移－」『シンポジウム　北陸の古代土器研究の現状と課題　報告編』　石川考古学研究会・北陸古代土器研究会

田嶋明人　2007　「法仏式と月影式」『石川県埋蔵文化財情報』第18号　財団法人石川県埋蔵文化財センター

田嶋明人　2008　「古墳確立期土器の広域編年－東日本を対象とした検討（その1）」『石川県埋蔵文化財情報』第20号　財団法人石川県埋蔵文化財センター

田嶋明人　2008　「古墳確立期土器の広域編年－東日本を対象とした検討（その2）」『石川県埋蔵文化財情報』第21号　財団法人石川県埋蔵文化財センター

田中　靖・丸山一昭　1999　「第３章弥生時代・古墳時代　第２節土器　第２項弥生中期後半」『新潟県の考古学』　高志書院

田辺昭三　1966　『陶邑古窯址群』Ⅰ　平安学園考古学クラブ

田辺昭三　1981　『須恵器大成』角川書店

丹野雅人　2008　「土器片加工円板・錘」『総覧　縄文土器』総覧縄文土器刊行委員会

継　実　2005　「第Ⅳ章５まとめ　d）舟形木製品」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第146集 西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

寺﨑裕助　2003　「山屋敷Ⅰ遺跡（NO.169）」『上越市史 資料編２考古』　上越市史編さん委員会

寺﨑裕助　2004　「新潟県縄文中期の土器事情」『火炎土器の研究』　同成社

寺﨑裕助　2009　「新潟県における新崎式系土器」『新潟県の考古学』Ⅱ　新潟県考古学会

寺﨑裕助ほか　1988　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第50集 原山・大塚遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

寺﨑裕助・秦　繁治　1990　『十二平遺跡発掘調査報告書』能生町教育委員会

寺﨑裕助・水落雅明　2009　「糸魚川市六反田遺跡の縄文時代遺跡」『新潟考古』第20号　新潟県考古学会

寺村光晴　1972　「北陸」『神道考古学講座』第二巻　雄山閣出版

寺村光晴　1974　『古代玉作の研究』 吉川弘文堂
寺村光晴　1986　「第 4 章古墳時代の社会と文化　第 4 節玉作と祭祀」『新潟県史　通史編 1』 新潟県
寺村光晴　1995　『日本の翡翠－その謎を探る』 吉川弘文館
寺村光晴　2003　「考古学上における貴石の出現－硬玉・琥珀の場合」『新世紀の考古学』 纂修堂
寺村光晴ほか　1969　『勾玉の故郷　はまやま』 富山県教育委員会・朝日町教育委員会
寺村光晴ほか　1974　『細池遺跡』糸魚川市教育委員会
寺村光晴ほか　1987　『史跡寺地遺跡』青海町教育委員会
寺村光晴・安藤文一・千家和比古ほか　1978　『笛吹田遺跡』 糸魚川市教育委員会
寺村光晴・安藤文一・千家和比古ほか　1979　『大角地遺跡』青海町教育委員会
戸根与八郎・北村　亮・高橋　保ほか　1992　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 28 集 木崎山遺跡』新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
長岡市　1992　『長岡市史 資料編 1 考古』 長岡市史編さん委員会
長澤展生　2008　「須沢角地遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 19 年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
長沼吉嗣　2008　「第Ⅶ章まとめ　5 木製祭祀具について」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 201 集 延命寺遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団
中野幸大　2008　「大木 7a 式～ 8b 式土器」『総覧　縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会
中村　浩　1976　『大阪府文化財調査報告書第 28 輯　陶邑Ⅰ』 大阪府教育委員会
中村　浩　2001　『和泉陶村窯出土須恵器の型式編年』芙蓉書房出版
贄田　明　1999　「第Ⅴ章調査成果　第 3 節木製品」『長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 37　榎田遺跡』第 2（本文編Ⅱ）･3 分冊（遺物図版）　日本道路公団･長野県教育委員会･長野県埋蔵文化財センター
久田正弘　2004　「南加賀地方における弥生時代の一様相」『石川県埋蔵文化財情報』第 11 号　財団法人石川県埋蔵文化財センター
藤田亮策ほか　1964　『長者ヶ原』 糸魚川市教育委員会
藤巻正信　1989　「土器片円盤について」『新潟考古学談話会会報』第 3 号　新潟考古学談話会
藤森栄一　1963　「縄文中期に於ける石匙の機能的変化について」『人類學雑誌』49 － 3　日本考古學會
北陸中世土器研究会　1997　『北陸の漆器考古学－中世とその前後－』第 1・2 分冊
細井佳浩　2007　「木製農具「大足」について」『新潟考古学談話会会報』第 32 号　新潟考古学談話会
前川雅夫ほか　2006　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 162 集 道端遺跡Ⅴ』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
水澤幸一　2005　「越後の中世土器」『新潟考古』第 16 号　新潟県考古学会
水澤幸一　2007　「越後の中世漆器」『新潟考古』第 18 号　新潟県考古学会
宮本長二郎　1981　「高床建築の出土部材」『月刊文化財』12 No.219 第一法規出版
宮本長二郎　1986　「古墳時代高床建築の扉構え」『中村遺跡』渋川市教育委員会・群馬県教育委員会
宮本長二郎　2007　『出土建築部材が解く古代建築』日本の美術 No.490　至文堂
村上年夫　1996　「木製食膳具」『月刊考古学ジャーナル』No.404　ニュー・サイエンス社
望月精司　2009　「南加賀窯跡群における在地窯の出現と地方窯成立」『石川考古学研究会々誌』第 52 号
望月精司ほか　1990　『二ッ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』 小松市教育委員会
本村充保　2006　「遺跡出土下駄の全国的集成に基づく編年および地域性の抽出に関する基礎的研究」『橿原考古学研究所紀要　考古学論攷』第 29 冊　奈良県立橿原考古学研究所
安　英樹ほか　2006　『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』 石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター

山岸洋一　2006　『糸魚川市埋蔵文化財調査報告書 53 平成 17 年度笛吹田遺跡発掘調査報告書』糸魚川市教育委員会

山崎忠良ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 201 集 延命寺遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

山田昌久　2003　『考古資料大観』第 8 巻弥生・古墳時代　木・繊維製品

山本　肇　1986　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 52 集 三ツ屋原 B 遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

山本　肇ほか　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 114 集 岩倉遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財事業団

山本正敏　1987　『北陸自動車道関係発掘調査報告ー朝日町編 5（境 A 遺跡　石器編）ー』 富山県教育委員会

矢部英生　2007　「山岸遺跡」『財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成 18 年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

吉岡康暢　1984　「Ⅱ須恵器の源流　北陸地方」『日本陶磁の源流－須恵器出現の謎を探る』 柏書房

吉岡康暢　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館

渡邊裕之ほか　2008　『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第 188 集 横マクリ遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

遺構観察表（竪穴住居）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI1J	中葉	45A	N－75°－E	16.26	隅丸長方形	台形状	レンズ状	4.48	3.63	0.25	4.18
		炉跡(形態)		長軸方位	構成礫数	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		石囲炉＋掘込		N－75°－E	5	台形状	ブロック状	0.58	0.32	0.20	3.94
		石囲部			5	台形状	ブロック状	0.34	0.20	0.20	3.84
		掘込部				台形状	ブロック状	0.24	0.34	0.12	3.94
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		P15J		N－S	円形	半円状	単層	0.09	0.08	0.05	3.92
		P16J		N－S	円形	弧状	単層	0.22	0.22	0.07	4.04
		P18J		N－S	円形	弧状	単層	0.15	0.15	0.05	4.12
		P22J		N－S	円形	U字状	単層	0.27	0.26	0.25	3.92
		P23J		N－S	円形	U字状	ブロック状	0.39	0.36	0.30	3.92
		P24J		N－27°－E	楕円形	V字状	単層	0.50	0.35	0.35	3.80
		P25J		N－19°－W	楕円形	U字状	単層	0.12	0.10	0.22	4.04
		P27J		N－75°－W	楕円形	台形状	単層	0.39	0.33	0.26	3.88
		P28J		N－12－W	楕円形	U字状	単層	0.29	0.23	0.30	3.82
		P29J		N－S	円形	台形状	単層	0.29	0.27	0.22	3.98

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI2J		45AZ・A	N－8°W	15.31	隅丸長方形	台形状	水平－レンズ	4.80	3.19	0.26	4.12
		炉跡(形態)		長軸方位	炉体土器1	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		土器敷炉		N－87°－W	図版26－4			0.36	0.31	0.09	4.08
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		P14J			楕円形	弧状	単層	0.31	0.28	0.10	4.04
		P19J		N－S	円形	U字状	単層	0.17	0.17	0.20	3.99
		P20J		N－S	円形	U字状	単層	0.23	0.21	0.17	4.00
		P31J		N－S	円形	U字状	単層	0.33	0.30	0.26	3.90
		P32J		N－S	円形	U字状	単層	0.14	0.12	0.16	4.00
		P33J		N－73°－W	楕円形	半円状	単層	0.36	0.31	0.20	3.94
		P34J		N－S	円形	U字状	単層	0.25	0.23	0.19	3.95
		P35J		N－S	円形	半円状	単層	0.31	0.30	0.20	3.92

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI4J	中葉	44A・B	N－48°－W	(18.64)	隅丸方形	台形状	斜位	4.66	(4.00)	0.12	4.08
		炉跡(形態)		長軸方位	構成礫数	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		石囲炉＋石敷炉		N－49°－W	8		ブロック状	0.99	0.35	0.12	3.97
		石囲部			5		ブロック状	0.37	0.29	0.09	4.10
		石敷部			3		ブロック状	0.30	0.25	0.12	3.97
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		P37J		N－41°－S	楕円形	半円状	単層	0.31	0.26	0.19	3.94
		P38J		N－S	円形	半円状	単層	0.33	0.33	0.15	3.93
		P39J		N－S	円形	U字状	単層	0.36	0.36	0.22	3.84
		P40J		N－S	円形	半円状	単層	0.30	0.30	0.14	3.96
		P41J		N－39°－E	楕円形	半円状	単層	0.26	0.22	0.06	3.97
		P43J		N－S	円形	箱状	単層	0.30	0.30	0.12	3.92
		P44J		N－S	円形	半円状	単層	0.32	0.32	0.12	3.97

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI5J	中葉	44A・45A	N－3°－E		楕円形	台形状	レンズ状	4.28+	3.88	0.14	4.08
		炉跡(形態)		長軸方位	構成礫数	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		石囲炉＋埋甕炉		N－48°－W	3		ブロック状	1.08	1.57	0.22	3.88
		石囲部			3		ブロック状	0.25	0.20	0.12	3.98
		炉体土器1(報告№22)					ブロック状	0.30	0.30	0.27	3.88
		炉体土器2(報告№23a)					ブロック状	0.24	0.24	0.11	3.99
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		P48J		N－S	円形	台形状	ブロック状	0.32	0.32	0.14	3.92
		P65J		N－11°－E	楕円形	V字状	単層	0.17	0.13	0.09	3.92
		P66J		N－S	円形	U字状	単層	0.13	0.13	0.12	3.97
		P67J		N－S	円形	V字状	単層	0.10	0.10	0.07	4.06
		P68J		N－S	円形	台形状	単層	0.17	0.17	0.10	3.95

遺構観察表(竪穴建物)

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI3J	前葉	46AZ・A	N－75°－W		隅丸方形か	台形状	水平-レンズ	1.8＋	3.38	0.16	4.15
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
		P13J		N－57°－E	楕円形	半円状	レンズ状	0.25	0.20	0.13	4.06
		P17J		N－8°－W	楕円形	弧状	単層	0.25	0.20	0.17	4.10
		P21J		N－79°－E	楕円形	U字状	レンズ状	0.24	0.20	0.22	3.94

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI6J	中葉	44A	N－33°－W		楕円形	弧状	レンズ状	4.48	3.86	0.42	3.76

遺構観察表（竪穴建物）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI7J	中葉	43A・B	N－77°－W		不整形	弧状	ブロック状	3.60	2.96	0.24	3.76
		柱穴		長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)		深さ(m)	底面標高(m)
		P77J		N－17°－E	方形	台形状	単層	0.48	0.34	0.22	3.64
		P78J		N－19°－W	楕円形	V字状	単層	0.11	0.11	0.13	3.76
		P79J		N－50°－E	楕円形	半円状	単層	0.25	0.20	0.22	3.64
		P80J		N－63°－E	楕円形	V字状	単層	0.17	0.17	0.16	3.74
		P81J		N－S	円形	台形状	単層	0.17	0.17	0.10	3.83
		P82J		N－63°－E	楕円形	弧状	単層	0.39	0.33	0.12	3.74

遺構番号	時期	位置	長軸方位	面積(㎡)	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SI8J	中葉	43B	N－67°－W		楕円形	弧状	レンズ状	2.68＋	2.06	0.20	3.82

遺構観察表（埋設土器）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
埋設土器	前葉	43A25	N－S	不明	不明	不明	0.20	0.20	0.18	3.89

遺構観察表（土坑）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SK8J		45A17	N－76°－E	楕円形	漏斗状	単層	0.60	0.50	0.27	4.05
SK9J		45A	N－68°－E	不明	漏斗状	水平	0.60＋	0.60	0.18	4.00
SK42J		44B8	N－75°－E	楕円形	弧状	単層	0.84	0.28	0.15	3.93
SK54J		44AZ21・22	N－70°－W	楕円形	弧状	レンズ状	1.23	0.99	0.18	3.84
SK57J		46AZ23・46A3	N－20°－E	不整形	台形状	ブロック状	1.60	1.18	0.16	4.04
SK59J		44A・B	N－S	円形	弧状	レンズ状	1.53	1.53	0.29	3.71
SK60J		43B・44B	E－W	不整形	弧状	単層	1.18	0.85	0.14	4.00

遺構観察表（性格不明遺構）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
SX36J		44A19	N－35°－E	不整形	台形状	ブロック状	0.62	0.47	0.09	4.06
SX61J		42B11・12	N－S	不明	台形状	単層	1.54	0.67＋	0.12	3.78
SX71J		33B7・8	N－84°－E	不整形		Ⅶ層	1.25	0.98	0.09	3.41
SX72J		33B9	N－57°－W	不整形		Ⅶ層	0.69	0.43	0.03	3.44
SX73J		33B13	N－4°－W	不整形		Ⅶ層	1.11	0.70	0.02	3.48
SX74J	前葉	34B16	N－25°－E	不整形		Ⅶ層	0.65	0.42	0.06	3.38
SX75J		33A3・4・8・9	N－8°－W	不整形		Ⅶ層	0.32	0.19	0.24	3.56
SX76J		33A2	N－S	不整形		Ⅶ層	1.01	0.75	0.10	3.52

遺構観察表（ピット）

遺構番号	時期	位置	長軸方位	平面形	断面形	覆土	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	底面標高(m)
P4J		45A11	N－S	円形	弧状	単層	0.20	0.19	0.09	4.22
P5J		45A11	N－84°－W	楕円形	弧状	単層	0.15	0.12	0.11	4.20
P6J		45A17	N－S	円形	U字状	レンズ状	0.18	0.16	0.24	3.92
P7J		46AZ16・21	N－S	円形	V字状	単層	0.33	0.32	0.25	4.12
P10J		45A17	N－S	円形	U字状	ブロック状	0.10	0.09	0.17	3.98
P11J		45A17	N－S	円形	U字状	レンズ状	0.09	0.09	0.25	3.94
P12J		45A17	N－S	円形	U字状	ブロック状	0.15	0.15	0.15	4.02
P26J		45A4	N－S	円形	U字状	単層	0.19	0.18	0.19	4.25
P30J		46A1	N－44°－W	楕円形	漏斗状	水平	0.37	0.28	0.25	4.40
P49J		44A4・9	N－30°－E	半円状	U字状	ブロック状	0.22	0.18	0.16	4.04
P50J		44A5	N－10°－W	楕円形	U字状	単層	0.25	0.20	0.24	4.02
P51J		44A5	N－57°－E	楕円形	台形状	単層	0.25	0.20	0.12	4.12
P52J		44A4	N－77°－E	円形	箱状	単層	0.17	0.17	0.16	4.04
P53J		44AZ24	N－84°－E	楕円形	U字状	単層	0.20	0.14	0.16	4.04
P55J		43A24	N－41°－W	楕円形	V字状	単層	0.27	0.19	0.20	3.92
P56J		43A24	N－S	円形	半円状	単層	0.18	0.18	0.18	3.96
P58J		46A3	N－31°－W	楕円形	弧状	レンズ状	0.47	0.32	0.11	4.02

下層石器・石製品観察表（1）

報告No.	出土位置				種別	分類		石材	法量				備考
	地区	グリッド	遺構	層位		分類１	分類２		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
191	①	44A18		Ⅶ層	石錐			チャート	2.90	1.40	0.70	2.8	
192	①	47A14		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	安山岩	13.50	6.40	2.20	231.5	
193	①	42B3		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	15.00	7.10	2.60	305.9	
194	①	45B7		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	16.30	5.90	2.30	234.3	
195	①	48AZ18		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	細粒砂岩	14.90	7.00	2.30	277.8	
196	①	42B7		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	黒色細粒砂岩	13.00	6.00	2.10	245.0	
197	①	45A16		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	流紋岩	12.40	5.10	2.00	153.7	
198	①	44A14	SI5J	覆土	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	8.90	4.60	1.65	85.3	
199	①	43B2		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	細粒砂岩	10.60	4.80	1.80	110.3	
200	①	46B1		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	安山岩	11.70	5.30	1.80	146.7	
201	①	43B10		Ⅶ層	打製石斧	B類	1類	安山岩	17.30	5.80	2.10	196.1	
202	①	45B2		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	安山岩	16.50	5.70	1.80	250.0	
203	①	46A16		Ⅶ層	打製石斧	B類	3類	細粒砂岩	15.10	5.80	2.50	271.3	
204	①	43A15		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	安山岩	18.70	7.50	3.35	479.6	
205	①	44A9		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	安山岩	12.40	6.70	2.80	255.4	
206	①	44A22		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	白色細粒砂岩	12.50	7.00	2.75	269.9	
207	①	46AZ2		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	蛇紋岩	17.50	6.80	2.30	208.0	
208	①	46A6		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	黒色細粒砂岩	12.90	6.30	2.10	230.3	
209	①	47A3		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	細粒砂岩	11.50	5.90	2.30	205.3	
210	①	46A1	SI3J	覆土	打製石斧	A類	1類	細粒砂岩	7.60	5.40	2.20	100.8	
211	①	46A2		Ⅶ層	打製石斧	B類		流紋岩	9.50	5.70	2.10	169.3	
212	①	45A20		Ⅶ層	打製石斧未製品	B類		黒色細粒砂岩	12.40	6.60	3.40	332.1	
213	①	45B8		Ⅶ層	磨製石斧	小形	円刃	蛇紋岩	5.20	2.40	0.75	17.0	
214	①	44A13		Ⅶ層	磨製石斧	大形	偏円刃	蛇紋岩	11.40	5.60	2.00	219.4	
215	①	45A20	SI5J	覆土	磨製石斧	大形	偏円刃	蛇紋岩	8.00	5.10	2.20	151.6	
216	①	45AZ25		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	3.60	3.10	1.50	12.0	
217	①	42B3		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	6.20	3.70	1.30	55.5	
218	①	42B6		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	8.90	4.90	2.30	157.3	
219	①	45A21		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	9.95	6.65	2.80	277.7	
220	①	45A12		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	7.50	5.70	2.40	174.8	
221	①	44A3	SI4J	覆土	磨製石斧未製品	C類	4類	蛇紋岩	8.30	7.50	3.20	344.6	
222	①	42B15		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	4類	蛇紋岩	15.00	6.90	2.55	322.4	
223	①	43B8		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	5類	蛇紋岩	8.80	6.10	3.30	231.0	
224	①	44A13	SI6J	覆土	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	21.50	8.90	3.90	747.6	
225	①	43B3＋44A2		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	16.20	7.30	4.00	747.4	
226	①	42A11		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	17.20	6.90	3.60	559.7	
227	①	44A19	SI5J	覆土	磨製石斧未製品	B類	3類	蛇紋岩	12.70	6.50	3.50	382.2	
228	①	44A18	SI6J	覆土	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.20	5.90	2.90	295.5	
229	①	45A13		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.50	6.30	2.50	174.0	
230	①	44A23		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	3類	蛇紋岩	13.70	7.00	4.45	678.2	
231	①	44A11		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	9.40	4.60	1.70	111.6	
232	①	45AZ25		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.50	6.90	3.40	355.2	
233	①	43A15		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	3類	蛇紋岩	13.40	9.20	4.50	584.0	
234	①	45AZ25		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	12.40	10.40	5.60	842.7	
235	①	45B1		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	16.40	9.10	4.60	971.2	
236	①	44A2		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	7.30	4.90	2.25	127.4	
237	①	42B7		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	2類	蛇紋岩	13.50	6.50	3.00	280.8	
238	①	45A6		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	2類	蛇紋岩	11.20	11.30	4.40	590.0	
239	①	47A18		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	10.10	5.10	2.10	164.0	
240	①	42B7		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	9.30	5.00	1.90	157.2	
241	①	44A19	SI5J	覆土	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	7.20	5.20	2.30	105.6	
242	①	44A23		Ⅶ層	磨製石斧未製品	B類	2類	蛇紋岩	14.20	8.90	5.30	1028.2	
243	①	43B4	SI7J	覆土	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	10.00	7.40	3.85	272.4	
244	①	44A15	SI5J	覆土	磨製石斧未製品	B類	1類	蛇紋岩	12.80	7.00	3.20	332.0	剥片素材
245	①	44A22		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	1類	蛇紋岩	4.60	1.90	0.60	8.2	
246	①	44A19	SI6J	覆土	磨製石斧未製品	C類	1類	蛇紋岩	5.80	3.65	1.20	36.1	
247	①	44A11		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	1類	蛇紋岩	8.10	3.60	1.80	62.9	
248	①	44A15	SI5J	覆土	砥石	A類		粗粒砂岩	17.60	14.60	5.90	1615.0	
249	①	43B4	SI7J	覆土	砥石	A類		粗粒砂岩	12.00	10.20	9.50	1085.3	
250	①	44A19		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	11.30	9.40	2.55	300.3	
251	①	44A15	SI5J	覆土	砥石	A類		粗粒砂岩	23.00	14.20	5.60	2405.0	
252	①	44A24		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	10.70	8.50	7.40	883.3	
253	①	44A8	SI4J	覆土	砥石	A類		細粒砂岩	12.60	11.70	2.20	493.6	
254	①	45A16		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	10.60	9.50	6.30	669.3	
255	①	45A6		Ⅶ層	砥石	C類		安山岩	7.50	3.20	1.40	53.4	
256	①	44A3	SI4J	覆土	砥石	B類	1類	粗粒砂岩	5.30	12.00	1.80	100.4	
257	①	44A24	SI4J	覆土	砥石	B類	1類	粗粒砂岩	4.20	6.90	0.95	24.5	
258	①	44A12	SI6J	覆土	砥石	B類	1類	粗粒砂岩	5.20	6.70	1.35	50.4	
259	①	44A14	SI5J	覆土	砥石	B類	1類	粗粒砂岩	6.75	7.70	2.00	104.3	
260	①	47A14		Ⅶ層	砥石	B類	2類	黒色細粒砂岩	7.35	11.50	1.60	139.2	
261	①	44A3	SI4J	覆土	敲石	A類	2類	翡翠	8.20	7.50	4.10	394.5	
262	①	44A3	SI4J	覆土	敲石	A類	3類	翡翠	6.30	4.20	3.70	162.2	
263	①	44A15	SI5J	覆土	敲石	A類	3類	翡翠	5.60	3.90	1.60	58.5	
264	①	44A14		Ⅶ層	敲石	A類	3類	翡翠	5.00	3.50	2.15	56.6	
265	①	44A24		Ⅶ層	敲石	A類	3類	翡翠	4.90	5.10	4.50	131.3	
266	①	44A13		Ⅶ層	敲石	A類	3類	翡翠	4.70	3.40	3.15	70.5	
267	①	44A14	SI5J	覆土	敲石	A類	1類	蛇紋岩	3.60	4.00	3.30	77.6	
268	①	44A20		Ⅶ層	敲石	A類	1類	蛇紋岩	5.80	6.00	5.20	300.7	
269	①	44A9		Ⅶ層	敲石	A類	2類	チャート	10.70	11.60	7.80	1230.0	
270	①	44B8	SI4J	覆土	敲石	A類	2類	蛇紋岩	9.40	8.50	7.40	722.5	
271	①	44A8	SI4J	覆土	敲石	A類	2類	蛇紋岩	8.70	7.40	7.00	644.7	
272	①	46A1		Ⅶ層	敲石	B類		白色細粒砂岩	13.40	4.70	4.10	381.0	
273	①	43A20		Ⅶ層	敲石	B類		蛇紋岩	11.20	6.00	2.80	307.1	
274	①	44A9	SI4J	覆土	敲石	B類		蛇紋岩	7.20	5.60	2.30	146.4	
275	①	44A14		Ⅶ層	敲石	B類		蛇紋岩	9.20	3.90	2.60	122.9	
276	①	44B1		Ⅶ層	磨石類	A類	1類	安山岩	13.40	10.10	5.10	1052.6	
277	①	43B9		Ⅶ層	磨石類	A類	1類	安山岩	7.70	7.30	4.70	377.4	
278	①	44A		Ⅶ層	磨石類	A類	1類	安山岩	12.10	8.70	4.60	734.7	
279	①	46A3		Ⅶ層	磨石類	A類	2類	白色細粒砂岩	15.20	6.80	3.90	631.6	
280	①	44A20		Ⅶ層	磨石類	A類	2類	安山岩	13.40	8.30	2.80	537.3	
281	①	46A24		Ⅶ層	磨石類	C類		粗粒砂岩	13.90	8.90	4.80	834.6	
282	①	44B10	SK60J	覆土	台石			安山岩	35.10	24.40	11.80	20000.0	
283	①	44A14	SI5J	覆土	台石			細粒砂岩	21.60	20.00	5.50	3500.0	石囲炉を構成する
284	①	45AZ23		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	細粒砂岩	8.00	8.90	1.90	186.9	
285	①	45AZ25		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	流紋岩	7.20	10.60	1.80	155.9	
286	①	47A5		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	安山岩	7.50	10.40	2.00	179.1	
287	①	47A3		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	流紋岩	7.10	9.90	3.30	201.7	
288	①	44B4	P52J	覆土	スクレイパー	A類	3類	流紋岩	8.95	13.42	2.50	267.8	

下層石器・石製品観察表（2）

報告No.	出土位置				種別	分類		石材	法量				備考
	地区	グリッド	遺構	層位		分類１	分類２		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
289	①	44A8	SI4J	Ⅶ層	スクレイパー	A類	2類	細粒砂岩	7.20	11.80	2.10	171.2	
290	①	44B1		Ⅶ層	スクレイパー	A類	3類	細粒砂岩	8.20	13.90	1.70	240.7	
291	①	44B3		Ⅶ層	スクレイパー	B類	2類	黒色細粒砂岩	5.20	7.90	1.05	41.5	
292	①	43B12		Ⅶ層	スクレイパー	B類	3類	白色細粒砂岩	5.60	9.20	1.10	60.2	
293	①	45B3	SI4J,P44J	覆土	スクレイパー	B類	3類	黒色細粒砂岩	4.30	5.50	1.10	26.4	
294	①	46A8		Ⅶ層	礫器			安山岩	8.10	5.20	1.90	133.4	
295	①	45AZ24		Ⅶ層	石核	C類	1類	中粒砂岩	9.70	18.90	3.50	897.1	
296	①	45A2		Ⅶ層	石核	B類	1類	細粒砂岩	10.50	10.50	4.20	695.5	
297	①	45A9	SI1J	覆土	石核	A類	1類	安山岩	20.40	21.60	6.40	4605.0	石囲炉を構成する
298	①	44A14	SI5J	覆土	石核	B類	2類	流紋岩	16.00	13.30	4.60	1160.0	石囲炉を構成する
299	①	43A20		Ⅶ層	石核	B類	1類	安山岩	10.30	12.90	4.00	643.0	
300	①	44A18	SI6J	覆土	石核	B類	1類	安山岩	10.60	9.20	4.30	553.0	
301	①	44A15	SI5J	覆土	石核	B類	2類	蛇紋岩	13.10	11.70	4.90	930.4	
302	①	44A4	SI4J	覆土	石核	B類	1類	細粒砂岩	10.10	10.60	3.10	352.3	
303	①	44A14	SI5J	覆土	石核	B類	1類	安山岩	11.60	9.20	4.20	726.5	
304	①	44B8		Ⅶ層	石核	B類	1類	安山岩	12.70	9.35	5.20	908.7	
305	①	46A11		Ⅶ層	石核	C類	1類	安山岩	8.80	6.50	2.90	200.7	
306	①	46AZ21		Ⅶ層	石核	C類	2類	細粒砂岩	4.30	5.10	1.80	50.9	
307	①	45AZ25	SI2J	覆土	石核			チャート	2.50	2.70	2.60	18.2	
308	①	42C5		Ⅶ層	板状原石			黒曜石	6.00	2.60	1.00	18.6	第Ⅶ章1-G 分析NO.1
309	①	45A9	SI1J	覆土	剥片			黒曜石	2.40	2.20	0.70	3.3	第Ⅶ章1-G 分析NO.2
310	①	45A14	SI1J	覆土	剥片			黒曜石	1.60	2.20	1.10	3.2	第Ⅶ章1-G 分析NO.3
311	①	46AZ16		Ⅶ層	剥片			黒曜石	4.20	1.20	0.30	1.2	第Ⅶ章1-G 分析NO.4
312	①	45B16	SI5J	覆土	剥片			黒曜石	2.50	1.80	0.50	1.8	第Ⅶ章1-G 分析NO.5
313	②	51A22		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	流紋岩	18.00	10.30	2.90	493.6	
314	②	48A22		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	安山岩	15.50	6.80	2.65	331.3	
315	②	47AZ22		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	細粒砂岩	14.80	7.30	2.50	285.2	
316	②	51A17		Ⅶ層	打製石斧	B類	1類	細粒砂岩	13.30	5.10	2.00	181.8	
317	②	51A8		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	中粒砂岩	14.00	7.30	2.70	292.1	
318	②	49B5		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	安山岩	13.70	7.50	2.50	235.0	
319	②	51AZ14		Ⅶ層	打製石斧	B類	1類	閃緑岩	12.10	4.80	2.00	166.7	
320	②	47AZ20		Ⅶ層	打製石斧	B類	1類	安山岩	15.50	6.40	2.50	338.7	
321	②	47B1		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	白色細粒砂岩	16.50	7.00	3.00	420.5	
322	②	47A1		Ⅶ層	打製石斧	B類	1類	閃緑岩	13.90	5.50	2.10	220.1	
323	②	50A5		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	安山岩	11.50	5.80	2.20	176.9	
324	②	49A23		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	黒色細粒砂岩	11.90	6.40	1.80	171.6	
325	②	47A11		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	安山岩	10.50	4.80	1.90	122.6	
326	②	51A22		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	安山岩	10.20	5.60	1.50	81.1	
327	②	48A18		Ⅶ層	打製石斧	B類		流紋岩	13.10	5.90	2.80	276.6	
328	②	54A11		Ⅶ層	打製石斧	B類		細粒砂岩	14.10	7.00	2.90	386.2	
329	②	52A2		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	8.40	5.85	2.60	201.5	
330	②	51AZ18		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	4.70	4.30	1.50	44.0	
331	②	51A17		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	3.10	5.00	1.60	25.3	
332	②	56A12		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	8.40	3.70	1.75	64.2	
333	②	54B8		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	20.80	12.40	6.30	1690.0	
334	②	54A21		Ⅶ層	砥石	B類	2類	細粒砂岩	4.90	8.90	1.40	67.8	
335	②	50AZ25		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	8.50	6.10	3.00	211.3	
336	②	54AZ25		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	安山岩	7.50	13.60	2.20	282.5	
337	②	49B5		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	安山岩	7.50	11.55	1.70	185.2	
338	②	50A19		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	細粒砂岩	7.60	12.50	2.40	252.3	
339	②	48A21		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	白色細粒砂岩	7.00	8.00	1.95	132.2	
340	②	51A22		Ⅶ層	石核	C類	1類	白色細粒砂岩	6.20	8.10	2.60	181.3	
341	②	52AZ21		Ⅶ層	石核	B類	2類	閃緑岩	13.10	8.60	4.20	646.5	
342	②	47AZ23		Ⅶ層	石核	C類	2類	細粒砂岩	9.60	6.50	3.60	265.9	
343	②	52A1		Ⅶ層	石核	C類	2類	細粒砂岩	9.10	7.30	2.80	249.3	
344	②	51A9		Ⅶ層	礫器			細粒砂岩	8.00	7.20	1.90	141.2	
345	②	56A7		Ⅶ層	台石			細粒砂岩	17.50	23.20	3.70	1760.0	
346	③	35B11		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	中粒砂岩	14.80	7.30	2.50	293.9	
347	③	39B3		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	安山岩	15.10	7.10	2.15	249.2	
348	③	37A14		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	閃緑岩	14.50	6.50	2.40	301.7	
349	③	29A		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	安山岩	14.30	8.00	2.55	377.1	
350	③	33A14		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	白色細粒砂岩	15.40	7.20	2.80	315.3	
351	③	33A13		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	安山岩	12.40	5.30	1.45	104.5	
352	③	40AZ24		Ⅶ層	打製石斧	A類	1類	細粒砂岩	13.70	8.40	2.60	307.8	
353	③	41A19		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	閃緑岩	12.60	6.00	2.00	192.0	
354	③	35B14		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	15.20	6.20	2.00	202.8	
355	③	35B7		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	安山岩	13.80	7.70	2.50	309.3	
356	③	37A19		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	閃緑岩	13.20	6.70	1.80	205.7	
357	③	35B6		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	白色細粒砂岩	11.80	5.40	2.10	115.7	
358	③	40A8		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	閃緑岩	16.10	7.80	3.30	497.4	
359	③	34A23		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	白色細粒砂岩	16.30	7.00	2.40	287.3	
360	③	39AZ24		Ⅶ層	打製石斧	B類	2類	閃緑岩	14.20	5.30	1.95	202.6	
361	③	34B19		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	黒色細粒砂岩	11.90	6.60	1.60	131.7	
362	③	37A19		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	細粒砂岩	9.20	5.80	1.50	79.7	
363	③	39A21		Ⅶ層	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	12.80	8.50	1.80	207.3	
364	③	33B15		Ⅶ層	打製石斧	A類		黒色細粒砂岩	11.20	5.90	1.80	137.9	
365	③	35A15		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	黒色細粒砂岩	10.90	6.10	1.90	177.3	
366	③	34B10		Ⅶ層	打製石斧	A類	3類	安山岩	10.70	7.50	1.80	152.3	
367	③	34B15		Ⅶ層	打製石斧	A類		白色細粒砂岩	9.50	5.00	1.85	94.3	折断後調整(調整全周)
368	③	39A23		Ⅶ層	打製石斧	A類		安山岩	11.60	6.00	1.80	154.2	
369	③	30A23		Ⅶ層	打製石斧	A類		黒色細粒砂岩	12.50	8.90	2.40	204.3	刃部をノッチ状に調整
370	③	34B2		Ⅶ層	打製石斧未製品	A類		白色細粒砂岩	13.40	6.50	2.30	223.7	
371	③	34B15		Ⅶ層	打製石斧未製品	B類		安山岩	10.30	5.60	2.80	246.7	
372	①	35A9		Ⅶ層	局部磨製石斧	C類		黒色細粒砂岩	10.40	6.70	1.95	119.1	
373	③	32B5		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	9.20	4.10	1.80	110.3	
374	③	29A		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	7.30	5.95	1.90	106.4	
375	③	40B1		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	4.30	5.20	1.60	42.2	
376	③	35B1		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	5.70	5.00	2.10	79.5	
377	③	40B1		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	4.00	5.80	2.00	65.4	
378	③	35A24		Ⅶ層	磨製石斧	大形	円刃	蛇紋岩	3.60	4.10	1.20	16.2	
380	③	34B20		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	11.90	4.30	2.00	173.6	
379	③	32B18		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	8.80	5.30	2.10	181.0	
381	③	31B7		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	5.10	5.50	1.40	54.5	
382	③	33B6		Ⅶ層	磨製石斧	大形		蛇紋岩	7.00	5.20	2.10	95.5	
383	③	33B20,34B		Ⅶ層	磨製石斧未製品	A類	3類	蛇紋岩	19.50	9.30	4.40	1230.0	
384	③	39B5		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	9.80	9.80	3.40	566.4	
385	③	33B6		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.60	8.50	3.40	424.0	
386	③	36A24		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	9.30	5.00	2.50	138.0	

下層石器・石製品観察表（3）

報告No.	出土位置				種別	分類		石材	法量				備考
	地区	グリッド	遺構	層位		分類１	分類２		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
387	③	34A4		Ⅶ層	磨製石斧未製品	C類	2類	片麻岩	7.30	3.70	1.15	29.8	
388	③	39B5		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	8.00	8.90	5.40	425.8	
389	③	29A		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	12.10	9.80	4.50	601.8	
390	③	27A		Ⅶ層	砥石	A類		粗粒砂岩	43.20	19.00	10.00	9800.0	
391	③	30A24		Ⅶ層	砥石	B類	2類	黒色細粒砂岩	11.00	17.40	3.00	704.9	
392	③	30A13		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	10.50	4.00	3.60	186.3	
393	③	29B		Ⅶ層	敲石	B類		翡翠	3.10	3.20	2.90	44.2	
394	③	32A12		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	13.00	6.90	4.30	430.6	
395	③	32A20		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	14.70	5.70	3.70	463.1	
396	③	26A		Ⅶ層	敲石	B類		安山岩	12.40	5.60	2.80	314.4	
397	③	35A22		Ⅶ層	敲石	B類		閃緑岩	11.50	5.50	3.50	314.4	
398	③	33B6		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	8.50	6.00	3.40	225.4	
399	③	35A24		Ⅶ層	敲石	B類		細粒砂岩	7.50	5.10	3.90	201.2	
400	③	28A		Ⅶ層	敲石	B類		安山岩	8.10	5.30	3.30	198.5	
401	③	33B15		Ⅶ層	敲石	B類		閃緑岩	7.20	5.75	5.10	294.4	
402	③	32A19		Ⅶ層	磨石類	A類	2類	閃緑岩	11.20	9.20	5.20	800.3	
403	③	33A19		Ⅶ層	磨石類	B類		細粒砂岩	11.60	7.90	3.60	453.8	
404	③	36B14		Ⅶ層	磨石類	B類		細粒砂岩	9.70	8.30	5.10	461.8	
405	③	31B8		Ⅶ層	磨石類	B類		細粒砂岩	10.60	8.80	6.40	733.9	
406	③	27B		Ⅶ層	石皿			安山岩	10.90	12.70	4.40	937.1	
407	③	37A		Ⅶ層	台石			安山岩	14.60	13.60	6.10	1700.0	
408	③	39A25		Ⅶ層	台石			細粒砂岩	11.50	11.40	4.30	811.0	
409	③	32A24		Ⅶ層	礫器			安山岩	7.30	6.60	1.80	132.5	
410	③	37A11		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	細粒砂岩	8.80	11.30	1.80	254.5	
411	③	29A		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	黒色細粒砂岩	10.80	8.20	2.00	258.7	
412	③	31B7		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	黒色細粒砂岩	9.40	12.50	2.40	368.5	
413	③	32B21		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	安山岩	11.60	8.30	2.10	274.7	
414	③	34B4		Ⅶ層	スクレイパー	A類	1類	白色細粒砂岩	8.20	12.30	2.00	233.4	
415	③	34B15		Ⅶ層	スクレイパー	B類	1類	細粒砂岩	8.70	10.00	1.80	188.7	
416	③	33B10		Ⅶ層	スクレイパー	B類	2類	黒色細粒砂岩	8.70	8.70	2.10	179.6	
417	③	35A16		Ⅶ層	スクレイパー	B類	2類	黒色細粒砂岩	7.10	9.50	1.20	89.0	
418	③	37B2		Ⅶ層	スクレイパー	B類	2類	細粒砂岩	9.30	9.50	1.05	169.8	
419	③	34B2		Ⅶ層	スクレイパー	A類	3類	流紋岩	9.90	11.70	1.70	233.3	
420	③	40A9		Ⅶ層	スクレイパー	A類	3類	細粒砂岩	14.00	12.00	4.40	711.8	
421	③	26A		Ⅶ層	貝殻状剥片			流紋岩	14.70	23.80	5.00	1750.0	
422	③	36A18		Ⅶ層	石核	A類	1類	安山岩	24.60	34.10	13.60	16200.0	
423	③	32B4		Ⅶ層	石核	C類	1類	粗粒砂岩	9.30	13.80	4.60	785.6	
424	③	33B10		Ⅶ層	石核	C類	2類	安山岩	9.80	8.50	3.95	421.1	
425	③	37A19		Ⅶ層	石核	B類	3類	安山岩	16.00	14.30	5.30	164.0	
426	③	33A21		Ⅶ層	石核	B類	3類	細粒砂岩	12.00	12.80	4.80	967.7	
427	③	34B6		Ⅶ層	石核	B類	2類	細粒砂岩	10.70	6.60	3.00	223.5	
428	③	26B		Ⅶ層	石核	B類	3類	細粒砂岩	17.25	6.90	5.00	706.2	
429	③	32B23		Ⅶ層	石核	C類	2類	安山岩	7.20	5.70	1.40	110.5	
430	③	33A25		Ⅶ層	石核	B類	2類	細粒砂岩	12.70	9.70	2.60	312.5	
431	③	39A7		Ⅶ層	石核	B類	1類	安山岩	15.20	7.20	4.00	636.2	
432	③	31B3		Ⅶ層	石錘			安山岩	10.50	7.50	2.80	349.3	
433	④	40A	流路１	2	砥石	B類	2類	細粒砂岩	9.70	7.50	2.60	157.60	
434		52A5		Ⅴ層	打製石斧	A類	2類	黒色細粒砂岩	13.60	6.50	2.50	224.7	
435		52A5		Ⅴ層	打製石斧	A類	2類	細粒砂岩	14.40	6.60	1.60	200.3	
436		51A20		Ⅴ層	打製石斧	B類		流紋岩	9.40	4.30	1.60	92.5	
437		50A9		Ⅴ層	石匙			黒色細粒砂岩	13.60	6.90	2.00	194.6	
438		52A13		Ⅴ層	磨製石斧	大形	尖頭状	蛇紋岩	12.50	5.90	2.60	356.0	
439		51A16		Ⅴ層	磨製石斧	大形	尖頭状	蛇紋岩	6.30	6.60	1.80	93.8	
440		53A19		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	4類	蛇紋岩	11.50	4.40	2.10	203.0	
441		50A11		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	4類	蛇紋岩	6.60	2.90	0.90	26.0	
442		50AZ15		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.10	7.60	3.10	294.7	
443		49AZ21		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	10.60	6.50	3.80	404.8	
444		52AZ22		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	3類	蛇紋岩	8.20	8.70	5.30	696.4	
445		50A24		Ⅴ層	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	10.40	8.80	3.10	354.0	
446		53A14		Ⅴ層	砥石	B類	1類	細粒砂岩	15.80	31.20	5.10	2470.0	
447		53A24		Ⅴ層	砥石	B類	1類	細粒砂岩	19.20	16.60	3.30	995.4	
448		49A15		Ⅴ層	砥石	A類		粗粒砂岩	9.80	9.20	5.60	634.6	
449		52A12		Ⅴ層	砥石	A類		細粒砂岩	15.50	16.70	3.80	1069.8	
450		50A25		Ⅴ層	敲石	A類	3類	翡翠	5.70	5.00	2.90	124.1	
451		52A13		Ⅴ層	敲石	B類		閃緑岩	13.20	7.00	4.10	560.3	
452		53A19		Ⅴ層	敲石	B類		安山岩	11.50	5.10	4.10	389.1	
453		53B		Ⅴ層	磨石類	A類	2類	安山岩	12.50	8.50	3.90	648.5	
454		53AZ11		Ⅴ層	磨石類	B類		粗粒砂岩	10.20	11.10	5.35	524.4	
455		50AZ12		Ⅴ層	スクレイパー	A類	2類	安山岩	9.80	18.50	3.80	792.7	
456		53B		Ⅴ層	石核	B類	1類	細粒砂岩	11.20	20.30	4.30	1053.6	
457		52AZ24		Ⅴ層	石核	B類	1類	安山岩	15.20	14.50	3.70	1062.9	
458		50A11		Ⅴ層	石核	B類	1類	細粒砂岩	16.30	10.90	3.60	631.2	
459		53B		Ⅴ層	石核	B類	1類	細粒砂岩	10.20	10.00	3.10	268.9	
460		51AZ22		Ⅴ層	石核	C類	2類	白色細粒砂岩	5.50	9.40	2.60	193.0	
461		52A2		Ⅴ層	石核	B類	1類	細粒砂岩	13.20	9.10	4.35	683.5	
462		25A10		Ⅲa	石鏃			珪質頁岩	4.05	1.80	0.60	2.90	
463		26A6		Ⅲa	石鏃			頁岩	3.60	1.50	0.40	1.70	
464		56A15	SD605	5	打製石斧未製品	A類		安山岩	16.00	7.40	3.30	492.30	
465		56B4	SD605	5	打製石斧未製品	A類		蛇紋岩	16.40	8.50	3.70	584.40	
466		57A11	SD605	6	石匙			安山岩	11.30	7.80	2.10	209.50	
467		56A25	SD605	6	磨製石斧未製品	C類	2類	蛇紋岩	8.30	5.30	1.55	92.60	
468		17C		Ⅲa	砥石	A類		白色細粒砂岩	11.60	18.40	5.10	1200.00	
469		45A9	SI1	覆土	剥片			翡翠	3.10	3.90	0.95	16.1	
470		46AZ16・17	SI3J	覆土	剥片			翡翠	5.90	2.90	1.20	31.1	
471		46AZ16	SI3J	覆土	剥片			翡翠	6.60	4.50	1.60	53.1	
472		46AZ16	SI3J	覆土	剥片			翡翠	4.90	4.00	3.00	73.8	
473		46AZ16	SI3J	覆土	剥片			翡翠	5.80	3.20	2.00	30.5	
474		46AZ16	SI3J	覆土	剥片			翡翠	2.00	4.30	1.10	21.6	
475		44B8	SI4J	覆土	剥片			翡翠	6.00	3.50	2.60	37.5	
476		44B6		Ⅶ層	剥片			翡翠	6.10	4.30	3.00	91.2	
477		44A24	SI4J	覆土	石核			翡翠	6.60	6.30	3.20	231.2	
478		44A14		Ⅶ層	石核			翡翠	4.50	4.90	3.90	143.0	
479		45A20+45A16		Ⅶ層	石核			翡翠	17.00	12.70	7.10	1990.0	
480		49AZ17		Ⅶ層	ヒスイ原石			翡翠	10.50	6.40	6.80	836.4	
481		33A4	SX75J	覆土	石棒			石英斑岩	22.30	13.50	11.50	2860.0	
482		44A8	SI4J	覆土	礫玉			黒色細粒砂岩	2.25	1.40	0.40	2.1	

遺構観察表（掘立柱建物）

遺構No.	方　位（桁行）			構　　造		床面積	桁行		梁間	
SB1	N － 6° － W			2 間× 3 間　側柱式		25.7㎡	東 4.90+m 西 5.07+m		北　　m　南 5.15m	
構成ピット	位置	柱	遺物	平面形	平面規模（m）	断面形	深さ（m）	底面標高（m）	ピット間隔（m）	
P165	39B18	無		隅丸方形	0.86×0.76	台形状	0.51	4.56	P165－P166	2.52
P166	39B13	無	土	隅丸長方形	0.90×0.55	台形状	0.52	4.59	P166－P167	2.55
P167	39B3・8	無		隅丸方形	0.75×0.72	台形状	0.42	4.70	P167－P168	2.50
P168	39B2・7	無	土	楕円形	0.65×0.35	台形状	0.39	4.81	P168－P169	2.65
P169	38B5・10・39B1・2	無	土	隅丸長方形	0.90×0.79	台形状	0.48	4.68	P169－P170	2.46
P170	38B15・39B11	無	土	隅丸方形	0.74×0.63	台形状	0.50	4.67	P170－P171	2.44
P171	38B20・39B16	無	土	隅丸長方形	0.89×0.63	台形状	0.33	4.71		

遺構No.	方　位（桁行）			構　　造		床面積	桁行		梁間	
SB2	N － 4° － W			2 間× 3 間　側柱式		20.1㎡	東　　m 西 5.45m		北 1.88+m 南 3.68+m	
構成ピット	位置	柱	遺物	平面形	平面規模（m）	断面形	深さ（m）	底面標高（m）	ピット間隔（m）	
P172	38B5・39B1	無		不整隅丸方形	0.45×0.44	台形状	0.34	4.81	P172－P173	1.88
P173	39B1・2	無	土	不整隅丸方形	0.55×0.45	台形状	0.34	4.85	P173－P174	1.86
P174	39A21・22	無		隅丸長方形	0.59×0.38	台形状	0.35	4.85	P174－P175	1.73
P175	39A16・17・21・22	無		楕円形	0.63×0.39	台形状	0.31	4.89	P175－P176	1.86
P176	39A16・17	無		隅丸長方形	0.54×0.39	台形状	0.41	4.85	P176－P177	1.88
P177	39A11・16	無	土	隅丸長方形	0.45×0.34	台形状	0.35	4.85	P177－P178	1.80
P178	38A15・20	無		隅丸長方形？	0.51×0.21	台形状	0.17	4.97		

遺構観察表（土坑）

遺構No.	位置	方位	平面形	平面規模（m）	断面形	深さ（m）	底面標高（m）	切りあい関係	備考
SK179	39B6	N－11°－W	隅丸長方形	0.89×0.66	凹凸状	0.14	5.06		古代土・須小片少量
SK181	39A7・11・12	N－18°－E	不整形	1.98×1.82	凹凸状	0.66	4.49		
SK509	32B24	N－77°－E	不整形	1.28×0.4+	弧状	0.33	4.7		
SK513	37B8・12・13・18・19	N－37°－W	長楕円形	3.4×0.95	台形状	0.2 － 0.31	4.79 － 4.9		
SK521	34B15・20・35B11・12・16・17	N－45°－E	不整形	3.65×1.55－2.35	台形状	0.16	4.85	SD533・534＜	
SK536	34B24	N－66°－W	方形	1.65+×0.65+	台形状	0.08	4.98		
SK542	37B18・19・23・24	N－50°－W	方形	1+×0.95+	弧状	0.23	4.87		土師器少量
SK544	34B12・13	N－53°－W	長楕円形	0.97+×0.45	弧状	0.04	4.93	SD510 ＜	

遺構観察表（溝）

遺構No.	位置	方位	断面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底面標高（m）	流下方向	切りあい関係	備考
SD225	39A5-14	N－42°－E	半円・台形状	5.85	0.35	0.21	4.98	南西→北東		土師器小片少量
SD343	47A20-48A16	N－59°－E	台形状	3.90	0.42	0.15	5.22	北東→南西		
SD347	48AZ20-48A17	N－3°－E	弧状	11.90	1.75	0.11	5.31	不明		
SD502	24B25-25B21	N－77°－E	漏斗状	3.40	0.56	0.05	4.66	西→東		
SD503	30A6-34B6	N－81°－E/	弧状	34.80	0.59	0.24	4.76	東→西	SD507<SD510>	
SD504	24B25・24C5・25B21・25C1	N－51°－W	台形状	2.40	0.80	0.08	4.66	不明	SD505>	
SD505	25C1・2・6・7	N－14°－E	台形状	1.54	1.12	0.06	4.66	不明	SD504<	
SD506	25B21・22・25C2・3	N－64°－W	台形状	6.40	1.28	0.18	4.56	東→西		
SD507	31A21・22・31B1・2	N－14°－W	凹凸状	2.30	1.50	0.11	4.90	不明	SD503>	
SD508	31B6・7・12	N－47°－W	弧状	2.75	0.43	0.08	4.86	不明		
SD510	33B24-37A20	N－72°－E	弧状	43.20	3.40	0.53	4.49	南西→北東	SD503・544<SD540・549>	土師器小片少量
SD511	37B13-15・18-20	N－61°－W	弧状	3.62	1.15	0.23	4.88	不明	SK513<	土師器小片ごく少量
SD512	37B4・8-10・13-15	N－68°－E	台形状	3.84	2.97	0.14	4.99	東→西	SK513・SD548>	
SD523	36B12・17	N－32°－W	弧状	1.40	0.30	0.06	5.00	不明		
SD524	36B16	N－23°－W	弧状	0.65	0.18	0.05	4.98	不明		
SD526	36B16	N－15°－W	弧状	0.68	0.15	0.07	4.97	不明		
SD527	35B15・36B11	N－16°－W	弧状	0.51	0.23	0.03	5.01	不明		
SD530	35B25-37B5	N－63°－W	弧状	21.70	0.38	0.09	4.97	南西→北東	SD547・548>	
SD531	35B15-24	N－27°－E	弧状	4.01	0.45	0.06	4.99	南西→北東		
SD532	35B14-22	N－37°－E	階段状	5.05	1.74	0.15	4.90	不明		
SD533	34B20・35B16・21	N－35°－W	台形状	2.12	0.30	0.12	4.93	不明	SK521<	
SD534	34B19・20・24	N－43°－E	弧状	2.47	0.35	0.06	4.98	不明	SK521<	
SD535	34B23	N－28°－E	台形状	0.83	0.54	0.07	5.00	不明		
SD537	34B19・24	N－53°－E	台形状	1.12	0.55	0.06	4.99	不明		
SD539	34B17	N－74°－E	台形状	1.02	0.40	0.02	4.99	不明		
SD540	35B1-7	N－56°－W	弧状	3.12	0.36	0.12	4.80	北西→南東	SD510<	
SD541	36B19・20・37B16・17	N－84°－W	弧状	5.65	0.33	0.10	5.00	東→西		
SD543	37B12・17・22・23	N－20°－W	弧状	2.90	5.40	0.06	5.05	南→北		
SD545	37B12	N－50°－E	弧状	1.35	0.38	0.04	5.08	不明	SD547<SK513>	
SD546	37B11・12	N－87°－W	弧状	1.20	0.20	0.02	5.11	不明	SD547>	
SD547	37B7・12	N－30°－W	台形状	2.40	0.47	0.10	5.04	不明	SD546<SD545>	
SD548	37B2・3・7・8	N－23°－W	台形状	1.98	0.27	0.05	5.10	不明	SD512<SD530>	
SD549	36B1・6	N－27°－E	台形状	0.75	0.25	0.14	4.85	北→南	SD510<	
SD550	36B6	N－6°－E	弧状	0.36	0.18	0.07	4.91	不明		
SD601	47A22-53AZ13	N－56°－E	弧状	51.20	2.15	0.30	5.44	西→東		
SD602	50AZ21-52AZ13	N－59°－E	弧状	23.80	2.50	0.14	5.90	不明		
SD603	53AZ15-53B10	N－7°－W	弧状	18.40	2.80	0.31	5.37	南→北		
SD604	53B10-54A9	N－38°－E	台形状	9.69以上	7.36以上	1.35	4.25	北東→南西		
SD605	56A2-57A11	N－9°－W	台形状	5.03以上	7.31以上	0.56	4.70	北→南		

遺構観察表（流路）

遺構No.	位置	方位	断面形	長さ（m）	幅（m）	深さ（m）	底面標高（m）	流下方向	備考
流路1	39B18-44AZ22	N－35°－E	台形状	45.50以上	19.70以上	3.41	2.63	南西→北東	

遺構観察表（性格不明遺構）

遺構No.	位置	方位	断面形	長径（m）	短径（m）	深さ（m）	底面標高（m）	備考
SX180	39A14・15・19・20・24・25・40A21	N－40°－W	凹凸状	5.00	2.03	1.11	3.95	土師器小片少量
SX346	51AZ13-51A3	N－61°－W	凹凸状	4.75	3.28	0.47	5.00	
SX501	24B19-25B15	N－57°－E	台形状	10.72	9.30	0.15	4.63	土師器小片少量
SX538	34B17-19・23・24	N－89°－W	台形状	2.30	1.70	0.08	4.98	

土器観察表（1）

凡例
法量（）は推定値、空欄は計測不能
色調『新版標準土色帳』[小山・竹原 1994] による
鉱物石：石英、長：長石、黒：黒雲母、角：角閃石、チ：チャート、海：海綿骨針、褐：褐色粒子、白：白色粒子、他：その他の砂礫
胎土◎：非常に多い、○：多い、△：少ない、×：ごく少ない
調整ケズリ：ヘラケズリ、ミガキ：ヘラミガキを表す。、また、口：口縁部、頸：頸部、体：体部、底：底部、脚：脚部、受：受部、端：端部を表す。

報告	出土位置			種別	器種	法量（cm）			残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物								色調		調整・文様等		備考
№	グリッド	遺構名	層位			口径	底径	器高					石	長	黒	角	チ	海	褐	白	他	外面	内面	外面	内面	
483	26A8		Ⅲ	弥生土器	甕				口縁部	小片	良好	普通		△							△	にぶい橙	にぶい黄橙	口端：キザミ　口：ハケ	口：櫛描斜行文３段	
484	41A12･13	流路１	4	弥生土器	鉢			3.0	体部～底部	1/2	不良	普通	×								△	にぶい橙	にぶい橙	体：ミガキ	体：ナデ	
485	56A11	SD605	6	弥生土器	甕	(15.4)			口縁部	1/18	良好	普通		△							○	にぶい黄橙	橙	口：擬凹線文　頸：ナデ	口：ナデ	
486	56A10	SD605	5･6	弥生土器	甕	(18.8)			口縁部	1/12	良好	普通	×	△							○	にぶい橙	橙	口：擬凹線文		
487	56A8	SD605	5･6	弥生土器	甕	(17.9)			口縁部	1/5	良好	普通	×	△							○	灰褐	にぶい橙	口：擬凹線文　頸：ヨコナデ	口：ミガキ・ヨコナデ・沈線文	外面にコゲが部分的に薄く付着
488	56A4	SD605	5･6	弥生土器	甕	(20.0)			口縁部	1/12	不良	普通		△							◎	橙	橙	口：擬凹線文		
489	56A5	SD605	2･3	弥生土器	甕	(23.0)			口縁部	1/6	良好	普通	△								◎	にぶい橙	にぶい橙	口：擬凹線文　頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ　頸：ミガキ	
490	56A10･15	SD605	5･6	弥生土器	甕	(17.5)			口縁部	1/5	不良	普通		×							△	にぶい褐	にぶい褐	口：擬凹線文	口：ヨコナデ・ミガキ	
491	56A15	SD605	5･6	弥生土器	甕	(19.8)			口縁部	1/4	良好	普通		×			×				○	黒褐色	にぶい橙	口：擬凹線文　頸：ヨコナデ	口：ハケ・ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	
492	56A15	SD605	5･6	弥生土器	甕	(16.0)			口縁部	1/18	良好	普通		×							○	にぶい橙	にぶい橙	口：擬凹線文　頸：ヨコナデ体：ナデ	口：ヨコナデ　体：ナデ	
493	57A16	SD605	6	弥生土器	甕	(17.8)			口縁～体部上部	1/18	良好	普通		△							○	にぶい橙	にぶい橙	口～頸：ヨコナデ　体：ハケ	口：ミガキ　体：ケズリ	
494	56A15	SD605	5･6	弥生土器	甕	(17.8)			口縁部	1/18	良好	緻密		×							△	にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコナデ　頸：ハケ→ナデ	口：ミガキ	
495	56A9	SD605	6	弥生土器	甕	18.4			口縁～体部上部	1/6	不良	普通		△			△				◎	橙	橙			
496	56A9	SD605	6	弥生土器	甕	(21.4)			口縁部	1/12	不良	普通		△							◎	にぶい橙	褐灰			
497	56A3	SD605	6	弥生土器	甕	(13.9)			口縁部	1/6	良好	普通		△			△				◎	にぶい黄橙	にぶい橙	口～頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ	
498	56A3	SD605	6	弥生土器	甕	15.5			口縁～体部	2/3	不良	普通	△	○							○	にぶい橙	橙	口：ナデ　体：ハケ・ナデ・ミガキ	口：ナデ　体：ハケ→ミガキ・ナデ	
499	56A15	SD605	6	弥生土器	甕	(18.5)			口縁部	1/9	良好	緻密		△			△				△	にぶい橙	にぶい橙	口～頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ	
500	56A5	SD605	2･3	弥生土器	甕	(16.5)			口縁部	1/6	良好	緻密 精良		△							◎	にぶい橙	にぶい橙			
501	56A5 56A9	SD605	2･3 5･6	弥生土器	甕	17.2			口縁部	残	良好	普通	×	○	×						○	にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコナデ　頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ	
502	57A21	SD605	6	弥生土器	甕	14.9			口縁～体部上部	1/3	良好	普通		○	×						○	褐灰	褐灰	口～頸：ヨコナデ　口下端：キザミ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：指ナデ	
503	56A9	SD605	5･6	弥生土器	甕	(16.8)			口縁～体部上部	1/9	良好	普通		△							×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ハケ頸：ヨコナデ　体：ハケ	
504	56A20	SD605	6	弥生土器	甕	19.4			口縁～体部	1/6	不良	普通	×	△			×				○	にぶい黄橙	にぶい黄橙		体：ハケ	
505	57A11 57A16	SD605	6	弥生土器	甕	16.9	5.1	19.2	口縁～底部	3/4	良好	普通	×	○			△				◎	にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコ方向ハケ	口：ヨコ方向ハケ 体：ハケ・指ナデ・ナデ	
506	56A20	SD605	6	弥生土器	壺	(15.7)			口縁部	1/7	良好	普通		×							○	にぶい橙	にぶい橙	口：擬凹線文	口：ヨコナデ	
507	56A10 56A15 56A25	SD605	5･6	弥生土器	壺	17.0			口縁部	3/4	不良	緻密 精良		△			△				○	にぶい橙	橙	口：ハケ→ミガキ・斜行沈線文	口：ナデ・ハケ	
508	56A3 56A25 57A21	SD605	6 5･6 6	弥生土器	壺	11.2			口縁上部 口縁下部	1/9 7/8	不良	普通		×							×	にぶい橙	橙	口：ヨコナデ・ハケ	口：ナデ・ハケ	
509	56A15	SD605	5･6	弥生土器	壺				口縁部	1/5	不良	緻密	×	△			×				○	橙	橙		口：ハケ	
510	56AZ24 57A21	SD605	2･3 6	弥生土器	壺	8.9			口縁部	3/4	良好	普通 精良		×				×				にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ミガキ	口：ミガキ・ハケ	
511	56A15	SD605	5･6	弥生土器	壺	9.3			口縁部	1/3	良好	普通	×	△	×						△	にぶい橙	橙	口：ミガキ	口：ミガキ・ナデ	
512	56A15	SD605	5･6	弥生土器	壺				口縁～体部上部	1/4	不良	緻密		△							△	橙	橙	口～体：ミガキ	口：ミガキ	
513	56A15	SD605	6	弥生土器	壺		(6.8)		口縁～底部	3/4	良好	普通		△	×							にぶい橙	灰黄褐	口～体：ミガキ底：ナデ	口：ハケ　体：ハケ・ナデ	
514	56A4	SD605	5･6	弥生土器	壺				体部～底部	残	不良	緻密	△	△		×					×	橙	灰褐			
515	56A9	SD605	6	弥生土器	壺	12.9			口縁～体部上部	1/4	不良	普通		○			△				◎	にぶい橙	にぶい橙	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	
516	56A20	SD605	5	弥生土器	壺		7.4		体部下部～底部	1/3	不良	普通	△	△							○	橙	明赤褐		体：ハケ・ナデ	
517	56A3	SD605	6	弥生土器	壺		6.9		体部～底部	3/4	良好	普通	△	△				×				にぶい黄褐	にぶい黄褐	体：ハケ　底：ミガキ	体～底：ハケ	
518	56AZ24	SD605	6	弥生土器	鉢	(13.4)			口縁～体部上部	1/5	不良	粗		△								にぶい橙	にぶい橙	口～体：ミガキ	口：ミガキ　体：ミガキ・ナデ	
519	56A15	SD605	5	弥生土器		21.5			口縁～体部	1/9	不良	普通	×	△							△	橙	橙	体：ハケ・刺突（棒状具）		
520	56A10	SD605	4	弥生土器	高杯	27.8			杯部	1/2	不良	普通		○			△				△	橙	橙			
521	56A25	SD605	6	弥生土器	高杯	24.7			杯部	1/12	良好	普通		△							×	にぶい褐	にぶい褐	口～体：ミガキ・凹線文	口～体：ミガキ	内外面とも点状剥離が顕著
522	56A15	SD605	5･6	弥生土器	高杯	(29.9)			口縁～体部	1/7	不良	緻密		△							△	橙	橙			
523	56A10 56A25	SD605	5･6 6	弥生土器	高杯				杯部下部 脚部上部	1/4 残	不良	緻密 精良	×	△							△	橙	橙		脚：指ナデ	
524	57A16	SD605	6	弥生土器	器台				脚部上部	3/4	不良	普通	×	△		△					△	橙	灰褐	脚：ミガキ	脚：ナデ	

土器観察表（2）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 底径	法量（cm） 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
525	56A9	SD605	6	弥生土器	高杯		14.1		脚部	1/3	良好	緻密 精良		△			×				×	明赤褐	杯：明赤褐 脚：橙	脚：ミガキ　脚端：擬凹線文	杯：ミガキ	脚部外面、杯部内面に赤彩
526	56A9	SD605	5･6	弥生土器	器台	(25.2)			受部	7/8	良好	緻密	×	△			△				×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	受～脚：ミガキ	受：ミガキ　脚：ナデ	
527	56A20	SD605	6	弥生土器	高杯		22.8		脚部下部	3/4	不良	普通		×			×				△	橙	橙	脚端：擬凹線文	脚：ハケ	
528	57A11	SD605	6	弥生土器	器台		(26.5)		脚部下部	1/2	不良	普通	×	△							×	明赤褐	橙	脚裾上：連続刺突文　脚裾：擬凹線文	脚：ハケ→ミガキ	脚部外面に赤彩
529	57A11	SD605	6	弥生土器	器台		17.8		脚部下部	1/2	不良	緻密 精良	△	△					×		△	橙	橙	脚裾：擬凹線文		
530	56A3 56A6	SD605	6	弥生土器	高杯		21.8		脚部下部	1/2	不良	やや粗		△	×		×				△	橙	にぶい橙	脚端：上下連続刺突文間に渦巻文		
531	56A3 57A11	SD605	6	弥生土器	高杯		33.3		杯下部	1/2	不良	粗	×	△			△				△	橙	橙	脚：ハケ・ミガキ　脚端：擬凹線文	脚：ミガキ	
532	56A10	SD605	5･6	弥生土器	蓋	14.7	4.7	6.7	つまみ～体部 口縁部	残 1/12	良好	緻密 精良	×	△			△				△	にぶい橙	にぶい橙	つまみ～体：ミガキ口：ナデ	つまみ：ナデ　体：ナデ・ハケ	つまみ径を底径に記載
533	56A4	SD605	5･6 3	弥生土器	蓋		6.9		つまみ 体部	1/2 1/3	良好	緻密	×	×							△	にぶい橙	にぶい橙			つまみ径を底径に記載
534	56A3	SD605	6	弥生土器	蓋		4.2		つまみ 体部	残 1/6	良好	普通		○			△					にぶい橙	橙			つまみ径を底径に記載
535	56A10	SD605	5･6	弥生土器	甕				体部	小片	良好	普通		△							○	灰褐	にぶい橙	体：雨垂列点文を沈線で区画か	体：ナデ	
536	56AZ23	SD605	6	弥生土器	甕				口縁部	小片	良好	粗		△							○	にぶい褐	灰褐色	口：波状文（櫛歯状工具）	口：ミガキ	
537	56A5	SD605	3･4	弥生土器	甕				口縁部	小片	良好	普通		△							△	にぶい黄橙	灰黄褐	口：波状文（櫛歯状工具）	口：ナデ	
538	56A5	SD605	3･4	弥生土器	甕				体部	小片	良好	普通		○			△					灰黄褐	にぶい黄橙	体：波状文（貝殻側縁）	体：ハケ	器面の剥離顕著
539	54B5	SD604	7	弥生土器	甕	(16.6)			口縁部	小片	良好	緻密		△							△	明褐	黄橙	口：擬凹線文　口～頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ→ミガキ	
540	54A23	SD604	4	弥生土器	甕	(16.8)			口縁部	小片	良好	緻密		○			×				△	にぶい橙	にぶい橙	口～頸：ヨコナデ	口～頸：ヨコナデ	外面にススが部分的に付着
541	54A22	SD604	4	弥生土器	甕	14.3			口縁～体部上部	1/6	良好	普通		△			△				○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：擬凹線文　頸：ヨコナデ 体：ハケ・ミガキ・列点状刺突文	口：ヨコナデ　体：ハケ	
542	54A4	SD604	6･7	弥生土器	甕	18.3			口縁～頸部上部	1/2	良好	普通	×	△							△	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口:擬凹線文･2 個 1 組のボタン状貼付文（3ヵ所残）頸：ミガキ	口頸：ミガキ	
543	54B5	SD604	7	弥生土器	有孔鉢	19.6	2.4	14.5	口縁～底部	ほぼ残	不良	やや粗	×	△			○				◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体～底：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ 底：指ナデ	
544	54B3	SD604	7	弥生土器	器台		11.9		脚部	3/4	良好	緻密		△	×		×				△	橙	橙	脚：ミガキ	脚：ハケ	
545	54B3 54B4	SD604	7 7	弥生土器	壺		7.5		頸部 体部～底部	1/10 ほぼ残	良好	普通	△	○	×				×		△	橙	褐灰	頸～体：ミガキ	頸：ミガキ　体：ナデ・ハケ	体部下部～底部外面に点状剥離が顕著
546	54B3	SD604	5	弥生土器	壺				口縁部 頸部～体部	1/18 1/4	良好	普通	△	△	×				×			橙	橙	口～頸：ハケ→ミガキ　体：ハケ→ミガキ	頸：ミガキ　体：ハケ	
547	39A2	SX180	3	土師器	甕	15.9			口縁～体部上部	1/12	良好	普通		△			×				△	にぶい橙	にぶい褐	口～体：ハケ	口～体：ハケ	
548	39A25	SX180	3	土師器	甕	17.4			口縁部	1/4	良好	普通	×	△	×		○					にぶい橙	にぶい橙	口端：ヨコナデ　口：ハケ→ヨコナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
549	39A20	SX180	2	土師器	甕	(12.5)			口縁部	小片	不良	普通		△							○	にぶい橙	にぶい橙			
550	39A20	SX180	2	土師器	甕	(15.4)			口縁部	1/9	不良	普通		○							△	橙	にぶい橙		口：ハケ→ナデ	
551	39A20	SX180	2	土師器	甕	(16.7)			口縁部	1/6	良好	普通	×	△								にぶい橙	にぶい橙	口：ハケ→ヨコナデ→ミガキ	口上：ヨコナデ→ミガキ　口下：ハケ	
552	39A20	SX180	2	土師器	甕				底部	残	良好	普通	×						×		○	橙	にぶい赤褐	体～底：ハケ	体：ナデ（ヘラ）　底：ナデ（棒状具）	
553	39A7	SK181	1	土師器	甕	(17.6)			口縁部	1/18	良好	普通	×	○					×			にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ・ナデ	
554	39A7・12	SK181	2	土師器	甕	(17.5)			口縁～体部上部	1/9	良好	普通		△			△					にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ハケ→ヨコナデ	口：ヨコナデ　体：ナデ	
555	38A12	SK181	1	土師器	小型器台	(8.6)			受部	1/4	良好	緻密		△		×					×	赤橙	赤橙	受：ミガキ	受：ミガキ	受部内外面に赤彩
556	39A7	SK181	2	土師器	甕	(16.5)			口縁～体部上部	1/2	不良	普通		△			△				○	黒褐	橙	口～体：ハケ	口～体：ナデ	
557	39A7	SK181	2	土師器	甕	(18.3)			口縁～体部上部	1/6	良好	普通	×	△							○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ・ハケ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
558	37B2		Ⅲb	土師器	小型器台				脚部上部	1/2	良好	普通		△							×	にぶい黄橙	にぶい黄橙	脚：ミガキ	脚下：ナデ（棒状具）	
559	37A23	SD510	2	土師器	壺	19.4			口縁～頸部	1/4	良好	普通	×	△	△							にぶい黄橙	褐灰	口上：ヨコナデ→ミガキ　口下：ハケ→ミガキ 頸：ヨコナデ→ミガキ	口：ヨコナデ→ミガキ　頸：ハケ→ミガキ	
560	35B1	SD510	2	土師器	壺	(12.1)			口縁～体部上部	3/4	良好	普通		△	×		×				△	にぶい橙	にぶい橙	頸～体：ハケ→ミガキ	口：ミガキ　頸～体：ナデ	
561	36B12	SD510	2	土師器	壺				口頸部 体部	3/4 1/3	良好	普通	×	△							△	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～頸：ヨコナデ　体：ハケ	口頸：ヨコナデ・ハケ　体：ナデ・ハケ	
562	34B8	SD510	2	土師器	壺	(13.9)			口縁～頸部	1/9	不良	やや粗		○							◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙			
563	64B7	SD510	2	土師器	壺		7.0		体部下部～底部	1/3	良好	やや粗		○	△		×					黒	黄灰	体：ハケ→ナデ　底：ナデ	体～底：ハケ	体部外面に厚いスス付着
564	37D23	SD510	2	土師器	鉢	8.5	3.2	7.4	口縁部 体部～底部	2/3 残	良好	普通	×	△							×	橙	にぶい橙	口：ヨコナデ　頸～体：ミガキ	口～頸：ミガキ　体：指ナデ	

土器観察表（3）

報告No	出土位置 グリッド	遺構名	層位	種別	器種	法量（cm） 口径	底径	器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	長	黒	角	チ	海	褐	白	他	色調 外面	内面	調整・文様等 外面	内面	備考
565	36B11	SD510	2	土師器	鉢	8.6	5.0	6.1	口縁部～底部	ほぼ残	不良	普通		○	×						◎	橙	橙	体下：ハケ		
566	36B11	SD510	2	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	緻密		△			×					橙	橙			
567	37A24	SD510	2	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	緻密	×	△								赤	にぶい黄橙	脚：ミガキ	脚：ナデ	脚部外面に赤彩
568	34B8	SD510	2	土師器	高杯		脚 8.4		脚部下部	1/2	良好	緻密		△	×					×		にぶい黄橙	にぶい黄橙	脚：ハケ→ミガキ	脚：ミガキ	
569	35B3	SD510	2	土師器	小型器台	(7.6)	(13.0)	(8.0)	受部 脚部	1/6 1/4	良好	普通		○	△	△					○	にぶい橙	にぶい黄橙	口～脚：ミガキ	口～体：ミガキ　脚：ハケ、ナデ	外面と受部内面に赤彩４単位の円形透かしを等間隔で穿つ
570	37A24	SD510	1	土師器	小型器台	8.1	12.8	7.4	受部 脚部	1/2 ほぼ残	良好	緻密精良	×	△	×					×		赤	受：赤褐色 脚：にぶい橙	受～脚：ミガキ	受：ミガキ　脚：ナデ・ハケ	外面と受部内面に赤彩３単位の円形透かしが等間隔で穿つ
571	37A24	SD510	1	土師器	小型器台		12.2		脚部	2/3	良好	普通	×	△	×							にぶい黄褐	にぶい黄褐			
572	37B13	SK513	1	土師器	甕	17.2			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	×	△			○				○	にぶい褐	にぶい橙	口：ヨコナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
573	37B18	SK513	1	土師器	甕	16.3			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	×	○	×						○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
574	37B13	SK513	1	土師器	甕		2.7		体部下部～底部	残	良好	普通		○							○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	体：ハケ　底：ナデ	体：ナデ・ハケ	
575	35B16	SK521	1	土師器	甕	216			口縁～体部上部	1/4	良好	粗		△			×				○	にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコナデ　頸：ミガキ　体：ハケ→ナデ	口：ヨコナデ→ミガキ　体：ナデ	
576	37B7	SD530	1	土師器	小型器台				受部下部～脚部上部	残	良好	普通		○							△	明赤褐	受：明赤褐 脚：にぶい橙	受～脚：ミガキ	受：ミガキ　脚：ナデ	外面と受部内面に赤彩
577	41A12・13	流路１	4	土師器	甕	(18.8)			口縁部	1/6	不良	緻密精良		○							△	にぶい橙	にぶい橙	口：ハケ		
578	40B10	流路１	4	土師器	甕	(18.7)			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	×	○					×		◎	灰褐	にぶい褐	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	外面にスス、コゲ付着
579	40B3	流路１	4	土師器	甕	(17.2)			口縁～体部上部	1/9	良好 硬質	普通		△		×					△	にぶい褐	にぶい黄橙	口～体：ハケ→ミガキ	口～体：ハケ	
580	40B5	流路１	4	土師器	甕	17.6			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	×	△		△					△	にぶい黄橙	橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ナデ　体：ハケ・ナデ	
581	42A10	流路１	4	土師器	甕	(13.0)			口縁～体部上部	1/7	良好	普通		△			△				○	にぶい黄橙	にぶい黄橙		体上：指ナデ　体下：ナデ	
582	41B17	流路１	4	土師器	甕		4.7		体部下部～底部	ほぼ残	不良	粗	△	○	×		×					にぶい黄橙	黒褐	体：ハケ　底：ハケ	体：ナデ　底：指ナデ・ケズリ	
583	41B17	流路１	1	土師器	壺	(16.2)			口縁～頸部	1/6	良好	粗		△								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～頸：ヨコナデ	口：ヨコナデ・ミガキ　頸：ヨコナデ 体：ハケ	
584	40B	流路１	4	土師器	壺	(17.9)			口縁部	1/7	良好	普通		△			×					にぶい褐	にぶい褐	口：ヨコナデ→ミガキ	口：ヨコナデ→ミガキ	
585	41A11	流路１	4	土師器	壺	(10.8)	5.6	(16.7)	口縁部	1/6	良好	普通	△	○							○	灰褐	褐灰	口：ヨコナデ　頸～体：ハケ・ナデ・ミガキ	口：ヨコナデ　頸～体：ハケ	
586	41A12	流路１	4	土師器	壺	(14.1)			口縁～頸部	1/5	良好	緻密		△					×		△	にぶい橙	にぶい褐	口～頸：ミガキ	口～頸：ハケ・ミガキ	
587	41B1 41A16	流路１	4 4	土師器	壺	11.6			口縁部	3/4	良好 硬質	普通	×	△							○	にぶい橙	灰褐	口端：ヨコナデ　口：ハケ	口：ハケ・ナデ	
588	40B10	流路１	4	土師器	壺	9.4			口縁部	1/3	良好	普通		○		×						明赤褐	褐	口：ハケ→ミガキ	口：ハケ・ミガキ	
589	42A9	流路１	4	土師器	壺	11.9			口縁～体部上部	1/8	良好	緻密		△								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～体：ミガキ	口～体：ナデ	
590	42AZ23	流路１	4	土師器	椀	14.0			口縁～体部下部	1/4	不良	粗		△			×		×			橙	橙			
591	40B5	流路１	4	土師器	椀	16.3			口縁部 体部～底部	3/4 残	良好	普通		△	○						×	黒褐	褐	口：ヨコナデ→ミガキ　体～底：ミガキ	口～底：ミガキ	外面黒色処理か器面に光沢あり
592	41A17	流路１	4	土師器	壺				口縁部 体部	1/6 1/2	不良	普通	×	△	△							にぶい橙	にぶい橙	口：ハケ・ミガキ　体：ミガキ	口～体：ミガキ	
593	41A16	流路１	4	土師器	高杯	15.9	10.7	11.1	体部～脚部	残	良好	緻密		○	×	×					△	にぶい橙	にぶい橙	杯：ハケ　脚：ミガキ	杯：ハケ→ヨコナデ　脚：ナデ・ハケ	
594	41B7	流路１	4	土師器	高杯	(18.6)			杯部	1/7	不良	普通		△							○	橙	橙			
595	43A1・2	流路１	4	土師器	高杯	(19.7)			杯部	1/9	不良	普通	×	△					×			橙	橙			
596	41A12·13	流路１	4	土師器	高杯		8.4		脚部下部	1/3	良好	普通	△								○	橙	にぶい黄橙	脚：ナデ	脚：ハケ・ナデ	
597	43A6・11	流路１	4	土師器	高杯		14.0		脚部下部	1/4	不良	緻密	×	△					×			橙	橙	脚：ナデ	脚：ナデ	
598	41A6	流路１	4	土師器	高杯	19.9			杯部	1/12	良好	緻密		×			×					にぶい橙	にぶい褐	杯：ハケ→ミガキ	杯：ナデ・ミガキ	
599	39A6		Ⅲ	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通		△	×	×					△	橙	橙	脚：ミガキ		脚部が棒状中実
600	41A11	流路１	4	土師器	高杯		11.0		脚部上部 脚部下部	残 1/4	良好	普通		△			△			×		にぶい橙	にぶい赤褐	脚：ミガキ	脚：ハケ・ナデ	
601	41A13	流路１	4	土師器	高杯		9.8		脚部上部 脚部下部	残 1/4	良好	普通		△		×	△			△		にぶい橙	にぶい橙	脚：ミガキ	脚：ナデ	
602	43A12	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部上部	残	良好	普通		△					×	×		にぶい橙	にぶい褐		脚：ナデ	
603	41A6・7	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	緻密	×	△						△		にぶい褐	にぶい褐	脚：ミガキ	脚：ナデ	
604	41A12	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好 硬質	普通		△			△	×				にぶい黄橙	にぶい橙	脚：ミガキ	脚：ナデ	器面の剥離が人為的
605	41A17	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通	×	△								橙	にぶい橙	脚：ミガキ	脚：ナデ	
606	40B5	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通		△			△					灰褐	にぶい褐	脚：ミガキ	脚：ナデ	
607	41A12・13	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通		△			△					にぶい橙	にぶい橙	脚：ハケ→ミガキ	脚：指ナデ	
608	41A16	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通	×	△					×			にぶい赤褐	にぶい赤褐	脚：ミガキ	脚：ナデ・ケズリ	
609	40B10	流路１	4	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通		△							△	にぶい橙	にぶい橙	脚：ミガキ	脚：ナデ	
610	52AZ19		Ⅲb	土師器	高杯				脚部上部	残	良好	普通		○				×	△			にぶい橙	にぶい橙		脚：ハケ	

土器観察表（4）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量（cm） 口径	法量（cm） 底径	法量（cm） 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
611	56A15 57A11	SD605	5·6 5·6	土師器	甕		4.6		体部 底部	5/6 残	良好	普通	×	○	×						○	にぶい褐	にぶい橙	体：ハケ　底：ナデ	体：ハケ	
612	57A21	SD605	6	土師器	甕		4.1		体部下部 底部	1/4 残	良好	普通	×	○	×				×		△	にぶい赤褐	にぶい橙	体：ハケ・ナデ　底：ナデ	体：ハケ	
613	56A15	SD605	5·6	土師器	甕		5.0		体部下部～底部	残	良好	普通	△	○			△					黒褐	灰黄褐	体：ハケ	体：ハケ	
614	56A5	SD605	6	土師器	甕		4.9		体部下部～底部	残	良好	普通		△			△				△	にぶい橙	にぶい黄橙	体：ハケ　底：ナデ	体：ハケ	
615	56A20	SD605	6	土師器	甕		4.3		体部下部 底部	1/9 残	良好	緻密	×	△	×	×		×			△	にぶい赤褐	にぶい橙	体：ハケ	体：ハケ・指ナデ・指オサエ 底：指ナデ	底部外面縁辺に焼成時付着の砂目
616	56A9	SD605	5	土師器	壺	11.7			口縁～体部上部	1/4	不良	普通	×	△					×			にぶい橙	にぶい橙	口～体上：ミガキ　体上：ハケ	口：ミガキ　体：ハケ	
617	56A9	SD605	5·6	土師器	壺	(11.7)			口縁部	1/5	良好	普通		△					×			にぶい橙	にぶい褐	口：ミガキ　体：ハケ	口：ミガキ　体：ミガキ・ナデ	616とは別個体か
618	56A9	SD605	5·6	土師器	壺	9.8	4.6	11.8	口縁部 体部～底部	7/8 残	良好	普通	△	△	×							にぶい橙	にぶい褐	口～体：ミガキ　体下～底部：ケズリ	口：ミガキ　体：ハケ・指ナデ 底：ナデ	
619	56A3 56A4 56A9	SD605	6 6 6	土師器	壺	(12.9)	(5.5)	(16.0)	口縁～底部	1/4	良好	普通		△	×	×	△				△	にぶい橙	にぶい褐	口～体：ミガキ	口：ミガキ　体：ハケ・ナデ　底：ハケ	図上復元
620	56A24	SD605	6·7	土師器	壺	8.0			口縁～体部	1/4	良好	普通		△			△					にぶい褐	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ヨコナデ・ハケ	口：ヨコナデ　体：ナデ	
621	56A9	SD605	6	土師器	小型鉢	9.6	5.1	5.9	口縁～体部 底部	2/3 2/3	不良	やや粗	×	△	×				×		△	橙	にぶい橙	口～体：ナデ　底：ナデ	口～体：ナデ	
622	56A7	SD605	4	土師器	小型高杯	9	4.3	6.9	杯部 脚部	1/3 1/2	良好	普通										にぶい黄橙	にぶい黄褐	口～体：ハケ→ナデ　脚：ハケ	脚：指ナデ	体部内面に漆膜が付着
623	54B	SD604	7	土師器	甕	19.2			口縁～体部	1/5	良好	普通	○	○							○	にぶい黄褐	にぶい黄褐	口：ヨコナデ・指オサエ　体：ハケ	口：ハケ・ヨコナデ　体：ハケ	口縁～体上部内面にスス付着
624	54A24	SD604	6	土師器	甕	(15.5)			口縁部	小片	良好	普通		○							○	明赤褐	明赤褐	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	
625	54A4	SD604	7	土師器	甕		4.4		体部下部～底部	残	良好	普通	×	△		△			×			にぶい赤褐	にぶい橙	体：ハケ・ケズリ　底：ケズリ→ナデ	体～底：ハケ	
626	54A23	SD604	4	土師器	甕		5.0		体部下部～底部	残	良好	緻密	×	△							○	にぶい褐	にぶい橙	体：ハケ	体：ハケ	
627	54A24	SD604	7	土師器	甕		4.9		体部下部 底部	1/8 残	良好	普通	△	×							△	にぶい赤褐	にぶい橙	体：ハケ　底：ハケ	体：ハケ	
628	54B3 54B4	SD604	7 7	土師器	壺		5.7		体部 底部	1/3 残	良好	緻密精良	△	△	×							にぶい黄橙	にぶい黄橙	体：ミガキ（光沢あり）　底：ハケ→ナデ	体：ナデ	
629	54A3 56A24	SD604	5·7 6	土師器	壺	8.5	4.7	15.1	口縁部 体部～底部	2/3 残	良好	緻密	×	△	×							口～体上：明赤褐 体下：にぶい黄橙	口：明赤褐 体：にぶい黄橙	口～底：ミガキ	口：ハケ→ミガキ 体：ハケ・指ナデ・ナデ 底：ハケ	口縁～体部上半外面、口縁部内面に赤彩
630	54A23 54B3	SD604	6·7 7	土師器	壺				体部	1/3	良好	普通	×	○					×			にぶい橙	にぶい橙	体：ミガキ	体：指ナデ・ナデ・ハケ・ミガキ	
631	54B5	SD604	7	土師器	壺	(13.2)			口縁～頸部 体部上部	1/4 3/4	不良	緻密	×	△							△	にぶい橙	灰黄褐	口：連続刺突	口：ヨコナデ・ナデ 体：ハケ・ヨコナデ	
632	54A24	SD604	7	土師器	壺	12.4	5.9	16.7	口縁部 体部	1/2 3/4	良好	普通	△	○	×						△	にぶい橙	にぶい橙	口：ミガキ　体：ハケ→ミガキ	口：ミガキ　体：ナデ・ハケ	底部外面中央部をヘラ状工具で花弁状に調整
633	56A2 56A3	SD605	5·6 5·6	土師器	杯蓋	11.7		5.8	天井部 体部～口縁部	残 1/2	良好	普通	△	△							△	にぶい黄橙	黒	体～口：ミガキ	天～口：ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
634	56A9 56A14	SD605	5·6 5·6	土師器	杯蓋	12.7	天 8.8	5.6	天井部 体部～口縁部	残 1/2	良好	普通	△	△								橙	黒	体～口：ミガキ	天～口：ミガキ	内面に黒色処理
635	56A25	SD605	6	土師器	杯蓋	13.2		6.1	天井部 体部～口縁部	残 3/4	不良	普通	△	○			△		×			にぶい褐	黒	体～口：ミガキ	天～口：ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
636	56A2 56A3	SD605	5·6 5·6	土師器	杯蓋	13.6	6.1	4.9	天井部～口縁部	1/2	良好	普通	△	○							△	にぶい橙	黒	体～口：ミガキ	天～口：ハケ→ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
637	56A5 56A10	SD605	2·3	土師器	杯蓋	13.0		(4.7)	天井部～口縁部	1/3	良好	普通	△	△					×			にぶい橙	黒	口：ミガキ	体～口：ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
638	56A9	SD605	6	土師器	杯身	11.9	(5.5)	5.0	口縁～底部	1/4	良好	緻密	△	△	×							にぶい黄橙	黒	口～底：ミガキ　底：ヘラ記号「×」か	口～底：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
639	56A14 56A15	SD605	5·6 5·6	土師器	杯身	(12.1)		5.1	口縁部 体部	1/9 2/3	良好	緻密	△	△								にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
640	56A9	SD605	5·6	土師器	杯身	11.6	(7.6)	4.6	体部～口縁部	1/3	良好	普通	△	○	△							にぶい黄橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
641	56A3・4 56A9	SD605	6 6	土師器	杯身	(12.1)		6.1	口縁部 体部	1/8 2/3	良好	緻密	△	△								にぶい褐	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
642	56A4 56A9	SD605	6 6	土師器	杯身	13.5			口縁～体部	1/2	良好	緻密		△					×			橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
643	56A9	SD605	4	土師器	杯身	(11.1)			口縁～体部	1/5	良好	緻密	△	△								灰褐	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	内面に黒色処理

土器観察表（5）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
644	56A9	SD605	5·6	土師器	杯身	(11.4)		(4.7)	口縁～体部	1/5	良好	緻密	△	○								にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
645	56A4 56A9	SD605	4·6 6	土師器	杯身	11.0		4.5	体部	1/3	良好	やや密	△	○					×			橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理、内面の点状剥離が顕著
646	56AZ3	SD605	5·6	土師器	杯身	12.2	8.1	4.2	口縁～底部	2/3	良好	普通	△	△	△							にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
647	56A4	SD605	3	土師器	杯身	(10.7)	(8.4)	(4.5)	口縁部 体部	1/7 1/3	良好	普通	△	○								にぶい黄橙	黒	口～体：ミガキ　底：ハケ	口～体：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
648	56A2	SD605	5·6	土師器	杯身	14.8		4.9	口縁～体部	1/7	良好	緻密		○							△	にぶい橙	にぶい橙	口：ヨコナデ・ミガキ　体：ミガキ	口～底部：ミガキ	
649	56A9 56A10	SD605	5 5·6	土師器	杯身	17.3	7.8	6.9	口縁部 体部～底部	1/2 3/4	良好	普通	○	○	×				×			明赤褐	黒褐	口～体：ミガキ　底：ケズリ	口～底部：ミガキ	内面に黒色処理
650	56A4 56A5 56A9·10	SD605	4 2·3 5·6	土師器	杯身	15.0		6.3	口縁～底部	4/5	良好	普通	△	△								にぶい褐	黒褐	口：ミガキ　体～底：ナデ	口～底：ミガキ（光沢あり）	口端部外面と内面を黒色処理
651	56A4 56A15 56A20	SD605	6 5·6 6	土師器	杯身	15.4	(8.7)	5.6	口縁～底部	3/4	良好	普通	△	○							×	にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
652	56A9 56A15 56A20	SD605	6 5·6 6	土師器	杯身	14.5	(6.0)	6.0	口縁部 体部～底部	3/4	良好	緻密	◎	△					×			にぶい橙	黒褐	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
653	56A14	SD605	5·6	土師器	杯身	14.9	8.7	5.4	口縁部 体部～底部	1/3 4/5	良好	緻密	○	△	△			△				にぶい橙	黒	口～底：ミガキ（光沢あり）	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理体部外面のタテ方向のミガキは暗文状
654	56A4	SD605	6	土師器	杯身	(15.6)		(5.8)	口縁部 体部～底部	1/8 1/2	良好	緻密	×	△							×	にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
655	57A16 57A21	SD605	6 5	土師器	杯身				口縁部 体部～底部	1/7 1/2	良好	緻密	△	○							×	にぶい赤褐	にぶい黄橙			
656	56A4	SD605	6	土師器	杯身	15.3	8.4	6.3	口縁部 体部～底部	1/3 2/3	良好	普通	△	△	×							にぶい橙	にぶい褐	口：ヨコナデ→ミガキ 体：ケズリ→ミガキ	口：ヨコナデ→ミガキ　体～底：ミガキ	
657	56A15	SD605	4·5	土師器	杯身	(20.7)			口縁～体部	1/8	良好	普通	△	△					×			にぶい褐	黒褐	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
658	56A20	SD605	6	土師器	杯身	(16.4)			口縁～体部	1/7	良好	普通	△	○								にぶい橙	黒	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
659	56A15	SD605	5·6	土師器	杯身	(15.7)			口縁～体部下部	1/6	良好	普通	×	○								明赤褐	黒褐	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	内面に黒色処理
660	56A25	SD605	6	土師器	鉢	(17.3)			口縁～体部	1/9		普通	△	○	×							にぶい褐	にぶい褐	口：ヨコナデ・ミガキ　体：ミガキ	口：ハケ・ミガキ　体：ミガキ	
661	56A20	SD605	6	土師器	杯身	13.3		5.7	口縁～底部	1/7	良好	緻密	×	△					×			橙	黒褐		口～底：ミガキ	内面に黒色処理
662	56A25	SD605	6	土師器	杯身	15.1		(5.3)	口縁～底部	1/2	不良	普通	×	△								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ	
663	56A3·4 56A7·9 56A15	SD605	6 6 5·6	土師器	杯身	14.8	(5.8)	5.3	口縁～底部	1/2	良好	緻密	△	△					×			にぶい橙	黒褐	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
664	56AZ 56A2	SD605	5·6 5·6	土師器	杯身	(13.4)			口縁～体部		良好		△	△								にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
665	56A20	SD605	6	土師器	杯身	12.9		5.3	口縁～体部	1/4	良好	緻密	△	△						×		にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	口縁部外面と内面に黒色処理
666	57A11 57A16 56A20	SD605	6 6 6	土師器	杯身	(16.3)		(5.0)	口縁～体部 底部	1/4 1/2	良好	粗	×	△						×		にぶい橙	黒	底：ヘラ記号「×」か	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
667	56AZ23 56A3	SD605	6 6	土師器	杯身	13.2	3.6	5.6	口縁部 体部	1/3 2/3	良好		△	△								にぶい褐	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
668	56A4	SD605	5·6	土師器	杯身	(13.2)	(8.6)	5.4	口縁部 体部～底部	1/9 2/3	良好	緻密	△	△					×			灰黄褐	黒	口：ヨコナデ　体～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
669	56A15	SD605	2·3	土師器	杯身	(14.9)		(5.6)	口縁～体部 底部	1/8 1/2	良好	普通	△	△								にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
670	56A3 56A9	SD605	6 6	土師器	鉢	14.4	5.3	6.5	口縁～底部	9/10	良好	やや粗	△	○						×		にぶい褐	黒	口：ヨコナデ・ハケ　体：ハケ・ナデ	口～底：ハケ→ミガキ	内面に黒色処理重量感あり
671	56A14·15 57A20	SD605	5·6 6	土師器	鉢	13.6	5.2	6.3	口縁～底部	3/4	良好	やや粗	△	×								にぶい褐	黒	口：ヨコナデ　体：ハケ→ナデ　底：ナデ	口～底：ハケ→ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
672	56A15	SD605	5·6	土師器	鉢	9.7		5.2	口縁～底部	1/3	良好	普通	○	△								にぶい褐	黒	口～体：ミガキ　底：ナデ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
673	56A9	SD605	6	土師器	鉢	12.1		7.1	口縁～底部	1/3	良好	緻密	×	△						×		にぶい褐	黒	口：ヨコナデ→ミガキ　体：ナデ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
674	56A9	SD605	6	土師器	壺	9.7			口縁部	1/4	良好	普通	△	△								にぶい橙	黒	口：ミガキ	口：ミガキ	内面に黒色処理
675	56A9	SD605	5·6	土師器	壺				体部～底部	1/2	良好	緻密	△	×	△						×	にぶい褐	褐灰	体～底：ミガキ	体：ナデ、ハケ	底部外面に黒色処理
676	56AZ24	SD605	3·5	土師器	壺	11.1			口縁～体部上部	ほぼ残	良好	密	×	△					×			にぶい橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
677	56A4	SD605	6	土師器	壺	15.9			口縁～体部上部	1/4	良好	緻密	△									にぶい褐	にぶい褐	口：ミガキ	口：ミガキ	

土器観察表（6）

報告No	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
678	56A9	SD605	6	土師器	壺		4.7		体部下部～底部	残	良好	粗	△	○							△	にぶい橙	黒	体：ミガキ・ケズリ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
679	56A15	SD605	5·6	土師器	壺		(5.7)		体部下部～底部	1/3	良好		×	△					×			にぶい橙	褐灰	体：ミガキ	体：ミガキ	内面に黒色処理状のスス付着
680	56A5	SD605	2	土師器	無蓋高杯	15.6	9.7	8.5	杯部 脚部上部 脚部下部	1/4 残 小片	良好	普通	△	△	×				×			橙	黒	口：ヨコナデ→ミガキ 体～脚：ハケ・ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり） 脚：指オサエ・ヨコナデ	杯部内面に黒色処理
681	56A9 56A10	SD605	3 4·5	土師器	無蓋高杯	13.5	8.4	9.1	杯部 脚部	2/3 ほぼ残	良好	普通	×	×	×							にぶい黄橙	黒褐	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ　脚：ナデ	杯部内面に黒色処理か
682	56A20	SD605	6	土師器	高杯		8.5		脚部	1/2	良好	緻密	×	△							×	にぶい褐	黒	脚：ミガキ	体：ミガキ（光沢あり）　脚：ナデ	杯部内面に黒色処理
683	56AZ24	SD605	2·3	土師器	高杯		7.8		脚部	ほぼ残	良好	普通	×	×					×			にぶい橙	にぶい橙	脚：ミガキ・ヨコナデ	体：ヨコナデ　脚：ミガキ（光沢あり）	杯部内面に黒色処理
684	56A15	SD605	5	土師器	高杯		8.9		脚部	ほぼ残	良好	普通	×	△							×	橙	にぶい橙	脚：ハケ	脚：ハケ→ヨコナデ	
685	56A10	SD605	5	土師器	高杯		6.6		杯部下部～脚部	7/8	良好	普通	○	○								にぶい赤褐	暗赤灰	体：ミガキ　脚：ハケ・ナデ	体：ミガキ　脚：ナデ	杯部内面に黒色処理
686	56A25	SD605	6	土師器	高杯		(7.8)		脚部	1/3	良好	普通	×	△								橙	黒	脚：ヨコナデ	脚：ヨコナデ	
687	56A9	SD605	6	土師器	高杯		5.0		脚部のみ	ほぼ残	良好	普通	△	×					×			にぶい褐	黒	脚：ハケ	体：ハケ→ミガキ　脚：ハケ→ナデ	杯部内面に黒色処理
688	56A15	SD605	5·6	土師器	高杯		6.5		脚部	5/6	良好	普通	×	○	×							橙	黒	脚：ミガキ	体：ミガキ（光沢あり）　脚：ヨコナデ	杯部内面に黒色処理
689	56A25	SD605	6	土師器	高杯		9.9		脚部	ほぼ残	良好	普通	△	△								橙	橙	脚：ミガキ	体：ミガキ　脚：ナデ	
690	56A15	SD605	5	土師器	高杯		8.9		脚部のみ	ほぼ残	良好	普通	×	△					△			にぶい橙	にぶい橙	脚：ミガキ	脚：ハケ・ナデ	
691	56A15	SD605	5	土師器	高杯		8.1		脚部	ほぼ残	不良	緻密	×	△						△	△	橙	褐灰			
692	56A3 56A9	SD605	6 6	土師器	有蓋高杯				杯部～脚部上部	1/3	良好	普通	△	○					×			橙	黒	口：ミガキ　体：ケズリ→ミガキ 脚：ミガキ	体：ミガキ（光沢あり）　脚：ナデ	杯部内面に黒色処理
693	56A20	SD605	6	土師器	杯身		(5.0)		体部下部～底部	1/3	良好	普通	△	×								にぶい褐	黒	体：ミガキ	体～底：ミガキ　底：ヘラ記号「×」か	杯部内面に黒色処理
694	56A3 56A15	SD605	6 5·6	土師器	杯身				体部下部～底部	1/2	良好	緻密	△	△								にぶい褐	黒	体：ミガキ 底：沈線６本による幾何学文（ヘラ記号）	底：ミガキ	内面に黒色処理
695	56A20	SD605	6	土師器	杯身		(5.6)		体部下部～底部	1/4	良好	密	△	△								にぶい黄橙	黒	体：ミガキ　底：ヘラ記号「×」か	底：ミガキ	内面に黒色処理
696	57A11	SD605	6	土師器	杯身		8.2		体部下部～底部	1/2	良好	普通	×	△								にぶい褐	黒	体：ミガキ　底：ハケ	体～底：ミガキ	内面に黒色処理
697	56A9	SD605	5·6	土師器	鉢		4.7		体部下部～底部	残	不良	緻密	×	△							◎	にぶい黄橙	にぶい黄橙	体：ナデ	体：ハケ・ナデ	底部有孔土器
698	56A10	SD605	2·3	土師器	甕	17.1			口縁部～体部	ほぼ残	良好	普通	○	◎	×						○	明赤褐	橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口～体：ハケ	体部外面下半にスス付着
699	56A20 56A25 57A11	SD605	5·6 6 6	土師器	甕	18.9			口縁部 体部上～中	1/18 1/2	良好	普通	×	×					×			にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ 体：ハケ→ケズリ→ミガキ	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	体部外面下半にスス付着
700	56A20	SD605	5·6	土師器	甕	16.4			口縁～体部	1/2	良好	普通	×	△							△	にぶい赤褐	にぶい赤褐	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
701	56A5	SD605	2·3	土師器	甕	(16.8)			口縁～体部上部	1/5	不良	普通	△	△					×		△	橙	にぶい黄橙	口：ナデ　体：ハケ	口：ナデ　体：ハケ	
702	56AZ24	SD605	2·3	土師器	甕	(15.2)			口縁～体部下部	1/4	不良	普通	△	×					×		△	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	
703	56A4	SD605	6	土師器	甕	(14.7)			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	×	△	×			×			△	明赤褐	にぶい橙	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
704	56A15	SD605	5·6	土師器	甕	(16.8)			口縁部 体部上部	1/12 1/4	良好	普通	×	△								灰褐	にぶい褐	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	外面にスス付着
705	56A14	SD605	5·6	土師器	甕	(14.4)			口縁部	1/4	良好	普通		△			×				△	にぶい橙	にぶい橙	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
706	56A9 56A10 56A20	SD605	2·3 5·6 6	土師器	甕	15.9	6.4	25.2	口縁～底部	3/4	良好 硬質	普通	○	△	×						△	橙	橙	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ・ケズリ 底：ナデ	口～底：ハケ	
707	56AZ23 56A3	SD605	6 6	土師器	甕	(15.2)			口縁～体部上部	1/2	良好	普通	×	△			△				△	にぶい橙	にぶい黄橙	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	口：ハケ・ナデ 体：ケズリ・ミガキ・ハケ	外面スス付着
708	57A21	SD605	6	土師器	甕	(16.8)			口縁～体部上部	1/4	良好	緻密	×	△				×	×		△	橙	にぶい橙	体：ハケ		
709	56A4 56A15	SD605	3 5·6	土師器	甕	(12.2)			口縁～体部	1/3	良好	普通	×	×	×						△	にぶい橙	にぶい橙	口：ナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ハケ	体部外面下半にコゲ、スス付着
710	56AZ24	SD605	2·3	土師器	甕	(14.7)			口縁部 体部上部	1/18 1/4	良好	普通	×	△	×						△	灰黄褐	灰黄褐	口：ヨコナデ　体：ハケ、ミガキ	口：ナデ　体：ハケ	
711	56A9	SD605	4	土師器	甕		9.8		底部	2/3	良好	普通		△	×						○	にぶい褐	にぶい黄橙	体：ナデ　底：ナデ	底：ナデ	
712	56A20	SD605	6	土師器	甕		7.2		底部	残	良好	普通	△	△		×					△	にぶい褐	黒褐	体：ハケ・ナデ　底：ナデ	底：ハケ	
713	57A11	SD605	6	土師器	甑				把手	1	良好	普通	×	△							△	灰黄褐	灰黄褐	ナデ		
714	56A15 56A20	SD605	5·6 5·6	土師器	壺				体部	ほぼ残	良好	普通	×	△	×				×			にぶい褐	にぶい黄橙	体：ハケ→ミガキ	体：ナデ・指ナデ	
715	56A20	SD605	6	土師器	高杯				杯部	1/4	良好	普通		△							○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	
716	56A25	SD605	5	土師器	小型鉢	(1.2)		(2.6)	口縁～底部	小片	良好	普通		×								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～底：ナデ	口～体：ナデ　底：ハケ	
717	56A10	SD605	5·6	土師器	小型鉢		3.0		底部	小片	良好	緻密	×	△							△	にぶい黄橙	にぶい黄橙	体：ミガキ　底：ナデ	体：ハケ　底：指オサエ	
718	54B3	SD604	7	土師器	杯蓋	14.9			体部～口縁	1/2	不良	普通	×	○			△		△		△	明赤褐	橙	体：ハケ　口：ミガキ	体～口：ミガキ	

土器観察表（7）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 ｻ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
719	54A24 54B4	SD604	5 7	土師器	杯身	(11.6)	(6.0)	(4.7)	口縁～底部	1/4	良好 硬質	密	△	×	×				×			橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
720	54A24 54A25	SD604	7 6	土師器	杯身	14.0		4.4	口縁部 体部～底部	1/6 1/2	良好	密	△	△					×			にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
721	54A25	SD604	5	土師器	杯身	(13.9)			口縁～体部	1/6	良好	密	×	△								にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	内面に黒色処理
722	54A25 54A25	SD604	6 4	土師器	杯身	12.6			口縁～体部	2/3	良好	緻密	×	△					×			にぶい橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	体部内面に黒色処理
723	55B	SD604	3	土師器	杯蓋				天井部	残	良好	普通	×	○								にぶい橙	黒	つまみ：ケズリ→ミガキ　体：ミガキ	天：ミガキ	内面に黒色処理
724	54A20 54A25 55B	SD604	7 4･6 5	土師器	杯身	15.3		6.3	口縁部 体部～底部	1/5 1/2	良好 硬質	緻密 精良	△	△								にぶい黄橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ	内面に黒色処理
725	54A25	SD604	6･7	土師器	杯身	15.8	5.8	5.6	口縁～底部	1/2	良好	緻密 精良	○	△					×			にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	
726	54B24 54A20	SD604	4 7	土師器	杯身	14.6			口縁～体部	2/3	良好	緻密 精良	×	△							×	明赤褐	明赤褐	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	
727	54A24 54B3 54B4	SD604	6･7 4･5 4	土師器	無蓋 高杯	14.4			杯部	1/2	良好	緻密 精良	×	△								にぶい褐	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ	口縁部外面と内面に黒色処理
728	54A25	SD604	6･7	土師器	無蓋 高杯	15.8			杯部	1/2	良好	普通	×	△					×			にぶい橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
729	54A25 55B 54B5	SD604	5･6 3･5 7	土師器	無蓋 高杯	14.8	10. 9	10.6	杯部 脚部上部 脚部下部	2/3 残 1/3	良好	普通	△	△							×	にぶい黄橙	黒	口：ヨコナデ→ミガキ・沈線２本 体：ケズリ→ミガキ 脚：ケズリ・ヨコナデ	口～体：ミガキ（光沢あり） 脚：指ナデ・ヨコナデ	杯部内面に黒色処理
730	54A24 54A25 54B3	SD604	5 7	土師器	高杯	14.0	(4.5)	4.4	脚部	ほぼ 残	良好	普通	×	△					×			にぶい橙	黒	口～底：ミガキ	口～底：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
731	54A20 54A25	SD604	7 7	土師器	高杯		9.8		脚部	2/3	良好	普通	△	△					×			にぶい橙	黒	脚：ミガキ・ヨコナデ	体：ミガキ　脚：ヨコナデ・指ナデ	体部内面に黒色処理
732	54A25	SD604	7	土師器	高杯		6.7		脚部	残	良好	緻密	×	△								にぶい橙	黒	脚：ミガキ・ヨコナデ	体：ミガキ（光沢あり）　脚：ヨコナデ	体部内面に黒色処理
733	54A24 54B3	SD604	4 4･7	土師器	甕				口縁下部 体部	1/8 1/2	良好	普通	△	○					×		△	にぶい橙	灰褐	口：ハケ→ヨコナデ　体：ハケ・ケズリ	口～体：ハケ	体部外面上半1/3、体部内面下半1/6にスス付着
734	54B3	SD604	7	土師器	甕	(14.4)	6.0	26.8	口縁部 体部 底部	1/8 3/4 残	良好	普通	×	△					×		○	にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ・ケズリ・ナデ	口～底：ハケ	外面1/4にコゲ、スス付着
735	54A24	SD604	567	土師器	甕	17.3			口縁～体部上部	1/4	良好	普通	△	×							△	にぶい赤褐	にぶい赤褐	口：ハケ→ヨコナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
736	54A4 54A23･24 54B3	SD604	6･7 6･7 5･7	土師器	甕	14.5			口縁～体部	1/2	良好 硬質	普通	△	△	×							にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ→ミガキ	口：ヨコナデ・ハケ　体：ハケ	内外面器面剥落
737	54B25	SD604	7	土師器	甕	(18.0)	5.0	20.5	口縁部 体部～底部	1/18 3/4	良好	普通	△	×	△				×		△	黒	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ 底：ケズリ・ナデ	口：ヨコナデ　体：ナデ・ハケ	外面上半にスス付着
738	54A24	SD604	4	土師器	小型 鉢	(6.9)	4.3	4.3	口縁部 体部～底部	小片 1/2	良好	普通		×								にぶい橙	にぶい橙	口～体：ハケ	口～体：ナデ	
739	54A24	SD604	6･7	土師器	小型 鉢	6.5	4.8	3.3	口縁部 底部	1/4 残	良好	普通		△								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～体：ハケ	口～底：ナデ	
740	54B2	SD602	3	土師器	小型 鉢	(8.9)	5.7	3.5	口縁～底部	1/6	良好	普通		△							△	明赤褐	明赤褐	口～体：ハケ・ミガキ	口～体：ハケ・ナデ	
741	41A12	流路１	4	土師器	壺		3.2		体部下部 底部	1/8 残	良好	緻密 精良	×	△							○	にぶい黄橙	灰黄褐	体：ミガキ　底：ナデ	体：ナデ	
742	43A2	流路１	4	土師器	杯蓋	(14.2)			体部～口縁部	1/5	良好	普通		×								にぶい橙	にぶい橙	体～口：ミガキ	体～口：ミガキ	
743	40B8	流路１	4	土師器	無蓋 高杯	(14.0)			杯部	1/7	良好	緻密 精良		△								にぶい黄橙	黒	口～体：ミガキ	口～体：ミガキ（光沢あり）	内面に黒色処理
744	40B3	流路１	4	土師器	高杯		8.5		脚部のみ	残	良好	密	×	△	×				×			橙	黒	脚：ハケ	脚：ハケ	体部内面に黒色処理
745	56A4	SD605	3	須恵器	杯蓋	13.5		5.3	天井部～口縁部	1/2	良好	普通	×							◎		灰	灰白	天：ロクロケズリ・沈線２～３本 体～口：ロクロナデ	天：ロクロナデ→直線ナデ 体～口：ロクロナデ　口端：沈線	
746	56A3	SD605	3	須恵器	杯蓋	(14.2)			口縁～体部	1/8	不良	粗								△		灰	灰	体～口：ロクロナデ・沈線	体～口：ロクロナデ　口端：沈線	
747	56A	SD605		須恵器	杯蓋	(13.0)			天井部～口縁部	1/5	不良	粗								◎		灰褐	灰褐	天：ロクロケズリ　体～口：ロクロナデ・沈線	天～口：ロクロナデ	
748	56A9	SD605	5	須恵器	杯蓋	(13.5)			天井部～口縁部	1/5	良好	普通								×		ｵﾘｰﾌﾞ黒	灰白	天：ロクロケズリ　体～口：ロクロナデ・沈線	体～口：ロクロナデ	

土器観察表（8）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
749	56AZ23	SD605	6	須恵器	杯蓋	(12.8)		(3.6)	天井部～口縁部	1/12	良好	普通								△		灰	灰	天：ロクロケズリ　体～口：ロクロナデ・沈線	天～口：ロクロナデ	
750	56A2		Ⅲ上	須恵器	杯蓋	(12.9)			体部～口縁部	1/8	良好	粗								△		灰	灰	体～口：ロクロナデ・沈線	体～口：ロクロナデ　口端：沈線	
751	56A3	SD605	1	須恵器	杯蓋	13.6		4.1	口縁部	1/18	不良	やや粗	×							○		灰オリーブ	灰白	天：ロクロケズリ　体～口：ロクロナデ	天～口：ロクロナデ	
	56A15		4·5						体部～天井部	1/2																
752	56A4	SD605	2·3	須恵器	杯蓋	(19.7)			体部～口縁部	1/6	不良	粗	×							○		灰	暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	体～口：ロクロナデ	体～口：ロクロナデ	
753	56A20	SD605	5	須恵器	杯身	(12.8)			口縁～底部	1/8	良好	緻密								×		灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：ロクロケズリ	口～底：ロクロナデ	
754	56A9	SD605	6	須恵器	杯身	(13.3)			口縁～体部	1/3	良好	緻密	×							△		ｵﾘｰﾌﾞ黒	灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	体部外面に自然釉
755	56A10	SD605	6	須恵器	杯身	10.3		4.8	口縁部	ほぼ残	良好	普通	×							○		灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：ロクロケズリ	口～体：ロクロナデ	
756	56A20	SD605	6	須恵器	杯身	9.8		4.5	口縁～底部	1/3	良好	粗								△		灰	灰	口：ロクロナデ　体：ロクロナデ・ロクロケズリ　底：ロクロケズリ→ナデ	口端：沈線　口～底：ロクロナデ	
757	56A20	SD605		須恵器	杯身	(12.4)			口縁～体部	小片	不良	緻密								△		灰	灰	口～体：ヨコナデ	口～体：ヨコナデ	
758	56A10	SD605	1	須恵器	杯身	12.1		4.8	口縁～底部	2/3	良好	緻密	×							○		ｵﾘｰﾌﾞ灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ 底：当て道具の同心円文	
759	56A15	SD605	5·6	須恵器	杯身				口縁～体部	1/7	良好	緻密								△		灰黄	灰黄			
760	56AZ25	SD605	1·2	須恵器	無蓋高杯	11.8	8.7	9.0	杯部	1/6	不良	やや粗								△		灰	灰	口～体：ロクロナデ・ロクロケズリ 脚：カキ目・ロクロナデ	口～体：ロクロナデ　脚：ロクロナデ	円形透かし３単位
	56A4		5·6																							
	56A5		2·3						脚部	2/3																
761	56A20	SD605	6	須恵器	無蓋高杯	10.9			口縁～体部	1/4	良好	普通								×		黒	灰	口：ロクロナデ 体：ロクロナデ・櫛描列点文	口：ロクロナデ	
									脚部	なし																
762	56A23		Ⅲ	須恵器	高杯		7.1		脚部	1/6	良好	普通								△		灰	灰	脚：ヨコナデ	脚：ヨコナデ	長方形透かし、１ヶ所断片のみ残存
	57A6	SD605	3																							
763	56A15	SD605	5·6	須恵器		(9.9)			口縁部（小片）	小片	良好	緻密								×		暗灰	暗灰	口：ロクロナデ	口：ロクロナデ	
764	56A20	SD605	6	須恵器			4.2		頸部下部～底部	残	良好	緻密								○		灰	灰	口頸：ヨコナデ　体：ヨコナデ・カキ目・ハケ　底：直線ナデ	口頸：ロクロナデ　体～底：ナデ	
765	57A11	SD605	6	須恵器			4.2		口縁部	1/6	良好	緻密								×		灰	灰	口～頸：ロクロナデ	口～頸：ロクロナデ	横瓮か
766	57A21	SD605	5·6	須恵器	甕				体部	小片	良好	緻密								○		灰	緑灰	体：タタキ目	体：同心円文	
767	56A15	SD605	3·4	須恵器	甕				体部	小片	良好	緻密	×							△		灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰白	体：タタキ目	体：同心円文	
768	54B3	SD604	57	須恵器	杯蓋	14.3		4.7	天井部～口縁部	5/6	良好	緻密	×							○		灰	灰	天井部～体部：ロクロケズリ・ロクロナデ	天～口：ロクロナデ	
769	54A25	SD604	6·7	須恵器	杯蓋	14.3		4.3	天井部～口縁部	7/8	良好	緻密	△							△		灰	灰	天：回転ヘラ切り　体～口：ロクロナデ	天～口：ロクロナデ	胎土内オリーブ灰色重量感あり
	55B		5																							
770	54B3	SD604	7	須恵器	杯身	(10.4)			口縁～体部	1/6	良好	粗	×	○						△		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	
771	54B3	SD604	5	須恵器	杯身	11.5		4.9	口縁～底部	4/5	不良	やや粗								○		灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：ロクロケズリ・ヘラ記号「｜」	口～底：ロクロナデ	MT15 型式
772	54B2	SD604	3	須恵器	杯身	(114.)			口縁～体部	1/6	良好	普通								△		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	TK10 ～ TK43 型式
773	54B	SD604	7	須恵器	杯身	(10.8)	(5.6)	(4.5)	口縁～体部	1/6	良好	普通	△							◎		灰	灰	口：ロクロナデ　体：ロクロナデ・ロクロケズリ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	
774	54A22	SD604	3	須恵器	杯身	(10.5)			口縁～体部	1/6	良好	緻密								×		暗灰	灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	
775	54A22·23	SD604	3	須恵器	杯身	(12.6)			口縁～体部	1/8	不良	粗								△	×	灰	明ｵﾘｰﾌﾞ灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	
776	55B	SD604	5	須恵器	杯身	11.2		4.0	口縁～底部	1/2	良好	緻密	×							○		灰赤	赤黒	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～体：ロクロナデ	
777	54A2	SD604	4	須恵器	杯身	(11.8)			口縁～体部	1/8	不良	やや粗								◎		ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	口～体：ロクロナデ・ロクロケズリ	口～体：ロクロナデ	
	54A22		3																							
778	54A25	SD604	7	須恵器	杯身	12.8			口縁～底部	3/4	不良	やや粗								○		灰	青灰	口：ロクロナデ　体：ロクロナデ・ロクロケズリ　底：ロクロケズリ	口～底：ロクロナデ	
779	54A4	SD604	4	須恵器	杯身	12.2		4.2	口縁～底部	2/3	良好	粗								△		灰	灰	口：ロクロナデ　体：ロクロナデ・ロクロケズリ	口～底：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	
780	54B1・2	SD604	1·3	須恵器	壺	20.3			口縁～体部		良好 硬質	緻密								△		ｵﾘｰﾌﾞ灰	灰	口頸：突帯間に櫛描列点文 体上：カキ目→ミガキ 体上～中：タタキ→カキ目　体下：タタキ	口頸：ロクロナデ　体：同心円文→ナデ	口頸～体部上部外面と口頸部内面に自然釉かかる、複数の破片から図上復元
	54B3		4·6																							
	54B4		4																							
781	54A22	SD604	3	須恵器	壺				体部	1/6	良好	普通								△		灰白	灰	体：ロクロナデ・ロクロケズリ	体：ロクロナデ	
	54B3		3																							
782	54A22		3	須恵器		(12.4)			口縁部	小片	良好	普通								×		灰	灰	口頸：ロクロナデ	口頸：ロクロナデ	
783	54A25	SD604	7	須恵器		(10.8)			口縁部	1/6	良好	普通	×							△		暗灰	灰	口頸：ロクロナデ	口頸：ロクロナデ	提瓶か
784	54B2	SD604	3	須恵器	高杯		8.2		脚部下部	1/9	良好	緻密	×							×		ｵﾘｰﾌﾞ黒	灰ｵﾘｰﾌﾞ	脚：カキ目・ロクロナデ	脚：ロクロナデ	
785	54A21	SD604	3	須恵器	甕				体部	小片	良好	普通								△		灰	灰	体：カキ目・平行叩目文	体：同心円文・ナデ	
	54A25		3																							
786	53AZ12	SD601	3	須恵器	杯蓋				口縁部	小片	良好	普通								×		灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰	体～口：ロクロナデ	体～口：ロクロナデ	

土器観察表（9）

報告№	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
787	51A4	SD601	3	須恵器	杯蓋				天井部～体部	小片	不良	普通	×							△		緑灰	緑灰	天～体：ロクロナデ・沈線	天～体：ロクロナデ	
788	52AZ19	SD601	3	須恵器	杯身	(10.4)			口縁～体部	小片	良好	緻密								×		灰	暗青灰	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	
789	53AZ11 53AZ16 52AZ17	SD601 SD601 SD602	2･3 3 1	須恵器	杯身				体部～底部	1/4	良好	普通								○		灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	体：ロクロナデ・ロクロケズリ 底：ロクロケズリ	体～底：ロクロナデ	
790	52AZ23･24	SD601	3	須恵器	無蓋高杯				杯部	小片	良好	普通								×		ｵﾘｰﾌﾞ灰	灰	体：ロクロナデ・櫛描列点文	体：ロクロナデ	
791	52AZ21	SD601	3	須恵器	無蓋高杯				杯部	小片	良好	普通								△		灰	暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	体：ロクロナデ・櫛描列点文	体：ロクロナデ	
792	50A1	SD601	3	須恵器	甕	(9.9)			口縁部	小片	良好	普通								△		灰	灰	頸：櫛描列点文	口～頸：ロクロナデ	
793	51AZ	SD601	3	須恵器	壺				体部	小片	良好	普通	×	×						×		灰白	灰白	体：櫛描列点文・沈線	体：ロクロナデ	
794	51A4	SD601	3	須恵器	甕				体部	小片	良好	緻密								△		暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	灰	体：平行叩目文・カキ目	体：同心円文	
795	42A4 43A17 43A24	流路1	4 4 2	土師器	甕				口縁部 体部～底部	1/12 1/4	不良	普通	△	○							×	にぶい黄橙	にぶい黄	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	
796	43A21	流路1	2	土師器	甕	(17.6)			口縁～体部上部	1/2	不良	緻密		○							○	にぶい橙	灰黄褐		口：ヨコナデ　体：ハケ	
797	43A7	流路1	5	土師器	甕	(14.7)			口縁～体部上部	1/4	良好	粗		△	△				×			褐	黒褐	口：ヨコナデ　体：ケズリ	口：ヨコナデ　体：ナデ	
798	41A13	流路1	4	土師器	甕	(16.5)			口縁～体部上部	小片	良好	普通	×	△							△	にぶい黄褐	にぶい褐	口：ヨコナデ　体：ハケ	口：ヨコナデ　体：ナデ・ハケ	
799	40A18	流路1	1	土師器	甑	(23.0)			口縁部	1/18	不良	緻密		×								橙	にぶい橙	口：ハケ	口：ハケ	
800	43A21･22 43B2	流路1	5 2	土師器	壺		(7.1)		体部～底部	1/2	不良	普通	△	○	×	△						にぶい橙	にぶい橙	体：ハケ・ミガキ	体：ハケ	
801	42AZ23 42A20	流路1	4 4	土師器	甕		8.1		体部下部 底部	1/3 残	不良	普通	×	○	×						△	にぶい橙	浅黄	体：ハケ・ナデ　底：ナデ	体：ハケ	
802	43B1	流路1	5	土師器	甕		7.6		底部	3/4	良好	緻密		△	×							橙	橙	体：ハケ　底：ハケ・ナデ	体：ハケ	
803	43A1 43A21 42B5	流路1	5 3 4	土師器	鉢	(15.2)	(7.6)	(11.2)	口縁～底部	1/4	不良	普通	×	◎		×					○	にぶい橙	黄灰	口：ヨコナデ　体：ハケ・ミガキ 底：ケズリ→ナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
804	43B1	流路1	1	土師器	鉢	14.7			口縁～体部片	1/3	不良	緻密		△							×	橙	橙	口～体：ハケ	口～体：ハケ	
805	43B2	流路1	2	土師器	鉢	11.9			口縁～体部	1/3	不良	普通		△	×							にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ・沈線　体：ハケ	口～体：ハケ・ナデ	
806	43A22	流路1	5	土師器	鉢	(14.4)			口縁～体部上部	1/4	不良	緻密		×	×							にぶい橙	橙	口～体：ヨコナデ・ミガキ	口～体：凹線・ミガキ	
807	40B13	流路1	1	土師器	鉢	(11.7)	6.1	10.3	口縁～体部上部 体部下部～底部	1/5 ほぼ残	不良	普通	×	△		×					△	にぶい褐	橙	口：ヨコナデ　体：ミガキ　底：ナデ	口～体：ナデ・ハケ　底：ハケ	
808	42A4 42A11	流路1	4 3	土師器	鉢	13.1	7.7	5.8	口縁～体部 底部	残 2/5	良好	普通	×	△							◎	にぶい橙	にぶい橙	口～体：ナデ　底：ナデ	口～底：ナデ	
809	43A21･22 43B1	流路1	5 5	土師器	鉢	9.4	5.4	5.2	口縁～底部	1/2	不良	普通		○	△							橙	にぶい黄橙	口～体：ナデ・ミガキ　底：ナデ	口～底：ミガキ	
810	43A22 43B1	流路1	5 1	土師器	鉢	(11.7)		3.9	口縁～体部	1/4	不良	緻密		△	×							にぶい橙	にぶい黄橙	口～体：ナデ・ミガキ	口～体：ミガキ	
811	43A1	流路1	1	土師器	壺	10.6			口縁～体部上部	1/4	不良	緻密	×	△							○	橙	橙	口：ヨコナデ　体：ハケ・ナデ	口：ヨコナデ　体：ナデ	
812	43A21･22 43B1	流路1	5 5	土師器	鉢	8.4			口縁～体部上部	2/3	不良	緻密 精良		○								橙	橙	口：ヨコナデ　体：ハケ・ミガキ・ナデ	口：ヨコナデ　体：ハケ	
813	42A15	流路1	4	須恵器	杯蓋	16.3		3.8	天井部～口縁部	3/4	良好	普通	△							×		黄灰	灰白	天：ロクロケズリ　体：ロクロナデ	天：ロクロナデ→直線ナデ 体～口：ロクロナデ	
814	41A5	流路1	3	須恵器	杯蓋	(12.1)			口縁部	1/6	良好	普通								△		灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	体～口：ロクロケズリ・ロクロナデ	体～口：ロクロナデ	体部外面に墨書「□」
815	41AZ24	流路1	2	須恵器	杯蓋	(12.9)			体部～口縁部	1/5	不良	普通								△		ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	体～口：ロクロナデ	体～口：ロクロナデ	
816	41A19	流路1	3	須恵器	有台杯	11.8	7.4	4.5	口縁～底部	1/2	良好	普通			×					○		灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	高台外端接地
817	43A13	流路1	4	須恵器	無台杯	12.8	8.5	3.8	口縁～底部	1/2	良好	普通								◎		ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	
818	41A12	流路1	4	須恵器	無台杯		8.8		底部～体部下部	2/3	良好	普通	△							○		灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～体：ロクロナデ 底：ロクロナデ→直線ナデ	
819	39B4	流路1	1	須恵器	壺	10.9			口頸～体部	1/4	良好	普通	×							△		灰	暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	口：ヨコナデ　体：タタキ	口～体：ヨコナデ	
820	40B8	流路1	2	土師器	無台杯	12.4	5.6	4.0	口縁～底部	残	不良	普通	×	○		×			△			にぶい橙	にぶい橙	口～体：ロクロナデ　底：回転糸切り	口～底：ロクロナデ	
821	41A21	流路1	2	土師器	無台杯	(14.1)	(6.8)	(5.5)	口縁～体部	1/12	不良	普通	×			×			×			にぶい橙	にぶい橙	口～体：ロクロナデ　底：回転糸切り	口～底：ロクロナデ（平滑仕上げ）	

土器観察表（10）

報告No.	出土位置 グリッド	出土位置 遺構名	出土位置 層位	種別	器種	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 器高	残存部位	残存率	焼成	胎土	鉱物 石	鉱物 長	鉱物 黒	鉱物 角	鉱物 チ	鉱物 海	鉱物 褐	鉱物 白	鉱物 他	色調 外面	色調 内面	調整・文様等 外面	調整・文様等 内面	備考
822	40A12 40A19・20	流路１	3 1	土師器	無台杯	11.7	5.4	3.8	口縁～底部	1/2	不良	普通	△	△		×			×			橙	橙	口～体：ロクロナデ　底：回転糸切り	口～底：ロクロナデ（平滑仕上げ）	
823	53A19・20	SD603	3	須恵器	有台杯	(16.8)			口縁～体部	1/6	良好	普通								△		にぶい黄	浅黄	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	
824	52A		Ⅲ	須恵器	有台杯	(14.6)	(11.1)	(4.5)	口縁～体部 底部	1/8 1/5	良好	緻密		△						×		灰黄	にぶい黄橙	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	
825	37B1		Ⅲb	須恵器	有台杯？		(10.5)		体部下部～底部	1/5	良好	普通								△		灰	黄灰	体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	体～底：ロクロナデ	体部下端に漆状付着物
826	30B15		Ⅲ	須恵器	有台杯	(11.8)	(8.1)	(3.7)	口縁～体部 底部	1/10 1/2	不良	やや粗		×						△		灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	底部外面に墨書「依」
827	30A14		Ⅲ	須恵器	無台杯	(11.0)	(7.5)	(2.8)	口縁～体部 底部	1/6 1/2	良好	普通		△						△		灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	
828	26B1		Ⅲ	須恵器	無台杯	12.6	7.2	2.8	口縁～体部 底部	2/3 残	不良	普通		△								灰	黄灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～体：ロクロナデ	
829	31B6		Ⅲ	須恵器	無台杯	(11.3)	(6.5)	(2.9)	口縁～体部 底部	1/8 1/2	不良	普通	×	△	×							灰	灰	口～体：ロクロナデ　底：回転ヘラ切り	口～底：ロクロナデ	
830	53B4	SD603	3	唐津	Ⅲ		3.3		体部～底部	残	良好	緻密								×		灰黄褐	灰黄褐	体：ロクロナデ	体～底：ロクロナデ	灰釉高台端部にキザミ２か所
831	52AZ25	SD603	3	瀬戸美濃	緑釉小皿	(10.3)	(5.5)	(2.2)	口縁～底部	1/12	良好	緻密								×		灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰ｵﾘｰﾌﾞ	底：回転糸切り		
832	53AZ	SD603	3	越中瀬戸	Ⅲ		(4.6)		体部～底部	残	良好	緻密								△		橙	橙	体：ロクロナデ　底：ロクロケズリ	体～底：ロクロナデ	褐色の釉
833	52AZ25	SD603	3	珠洲	甕		11.1		底部	残	良好	粗	△	○							×	灰	灰			
834	50AZ20	SD602	1	越中瀬戸	Ⅲ	(12.4)			口縁～体部	小片	良好	緻密								×		暗赤褐	暗赤褐			褐色の釉
835	52AZ	SD601	3	珠洲	鉢				口縁～体部上部	1/18	良好	普通								○		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
836	52AZ16	SD602	1	珠洲	鉢				口縁部	1/26	良好	粗								△		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
837	53AZ14	SD603	3	珠洲	鉢				口縁部	1/18	良好	普通		×						△		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
838	4T			珠洲	鉢				口縁～体部上部	1/12	良好	普通	×							△		ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
839	18C		Ⅲ	珠洲	鉢				口縁部	1/36	良好	普通	×							×		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
840	36A13		Ⅲa	珠洲	鉢				口縁部	1/18	良好	粗								△		灰	灰	口～体：ロクロナデ	口端：波状文　口～体：ロクロナデ・卸目	
841	5T			珠洲	鉢				口縁～体部上部	1/18	良好	普通	×							×		灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰	口～体：ロクロナデ	口：波状文、ロクロナデ・卸目	
842	49AZ		Ⅱ	珠洲	鉢				口縁～体部上部	1/18	良好	粗	×							△		灰	灰ｵﾘｰﾌﾞ	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ、４条1単位の卸目	
843	24A		Ⅱ	青磁	Ⅲ		(6.3)		体部～高台部	小片	良好	緻密								×		緑灰	緑灰			緑釉透明釉
844	24A25		Ⅲ	青磁	椀				口縁～体部	小片	良好	緻密								×		ｵﾘｰﾌﾞ灰	ｵﾘｰﾌﾞ灰			緑釉
845	27B23		Ⅲ	白磁	椀		4.7		体部～底部	2/3	良好	緻密								×		浅黄	浅黄			白地に透明釉
846	32A14		Ⅲ	白磁	多角杯		3.7		体部～底部	2/3	良好	緻密								×		灰白	灰白			白地に透明釉
847	27A8		Ⅲ	白磁	多角杯	7.7	3.7	3.0	口縁～体部 高台部	1/3 残	良好	普通								×		灰白	灰白			白地に透明釉
848	49A		Ⅱ	白磁	Ⅲ	(9.8)	(4.8)	2.3	口縁～底部	1/4	良好 硬質	緻密	△							△		灰白	灰白			白地に透明釉
849	26A15		Ⅱ	白磁	Ⅲ				体部～高台部	小片	良好	緻密								△		灰白	灰白			白地に透明釉
850	31A6		Ⅲ	李朝	Ⅲ	11.3	4.6	4.0	口縁～高台部	1/4	良好	緻密	△	○						△		黄灰	黄灰	口～体：ロクロナデ	口～底：ロクロナデ	灰釉
851	49AZ		Ⅱ	瀬戸美濃	天目茶碗				口縁～体部	1/12	良好	緻密								△		暗褐	明褐	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	鉄釉小片から図上復元
852	40A		Ⅱ	瀬戸美濃	天目茶碗				口縁～体部	1/7	良好	緻密								○		黒	黒	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	鉄釉小片から図上復元
853	43AZ		Ⅱ	唐津	Ⅲ		4.3		体部下部～底部	残	良好	緻密 精良	×									にぶい黄	灰黄	体：ロクロナデ	底：胎土目４か所	釉
854	40A		Ⅱ	唐津	Ⅲ		4.3	2.85	体部下部～底部	1/8	良好	緻密 精良			×							灰ｵﾘｰﾌﾞ	灰ｵﾘｰﾌﾞ		底：胎土目１か所	灰釉
855	56A3			唐津	Ⅲ		4.3		体部下部～底部	残	良好	緻密 精良	×							△		暗灰黄	暗灰黄		底：胎土目３か所	釉近世溝上層出土
856	44A		Ⅱ	唐津	Ⅲ		3.9		体部下部～底部	残	良好	緻密 精良								△		にぶい黄	にぶい黄		底：胎土目３か所	灰釉体部外面にコゲ、スス
857	26A7		Ⅲ	越前	鉢				口縁部	小片	良好	普通		○					×			灰黄	浅黄	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ　体：卸目	
858	27B24		Ⅲ	越前	鉢				体部		良好	普通		×					×			灰黄	灰黄	体：ロクロナデ	体：ロクロナデ・卸目	
859	27B22		Ⅲ	瓦器					体部	小片	良好	普通	×	△								黒	黒	体：ミガキ・沈線	体：ヨコナデ	
860	26A22		Ⅲ	土師器	Ⅲ	7	4.9	1.6	口縁～底部	3/4	良好	普通								×	×	黒	黒	口～体：ロクロナデ　底：回転糸切り	口～体：ロクロナデ	内外面にコゲ、スス付着
861	23B20			土師器	Ⅲ	8	5.5	1.4	口縁～底部		良好	普通								×		黒	にぶい黄橙	口～体：ロクロナデ	口～体：ロクロナデ	内外面にコゲ、スス内面に漆
862	44A		Ⅲ	土師器	Ⅲ				口縁～体部	1/8	良好	普通	△	×								にぶい黄橙	にぶい黄橙	口：ヨコナデ　体：指オサエ	口～体：ヨコナデ	
863	26A22		Ⅱ	土師器	Ⅲ				口縁～体部	1/9	不良	緻密		×								灰黄褐	灰黄褐	口：ヨコナデ　体：指オサエ	口～体：ヨコナデ	
864	31B24		Ⅲ	土師器	Ⅲ				口縁～体部	1/7	良好	普通	×	△					×			にぶい黄橙	にぶい黄橙	口～体：ヨコナデ	口～体：ヨコナデ	

上層　石器・石製品観察表（1）

報告NO.	出土位置				種別	分類		石材	法量					備考
	地区	グリッド	遺構	層位		分類１	分類２		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	
888	①	56A4	SD605	5	勾玉未製品			滑石	6.40	3.00	1.37	0.70	26.50	子持勾玉未製品
889	①	56A9	SD605	1･2	勾玉未製品			翡翠	2.40	1.50	0.80		5.90	
890	①	54B3	SD604	7	勾玉未製品			翡翠	1.20	0.80	0.50		0.70	
891	①	56A15	SD605	4･5	勾玉未製品			滑石	8.70	5.10	2.00		149.60	
892	①	56A25	SD605	3	勾玉未製品			滑石	6.80	3.60	1.90		48.10	子持勾玉未製品
893	①	56A3	SD605	3	勾玉未製品			滑石	1.26	0.98	0.37		0.60	子持勾玉未製品
894	①	56A3	SD605	2	勾玉未製品			滑石	1.44	0.48	0.32		0.50	
895	①	56A10	SD605	2･3	管玉			緑色凝灰岩	2.16	0.80	0.80		2.90	
896	①	56A8	SD605	1･2	管玉			滑石	1.83	0.68	0.68		1.50	
897	①	56A5	SD605	2	管玉			滑石	1.31	0.67	0.67		1.20	
898	①	56A9	SD605	4･5	管玉			鉄石英	0.45	0.28	0.28		0.18	
899	①	56A20	SD605	5	管玉			緑色凝灰岩	1.01	0.96	0.51		0.80	
900	①	55A	SD604?	覆土	石製模造品	A類	2類	滑石	3.82	1.68	0.47		3.90	
901	①	56A25	SD605	6	石製模造品未製品	A類		滑石	3.10	1.30	0.40		2.70	
902	①	56A3	SD605	4	石製模造品未製品	A類		滑石	2.73	1.50	0.33		0.21	
903	①	56A4	SD605	1	石製模造品未製品	B類		滑石	3.64	2.07	0.55		6.20	
904	①	57A3.4	SD605	6	石製模造品未製品	B類		滑石	2.71	1.73	0.52		0.37	
905	①	56A15	SD605	5･6	石製模造品	B類		滑石	2.50	2.50	0.40	0.30	4.20	
906	①	56A20	SD605	6	石製模造品	B類		滑石	2.30	1.50	0.50	0.32	1.50	
907	①	56A10	SD605	5	石製模造品未製品	B類		滑石	4.14	3.86	1.05		15.60	
908	①	54B	SD604	7	石製模造品	C類		滑石	3.20	1.60	1.60		12.10	
909	①	56A5	SD605	4･5	石製模造品未製品	C類		滑石	2.20	1.10	1.00		6.60	
910	①	56A15	SD605	5	石製模造品未製品	C類		滑石	1.70	1.00	0.90		2.60	
911	①	54A	SD604	7	石製模造品未製品	C類		滑石	2.30	1.40	1.10		5.60	
912	①	55B	SD604	5	石製模造品	A類	1類	滑石	2.30	1.65	0.30		2.30	
913	①	57A21	SD605	6	石製模造品	A類	1類	滑石	2.67	1.94	0.40		2.40	
914	①	56A4	SD605	3	石製模造品未製品	A類		滑石	4.48	3.39	0.47		12.40	
915	①	56A4	SD605	5･6	臼玉	C類		滑石	0.41	0.41	0.31	0.11	0.10	
916	①	56A5	SD605	2･3	臼玉	C類		滑石	0.43	0.43	0.39	0.18	0.10	
917	①	56A4	SD605	2	臼玉	B類		滑石	0.38	0.38	0.29	0.14	0.10	
918	①	56A5	SD605	2･3	臼玉	B類		滑石	0.52	0.52	0.28	0.13	0.10	
919	①	56A2	SD605	2	臼玉	B類		滑石	0.46	0.46	0.30	0.10	0.10	
920	①	56A4	SD605	1	臼玉	B類		滑石	0.47	0.47	0.28	0.09	0.10	
921	①	56A3	SD605	1	臼玉	B類		滑石	0.48	0.48	0.22	0.18	0.10	
922	①	56A5	SD605	2･3	臼玉	B類		滑石	0.47	0.47	0.25	0.18	0.10	
923	①	56A4	SD605	3～5	臼玉	A類		滑石	0.41	0.41	0.16	0.13	0.10	
924	①	56A3	SD605	1	臼玉	A類		滑石	0.41	0.41	0.16	0.14	0.10	
925	①	56A3	SD605	1	臼玉	A類		滑石	0.44	0.44	0.13	0.15	0.10	
926	①	56A4	SD605	3	臼玉	A類		滑石	0.39	0.39	0.13	0.11	0.10	
927	①	56A3	SD605	3	臼玉	A類		滑石	0.35	0.35	0.14	0.17	0.10	
928	①	56A9	SD605	4･5	臼玉	B類		滑石	0.45	0.45	0.24	0.10	0.10	
929	①	56A9	SD605	1	臼玉	C類		滑石	0.65	0.65	0.49	0.10	0.10	
930	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	3類	滑石	0.68	0.68	0.30	0.10	0.20	
931	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	3類	滑石	0.73	0.60	0.29	0.09	0.30	
932	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	3類	滑石	0.71	0.62	0.39	0.09	0.30	
933	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	3類	滑石	0.77	0.76	0.25	0.09	0.20	
934	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	3類	滑石	0.64	0.58	0.26	0.18	0.20	
935	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	3類	滑石	0.92	0.91	0.48		0.70	
936	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	2類	滑石	0.80	0.79	0.42		0.40	
937	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	2類	滑石	0.82	0.74	0.37		0.30	
938	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	2類	滑石	0.85	0.80	0.31		0.30	
939	①	56A3	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	2類	滑石	0.85	0.80	0.30		0.40	
940	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	2類	滑石	0.75	0.66	0.23		0.20	
941	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	2類	滑石	0.68	0.69	0.25		0.20	
942	①	56A9	SD605	4･5	臼玉未製品	B類	2類	滑石	0.74	0.74	0.28		0.20	
943	①	56A4	SD605	4･5	臼玉未製品	B類	2類	滑石	0.80	0.79	0.30		0.40	
944	①	56A4	SD605	1･2	臼玉未製品	B類	2類	滑石	1.20	0.68	0.24		0.40	
945	①	56A9	SD605	5･6	臼玉未製品	B類	1類	滑石	3.59	2.81	0.30		0.58	
946	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	C類	1類	滑石	2.53	1.74	0.31		0.28	
947	①	56A4	SD605	1	臼玉未製品	B類	1類	滑石	2.78	2.18	0.30		3.00	
948	①	56A3	SD605	2	臼玉未製品	B類	1類	滑石	1.71	1.53	0.28		1.60	
949	①	56A4	SD605	2･3	臼玉未製品	B類	1類	滑石	1.82	0.89	0.24		0.80	
950	①	57A6	SD605	3	臼玉未製品	A類	3類	滑石	5.80	6.50	0.14		0.10	
951	①	56A5	SD605	2	小玉			ガラス	0.96	0.96	0.70	0.17	0.90	
952	①	57A6	SD605		小玉			埋木	0.68	0.68	0.64	0.80	0.30	
953	①	56A15	SD605	5	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	4.33	4.33	1.50	0.57	36.00	
954	①	56A15	SD605		紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	5.70	5.55	1.50	0.90	52.00	
955	①	54B3	SD604	7	紡錘車	Ⅱ類	b類	滑石	3.40	3.40	1.00		19.20	
956	①	56A25	SD605	1	紡錘車	Ⅰ類	e類	滑石	3.65	3.70	0.90		20.90	
957	①	56A4	SD605	5･6	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	1.70	3.80	1.70		11.80	
958	①	54A24	SD604	7	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	2.40	2.50	1.20		7.50	
959	①	56A5	SD605	3	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	2.80	2.50	1.80		12.40	
960	①	57A11	SD605		紡錘車未製品	Ⅱ類	4類	滑石	2.20	2.30	0.50		3.90	
961	①	56A10	SD605	1	紡錘車未製品	Ⅱ類	4類	滑石	2.50	0.61	0.55		3.00	
962	①	56A20	SD605	6	紡錘車未製品	Ⅰ類	4類	滑石	4.60	5.40	1.80		49.50	
963	①	56A2	SD605	6	紡錘車未製品	Ⅰ類	3類	滑石	5.20	5.60	2.30		77.70	
964	①	57A11	SD605	3	紡錘車未製品	Ⅰ類	3類	滑石	5.90	7.80	2.50		119.50	
965	①	56A9	SD605		紡錘車未製品	Ⅱ類	3類	滑石	2.20	2.20	0.70		4.30	
966	①	57A11	SD605	3	紡錘車未製品	Ⅰ類	3類	滑石	4.80	5.10	1.30		46.90	
967	①	54A24	SD604	7	紡錘車未製品	Ⅰ類	3類	滑石	3.90	4.05	1.10		21.30	
968	①	56A15	SD605	5	紡錘車未製品	Ⅰ類	3類	滑石	5.50	6.50	1.50		70.70	
969	①	56A4	SD605	2	紡錘車未製品		2類	滑石	3.66	3.52	1.23		22.50	
970	①	56A20	SD605	6	紡錘車未製品		2類	滑石	5.60	6.30	2.65		120.10	
971	①	56A15	SD605	5･6	紡錘車未製品		2類	滑石	5.00	6.50	2.60		115.80	
972	①	56A15	SD605	5･6	紡錘車未製品		1類	滑石	13.60	9.40	3.40		441.30	
973	①	56A4	SD605	6	紡錘車未製品		1類	滑石	16.90	12.00	4.40		801.70	
974	①	56A5	SD605	3	砥石			粗粒砂岩	17.40	10.50	7.60		1312.30	
975	①	57A16	SD605	6	砥石			砂岩	8.30	6.20	3.20		237.20	
976	①	56A20	SD605	6	内磨砥石	A類	1類	砂岩	14.20	29.20	3.90		2042.70	
977	①	56A20	SD605	6	内磨砥石	A類	1類	安山岩	8.00	18.60	2.20		467.30	
978	①	56A5	SD605	2	内磨砥石	A類	1類	砂岩	10.00	7.70	2.60		237.80	
979	①	56A15	SD605	3･4	内磨砥石	A類	1類	砂岩	6.10	10.20	2.25		166.10	
980	①	56A15	SD605	5･6	内磨砥石	A類	1類	砂岩	10.60	21.90	3.70		990.00	
981	①	56A4	SD605	3～5	内磨砥石	A類	1類	安山岩	13.30	17.20	4.40		781.40	
982	①	54A25	SD604	7	内磨砥石	A類	2類	黒色細粒砂岩	12.40	15.60	3.60		725.30	
983	①	56A15	SD605	5･6	内磨砥石	A類	1類	安山岩	9.00	18.20	2.70		55.50	
984	①	56A20	SD605	6	内磨砥石	A類	1類	砂岩	6.90	15.80	2.30		296.90	

上層　石器・石製品観察表（2）

報告NO.	出土位置				種別	分類		石材	法量					備考
	地区	グリッド	遺構	層位		分類１	分類２		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重さ(g)	
985		57A21	SD605	6	内磨砥石	B類		安山岩	9.70	18.40	2.70		74.20	
986		56A20	SD605	6	内磨砥石	B類		安山岩	8.50	15.30	2.10		327.70	
987		57A21	SD605	6	敲石			蛇紋岩	9.20	9.90	5.60		717.30	
988		56A4	SD605	2・3	敲石			砂岩	14.10	4.30	3.30		272.20	
989		45AZ21		Ⅲb	敲石			安山岩	11.70	5.40	4.30		429.20	
990		56A5	SD605	3	軽石製研磨具			軽石	5.50	5.10	2.50		10.40	
991		56A15	SD605	5・6	石核			砂岩	15.40	6.00	5.00		614.00	
992		56A13		Ⅲc	石核			安山岩	11.80	9.20	4.40		701.10	
993	②	42B6		Ⅲb	勾玉			滑石	1.90	1.10	0.45		1.60	
994	②	35B		Ⅲ	勾玉未製品			蛇紋岩	1.90	1.11	0.73		2.30	
995	②	51A2	SD601	3	管玉			滑石	1.84	0.54	0.54		0.90	
996	②	52AZ18	SD601	3	管玉			凝灰岩	1.33	0.73	0.73		1.10	
997	②	52AZ18	SD601	3	管玉未製品			緑色凝灰岩	3.30	1.40	1.10		7.10	
998	②	41B2	流路1	1	石製模造品	A類	1類	滑石	1.98	1.76	0.30	0.10	1.80	
999	②	39A12		Ⅲ	石製模造品	A類	1類	滑石	2.30	1.94	0.33	0.10	2.80	
1000	②	53B	SD601	3	石製模造品	A類	1類	滑石	1.82	1.66	0.28		1.60	
1001	②	52AZ21	SD601	3	剥片			翡翠	1.80	1.30	1.00		3.60	
1002	②	50B10		Ⅲb	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	3.05	3.40	0.90		10.30	
1003	②	39A24	流路1	1	紡錘車	Ⅰ類	b類	滑石	2.85	5.10	1.00		17.20	
1004	②	40A19		Ⅲb	内磨砥石	A類	1類	黒色細粒砂岩	6.60	10.30	1.90		148.50	
1005	②	52AZ16		Ⅲb	内磨砥石	A類	1類	砂岩	5.20	8.40	1.60		94.90	
1006	②	52AZ		Ⅲ	石核			翡翠	8.70	6.60	2.20		219.10	
1007	②	53A25	SD603	3	スタンプ状石器			安山岩	13.70	6.60	6.00		916.00	
1008	②	53A25	SD603	3	石錘			砂岩	19.30	7.15	5.10		951.30	
1009	③	32B14	SD503	1	勾玉			蛇紋岩	2.25	0.86	0.53	0.21	2.00	
1010	③	39A12	SK181	1	管玉			緑色凝灰岩	1.53	0.60	0.60		0.60	
1011	③	37B17		Ⅲb	管玉未製品			緑色凝灰岩	3.30	1.20	1.20		6.60	
1012	③	35B		Ⅲb	管玉未製品			緑色凝灰岩	2.70	1.10	1.10		4.60	
1013	③	37B15	SD512	1	管玉未製品			緑色凝灰岩	2.50	1.20	0.80		3.80	
1014	③	35B5		Ⅲb	管玉未製品			緑色凝灰岩	4.60	2.30	2.30		25.70	
1015	③	32B16		Ⅲb	管玉未製品			緑色凝灰岩	3.80	4.20	2.00		29.30	
1016	③	39A16		Ⅲb	剥片			翡翠	5.50	2.20	2.10		24.30	
1017	③	39A20	SX180	1	砥石			粗粒砂岩	16.40	14.80	9.00		138.50	
1018	③	29B		Ⅲa	砥石			安山岩	3.70	6.70	2.80		77.80	
1019	③	34B9	SD510	2	内磨砥石	A類	4類	砂岩	7.70	13.30	1.50		259.10	
1020	③	34B2		Ⅲb	内磨砥石	A類	3類	砂岩	5.90	4.00	1.20		30.70	
1021	③	47A14		Ⅲb	敲石			砂岩	11.90	5.95	2.80		329.20	
1022		26B21		Ⅲa	砥石			流紋岩	4.40	4.05	0.90		21.50	
1023		41A17		Ⅰ	砥石			流紋岩	10.50	5.30	4.85		378.00	
1024		53AZ25	SD603	3	打製石斧			流紋岩	11.60	6.40	1.35		169.40	
1025		56A	近世積石		凹石			安山岩	20.00	17.20	10.70		1803.70	

土製品・金属製品観察表

報告NO.	出土位置			種別	法量				備考
	グリッド	遺構	層位		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	
865	35B10		Ⅲa	土錘	6.30	3.40	3.10	49.50	
866	57A25	近世積石遺構	上層	土錘	4.20	2.85	2.90	28.10	
867	32B24		Ⅲa	土錘	3.70	3.20	3.10	25.00	
868	53AZ15	SD603	3	煙管 吸口	7.30	1.25	1.20	9.20	
869	30B5		Ⅲa	煙管 雁首	2.10	1.60	1.35	3.00	

銭貨観察表

No.	出土位置		銭貨名	初鋳年(西暦)	王朝名	書体	外径縦	外径横	内径縦	内径横	銭厚	重さ(g)	備考
	グリッド	層位					mm	mm	mm	mm	mm		
870	30B16	Ⅲ	開元通寶	621	唐	真書	24.0	24.1	20.7	20.3	1.2	1.8	
871	48AZ	Ⅱ	皇宋通寶	1039	北宋	真書	23.3	23.1	20.2	20.2	0.9	0.8	
872	25B4	Ⅲ	至和(カ)元寶	1054	北宋	真書	25.6		20.2		1.0	1.4	
873	27A21	Ⅱ	嘉祐元寶	1056	北宋	真書	23.2	23.3	17.5	18.1	1.4	2.0	
874	26A14	Ⅲ	照寧元寶	1068	北宋	篆書	25.3	25.0	20.2	20.4	1.5	2.3	
875	33A16	Ⅲ	照寧元寶	1068	北宋	真書	23.8	24.2	20.0	19.4	1.1	2.6	
876	26A14	Ⅲ	元豊通寶	1078	北宋	篆書	24.3	24.1	18.5	18.9	1.3	3.2	
877	26A7	Ⅲ	元豊通寶	1078	北宋	行書	25.0	25.1	21.1	21.0	1.6	3.0	
878	37B7	Ⅲ	元豊通寶	1078	北宋	行書	24.2	24.3	19.2	19.1	1.8	2.4	
879	25A15	Ⅲ	元祐通寶	1086	北宋	行書	24.5	24.3	19.2	19.1	1.6	3.6	
880	34B12	Ⅲ a	皇宋元寶	1253	南宋	真書	24.8	24.0	23.6	22.9	1.6	2.9	
881	25B7	Ⅲ	洪武通寶	1368	明	真書	21.0	20.7	16.8	16.7	1.4	2.4	
882	27A8	Ⅱ	永楽通寶	1408	明	真書	25.1	24.9	21.2	21.2	1.5	2.5	
883	27A18	Ⅲ	永楽通寶	1408	明	真書	25.0	24.8	20.3	20.9	1.6	3.1	
884	37A20	Ⅲ	永楽通寶	1408	明	真書	25.1	25.5	20.4	21.2	1.5	2.8	
885	24B15	Ⅱ	永楽通寶	1408	明	真書	24.8	25.0	20.4	20.4	1.4	2.4	
886	39A21	Ⅱ	寛永通寶	1636		真書	23.0	22.9	18.6	19.0	1.4	2.1	
887	54B	Ⅱ	寛永通寶	1636		真書	24.9	24.8	19.7	19.7	1.1	2.6	

木製品観察表（1）

報告№	種類	出土位置			(現存)法量(cm)			木取り	樹種	備考	分析NO.（第Ⅶ章2A）
		グリッド	遺構№	層位	長さ(cm)	最大幅口径(cm)	厚さ 高さ(cm)				
1026	櫂	41A16	流路1	3層	31.0	14.0	1.3	柾目	スギ		172
1027	鎌柄	43A17	流路1	3層	40.6	1.6	1.5	削出棒	スギ		184
1028	大足・横木	28B1		Ⅲ層	22.2	3.4	1.4	柾目	スギ		146
1029	大足・縦木？	42A2	流路1	4層	79.0	3.2	6.3	分割材	スギ		174
1030	田下駄	27B1		Ⅲ層	27.3	16.0	3.2	柾目	スギ		120
1031	田下駄	56AZ23	SD605	6層	21.2	9.2	1.8	柾目	スギ		115
1032	田下駄	26A20		Ⅲ層	29.4	8.1	1.8	柾目	スギ		149
1033	刀子柄	40B2	流路1	4層	12.6	2.3	1.0	柾目	スギ		142
1034	下駄・連歯	41A6	流路1	3層	19.4	9.6	3.4	板目	スギ		119
1035	下駄・連歯	43A3	流路1	3層	23.0	11.0	2.6	板目	スギ		114
1036	下駄・連歯	43A7	流路1	3層	20.6	10.3	3.5	板目	スギ		118
1037	下駄・無歯	43A3	流路1	3層	20.0	11.3	3.1	板目	スギ		116
1038	下駄・連歯	56A5	SD603	3層	16.6	9.4	5.1/3.9	板目	スギ		117
1039	皿	40A20	流路1	3層		18.4	2.0	横木地柾目取	ケヤキ		214
1040	漆器椀	33A7		Ⅲ層	-			横木地	ケヤキ		218
1041	漆器椀	42AZ		Ⅱ層		12.2		横木地	カバノキ属		216
1042	漆器椀	27B19		Ⅲ層	底径（5.5）			横木地柾目取	ブナ属		217
1043	漆器椀	53A10	SD603	1層				横木地柾目取	ブナ属		215
1044	漆器椀	53A5	SD603	1層	底径：5.1			横木地柾目取	ブナ属		213
1045	漆器椀	53A20	SD603	3層	底径：6.0			横木地板目取	トチノキ		212
1046	槽	41B	流路1		98.0	48.0	17.0		スギ		144
1047	槽(長方形)	40B3	流路1	4層	102.0	44.0	7.0	底面が板目	スギ		187
1048	槽(長方形)	40B3、8	流路1	4層	102.0	23.0	11.0	底面が板目	スギ		168
1049	槽(長方形)	41A17	流路1	4層	50.0	49.0	11.0	底面が板目	スギ		186
1050	槽(楕円形)	41A16	流路1	4層	79.0	22.0	4.0		スギ		170
1051	槽	40B8	流路1	3層	35.0	14.0	11.0	底面が板目	スギ		169
1052	鉢	40B3	流路1	4層		41.0		底面が板目	スギ		206
1053	桶形容器	41A12	流路1	4層	41.0	19.5	3.0	板目	スギ		171
1054	円形曲物	42A2	流路1	4層	26.8	26.2	4.8	底板:柾目	スギ		219
								側板:柾目	スギ		
1055	円形曲物	43A7	流路1	3層	18.3	17.3	2.5	底板:柾目	スギ		220
								側板:柾目	スギ		
1056	円形曲物	43A11	流路1	3層	17.1	16.3	5.7	底板:柾目	スギ		223
								側板:柾目	スギ		
1057	円形曲物	42A14	流路1	3層	16.2	17.3	2.5	底板:柾目	スギ		221
								側板:柾目	スギ		
1058	円形曲物	40B6	流路1	3層	13.1	13.0	4.0	底板:板目	スギ		248
								側板:柾目	スギ		
1059	円形曲物	43A5	流路1	3層	12.6	11.8	0.8	底板:柾目	スギ		244
								側板:柾目	スギ		
1060	円形曲物	40B6	流路1	4層	12.5	12.1	0.8	底板:柾目	スギ		227
								側板:柾目	スギ		
1061	円形曲物	42A9	流路1	3層	11.5	10.6	2.9	底板:柾目	スギ		222
								側板:柾目	スギ		
1062	円形曲物	41A2	流路1	3層	14.2	13.7	3.3	底板:柾目	スギ		225
								側板:柾目	スギ		
1063	円形曲物	42A15	流路1	3層	12.4	11.9	3.4	底板:柾目	スギ		224
								側板:柾目	スギ		
1064	円形曲物	43A3	流路1	3層	12.5	12.2	4.4	底板:柾目	スギ		226
								側板:柾目	スギ		
1065	円形曲物	42A8	流路1	2層	11.6	11.8	4.7	底板:柾目	スギ		247
								側板:柾目	スギ		
1066	円形曲物	43A5	流路1	3層	12.6	11.7	4.5		スギ		229
1067	円形曲物	42A2	流路1	4層	12.2	12.0	4.3	底板:柾目	スギ		228
								側板:柾目	スギ		
1068	円形曲物底板	43A6	流路1	3層	18.0	18.1	0.8	柾目	スギ		233
1069	円形曲物底板	41A17	流路1	3層	16.8	16.6	0.6	柾目	スギ		231
1070	円形曲物底板	43A11	流路1	3b	20.0	0.2	0.7	柾目	スギ		185
1071	円形曲物底板	43A6	流路1	3層	16.6	16.9	0.7	柾目	スギ		234
1072	円形曲物底板	43A6	流路1	3層	16.0	16.1	0.9	柾目	スギ		235
1073	円形曲物底板	43A8	流路1	3層	16.3	17.9	0.8	柾目	スギ		238
1074	円形曲物底板	43A7	流路1	4層	26.3	26.8	0.7	柾目	スギ		230
1075	円形曲物底板	40B2	流路1	4層	16.7	9.4	0.8	柾目	スギ		196
1076	円形曲物底板	43A12	流路1	4層	15.5	9.4	0.9	柾目	スギ		183
1077	円形曲物底板	42A10	流路1	3層	15.6	12.2	0.7	柾目	スギ		237
1078	円形曲物底板	41A16	流路1	3層	10.5	11.1	0.7	柾目	スギ		242
1079	円形曲物底板	41A6	流路1	3層	10.3	11.2	0.6	柾目	スギ		240
1080	円形曲物底板	43A9	流路1	4層	10.8	11.0	0.5	柾目	スギ		241
1081	円形曲物底板	41A1	流路1	3層	11.3	11.5	0.8				
1082	円形曲物底板	43A8	流路1	4層	11.2	11.5	0.5	柾目	スギ		245
1083	円形曲物底板	41A3	流路1	4層	8.9	9.4	0.9	柾目	スギ		243
1084	円形板	42A15	流路1	4層	11.3	11.2	0.8	柾目	スギ		246
1085	曲物	41A11	流路1	3層	13.7	17.1	1.3	板目	スギ		236
1086	曲物	40B8	流路1	4層	40.3	15.5	1.0	柾目	スギ		167
1087	長方形曲物	41AZ	流路1	2層	28.5	9.2	1.0	板目	スギ	再利用品	249
1088	甑	41A3	流路1	4層	17.5	17.6	0.8	柾目	スギ		232
1089	曲物底板	43A8	流路1	3層	11.3	5.6	0.5	柾目	スギ	再利用品	239
1090	曲物底板	39B20	流路1	2層	12.8	3.9	0.5	板目	スギ	再利用品	250
1091	曲物・把手	42A12	流路1	1層	30.3	2.0	1.1	柾目	スギ		153
1092	箸	43A2	流路1	4層	27.7	0.6	0.5	削出棒	スギ		132
1093	箸	43A2	流路1	4層	23.5	0.6	0.5	削出棒	スギ		133
1094	箸	43A11	流路1	3層	16.4	0.6	0.4	削出棒	スギ		121
1095	箸	43A11	流路1	3層	10.5	0.6	0.4	削出棒	スギ		122
1096	箸	42A15	流路1	4層	5.8	0.6	0.5	削出棒	スギ		123
1097	箸	43A2	流路1	3層	20.0	0.6	0.4	削出棒	スギ		125
1098	箸	43A2	流路1	3層	17.3	0.6	0.4	削出棒	スギ		126

木製品観察表（2）

報告№	種類	出土位置			(現存)法量(cm)			木取り	樹種	備考	分析NO.(第Ⅶ章2A)
		グリッド	遺構№	層位	長さ(cm)	最大幅口径(cm)	厚さ 高さ(cm)				
1099	箸	41A2	流路1	3層	10.6	0.6	0.4	削出棒	スギ		127
1100	箸	42A4	流路1	3層	18.3	0.6	0.4	削出棒	スギ		128
1101	箸	42A14		3層	21.9	0.6	0.5	削出棒	スギ		129
1102	箸	42A10	流路1	4層	10.8	0.6	0.4	削出棒	スギ		130
1103	箸	42A10	流路1	4層	13.9	0.5	0.5	削出棒	スギ		131
1104	箸	43A6	流路1	3層	21.4	0.5	0.4	削出棒	スギ		124
1105	腰掛け	41A12	流路1	4層	39.3	22.3	5.3	板目	スギ		173
1106	御膳の脚	26A23		Ⅲ層	9.3	3.2	2.2	分割材	スギ		147
1107	斎串	40B3	流路1	4層	12.4	2.4	0.3	柾目	スギ		155
1108	舟形	41A11	流路1	4層	56.8	8.6	3.6	底面が柾目	スギ		139
1109	竿	43A16	流路1	3層	193.0	1.5	1.5	削出丸棒	スギ		197
1110	用途不明品	40B3	流路1	4層	10.8	4.2	3.3	削出丸棒	スギ		140
1111	用途不明品	42A19	流路1	1層	8.5	2.1	1.5	板目	スギ		152
1112	用途不明品	41A2	流路1	3層	11.9	3.1	2.5	削出丸棒	スギ		134
1113	用途不明品	41A16	流路1	3層	46.9	11.2	1.2	削出丸棒	スギ		137
1114	用途不明品	42A3	流路1	3層	29.6	1.6	1.6	削出丸棒	スギ		143
1115	用途不明品	42A2	流路1	4層	21.3	1.3	0.8	板目	スギ		159
1116	用途不明品	41A16	流路1	3層	15.6	3.2	2.1	板目	スギ		156
1117	用途不明品	42A15	流路1	3層	14.3	2.1	0.8	柾目	スギ		157
1118	用途不明品	41A8	流路1	4層	28.0	3.5	1.5	分割材	スギ		113
1119	用途不明品	41A21	流路1	4層	28.0	2.5	2.3	分割材	スギ		160
1120	用途不明品	27A21		Ⅲ層	21.8	3.3	1.0	板目	スギ		145
1121	用途不明品	54A24	SD604	7層	30.3	1.9	0.6	柾目	スギ		150
1122	用途不明品	41A1	流路1	2層	15.3	4.0	1.2	板目	スギ		154
1123	用途不明品	54B3	SD604	7層	13.3	13.6	3.7	板目	スギ		151
1124	用途不明品	25A23		Ⅲ層	58.0	1.9	1.2	削出棒	スギ		148
1125	用途不明品	43A7	流路1	4層	20.4	3.4	1.3	柾目	スギ		141
1126	用途不明品	41A8	流路1	4層	29.4	7.9	1.9	柾目	スギ		138
1127	用途不明品	41A18	流路1	4層	15.8	7.8	2.0	底面が板目	スギ		177
1128	用途不明品	43A22	流路1	4層	45.3	6.5	2.8	板目	スギ		165
1129	用途不明品	43A5	流路1	2層	37.4	7.5	1.5	柾目	スギ		164
1130	用途不明品	41A12	流路1	4層	25.7	9.8	0.9	柾目	スギ		161
1131	用途不明品	42A10	流路1	4層	32.9	13.2	1.2	柾目	スギ		175
1132	用途不明品	40B11	流路1	3層	43.6	14.1	2.0	板目	スギ		179
1133	用途不明品	43AZ24	流路1	4層	32.6	20.6	5.3	柾目	スギ		176
1134	用途不明品	41A7	流路1	4層	25.8	20.4	1.3	柾目	スギ		135
1135	用途不明品	43A4	流路1	3層	20.9	1.2	8.7		スギ		136
1136	用途不明品	43A6	流路1	3層	20.5	9.9	2.5	柾目	スギ		158
1137	用途不明品	43A22	流路1	5層	102.5	3.5	1.0	分割材	スギ		188
1138	柱材	41A6･7	流路1	3層	65.5	15.4	5.4	板目	スギ		192
1139	梁･桁材	39B5･40B1	流路1	1層	139.8	16.0	2.8	板目	スギ		205
1140	桁材	40B10	流路1	4層	52.6	12.0	3.8	柾目	スギ		181
1141	梁･桁材	41B2	流路1	3層	146.8	12.4	6.8	板目	スギ		195
1142	五平材	41A8	流路1	2層	74.3	15.0	4.8	板目	スギ		191
1143	梁･桁材	43A22	流路1	5層	37.8	6.2	3.3				
1144	大引	41A18	流路1	3層	198.0	21.0	6.5	柾目	スギ		210
1145	壁材	40B5	流路1	3層	181.7	26.7	2.8	柾目	スギ		211
1146	壁材	43A9	流路1	3層	134.5	15.8	1.7	板目	スギ		193
1147	壁材	40B16	流路1	3層	118.7	15.4	2.1				
1148	壁材	41A11	流路1	3層	50.6	26.0	2.0	板目	スギ		190
1149	板	41A13	流路1	3層	76.5	8.0	1.5	板目	スギ		166
1150	床板	41B2	流路1	3層	164.0	55.0	4.6	板目	スギ		207
1151	サス	41A11	流路1	4層	206.0	9.5	6.0	分割材	スギ		180
1152	垂木	41A16	流路1	4層	69.9	4.9	4.0	板目	スギ		204
1153	垂木	43A16	流路1	3層	118.0	6.4	4.8	削出丸棒	スギ		199
1154	屋根板	40B3･8	流路1	3層	166.8	19.6	1.4				
1155	屋根板	41A6	流路1	3層	108.0	7.3	2.2	板目	スギ		189
1156	棚	40A16	流路1	3層	117.2	22.4	4.8	板目	スギ		194
1157	不明材	40B12	流路1	3層	13.9	6.4	5.3	分割材	スギ		163
1158	不明材	41A4	流路1	4層	13.5	5.9	3.1	柾目	スギ		162
1159	木樋材	40A19･20･25	流路1	1層	154.2	17.8	3.0	板目	スギ		203
1160	作業台	39A24･25	流路1	1層	127.5	14.2	9.5	分割材	スギ		208
1161	作業台	41B1･2	流路1	1層	210.0	16.0	7.0	分割材	スギ		209
1162	不明材	43A8	流路1	3層	86.5	5.7	3.5	分割材	スギ		201
1163	杭	43A2･3	流路1	3層	46.0	5.2	2.3				
1164	杭	40B8	流路1	4層	33.9	7.2	1.0	板目	スギ		178
1165	不明材	40B	流路1	4層	109.0	27.8	2.3	板目	スギ		200
1166	不明材	41A15･20	流路1	4層	86.0	6.0	3.9	板目	スギ		202
1167	不明材	41B7･8		Ⅲ層	106.0	16.9	3.9	柾目	スギ		198
1168	不明材	41A16･17	流路1	4層	88.7	16.4	7.4	板目	スギ		182